

(5) バス停別の利用者率（休日）

図表 136 バス停別の利用者率（休日）



3-4. 現況のまとめ

(1) 社会状況・経済状況

①世帯数・人口数

- ・世帯数は、平成 27 年から大きな変化はみられない。
- ・人口は、平成 27 年から減少傾向である。

②65 歳以上の人口

- ・65 歳以上の人口割合は年々増加している。平成 27 年では 34.3%となっており、高齢化が進んでいる。

③14 歳以下の人口

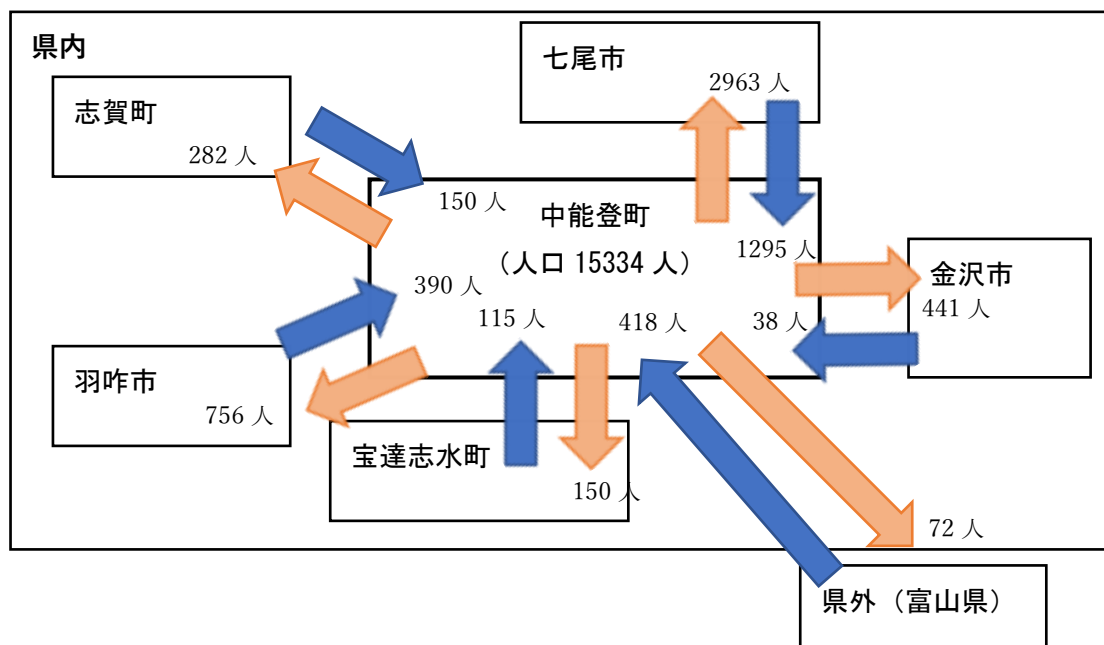
- ・14 歳以下の人口割合は、年々減少しており、平成 27 年では 12.7%となっている。

④地域地区別人口

- ・鳥屋町では、「春木」で減少率が高くなっている。鹿島町では、「坪川」、「二宮あおば台」、「最勝講」、「小田中」で減少率が高くなっている。鹿西町では、「上後山」で減少率が高くなっている。

⑤中能登町における従業通学地の人口集計

- ・中能登町民は七尾市、羽咋市、金沢市の順に多く、通勤・通学している。
- ・七尾市、富山県、羽咋市の順に多く、中能登町へ通勤・通学している。



出典:平成 27 年国勢調査

※上図は 15 歳以上の人口から算出

⑥産業別就業者数

- ・第3次産業に属している就業者が最も多いが、第2次産業の中では、繊維産業を含む製造業が特出して高い。

（２）公共交通の利用状況

①コミュニティバスの年間利用者

- ・平成27年から年々減少傾向であり、平成29年度は54,987人となっている。
- ・とりやコースとこしじコースは、平成27年度から利用者がやや増加している。
- ・ろくせいコースとみおやコースは、平成27年度から減少している。

②コミュニティバスの日別の利用者数

- ・4コース別に日別の利用者数を整理すると、こしじコース（62.9人）、みおやコース（42.3人）、とりやコース（37.7人）、ろくせいコース（34.0人）の順に利用者数が多い。

③コミュニティバスの便別の利用者数

- ・4コースともに、便別状況に変化がみられた。
- ・とりやコースでは、2便、4便、3便の順に多い。
- ・ろくせいコースは、1便、2便、3便の順に多い。
- ・みおやコースは2便、3便、4便の順に多い。
- ・こしじコースは、2便、1便、3便の順に利用者が多い。

④コミュニティバスのバス停別の利用者数

- ・とりやコースでは、道の駅とつくしの里での利用が多くみられる。
- ・ろくせいコースでは、道の駅と健康ハウス 憩での利用が多くみられる。
- ・みおやコースでは、天平の里、アル・プラザ鹿島、道の駅での利用が多くみられる。
- ・こしじコースでは、道の駅、アル・プラザ鹿島、天平の里での利用が多くみられる。

⑤コミュニティバスの乗継券の利用状況

- ・とりやコースとろくせいコースとみおやコースでは、5～10%の利用状況であるが、こしじコースが18%と特出して利用が多い。これはろくせいコース、みおやコースからアル・プラザ鹿島や天平の里に行く場合、道の駅でこしじコースに乗り換えるためであると考えられる。

⑥収支状況

- ・コミュニティバスの収支状況は、経費が増加傾向である一方、料金収入が減少傾向であり、収支率は平成27年度が16.3%、平成29年度が13.7%となり、2.6ポイント低下している。

⑦羽七東線の利用状況

- ・日別の利用状況についてみると、平日 194 人（羽咋駅→七尾駅方面）、199 人（七尾→羽咋駅方面）の利用がみられる。
- ・バス停別の乗降者数をみると、羽咋駅→七尾駅方面では、鹿島小学校、高畠等で利用が多い。また、七尾駅→羽咋駅方面では、鹿島庁舎前、七尾駅前（七尾市）、高畠等で利用が多い。

⑧後山線の利用状況

- ・日別の利用状況についてみると、平日 39 人（能登部駅→志賀中学校方面）、29 人（高浜→能登部駅方面）の利用がみられる。
- ・バス停別の乗降者数をみると、能登部駅→志賀町志賀中学校方面では、能登部駅、高浜（志賀町）での利用が多い。また、高浜→志賀中学校では、高浜（志賀町）と能登部駅での利用が多い。

⑨デマンドタクシーの利用状況

- ・瀬戸花見月コースの利用状況は平成 27 年から年々増加している。また、上後山・下後山コースは年々利用者が減少している。
- ・デマンドタクシー（瀬戸・花見月コース）は、1 日あたり 9.0 人の利用がみられる。
- ・デマンドタクシー（上後山・下後山コース）は、1 日あたり 2.9 人の利用がみられる。

4. 中能登町公共交通に関するアンケート調査結果

4-1. アンケート概要

アンケート調査は下記のとおり実施した。調査に用いた帳票は次ページ以降に示す。

実施期間	令和元年 8 月 9 日（金）～8 月 26 日（月）
調査対象	無作為に選出した高校生以上の町民 3,000 人
回収状況	816 票回収 回収率 27%

中能登町 公共交通に関するアンケート調査

令和元年8月 中能登町

平素は中能登町政に深いご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

近年、公共交通の利用者は減少傾向にあり、中能登町のコミュニティバス「おりひめバス」も利用者数が伸び悩んでいます。一方で、中能登町においても高齢者の免許返納が進んでおり、今後公共交通の担う役割は大きくなることが予想されます。

このような状況を受け、昨年度、中能登町では公共交通の利用に関するアンケート調査を実施いたしました。普段の移動状況や公共交通の満足度の調査結果から、公共交通の利便性向上には各交通機関の連携の必要性が見えてきました。そこで、中能登町では「おりひめバス」や鉄道、路線バス、タクシーなどの連携により、公共交通の利便性向上を目指すための「中能登町地域公共交通網形成計画」を策定いたします。

本アンケート調査は、計画策定に向け、町民の皆さまの公共交通の利用状況や、ご意見をお尋ねする調査です。お忙しいところ恐縮ではございますが、町民の皆さまには、率直なご意見をご回答いただきますようお願いいたします。

【お願い事項】

- ・このアンケートは、お送りした封筒の宛名のご本人 にご回答ください。
- ・ご回答後は、同封の返信用封筒に入れて、令和元年8月26日(月)まで に投函してください。(切手は不要です)

【調査に関する事項】

- ・このアンケートは、町内にお住まいの高校生以上の方から無作為に抽出し、実施しています。
- ・調査結果は統計的に処理し、本調査以外の目的には一切使用いたしません。

【回答の方法】

- ・選択肢の番号(「1.」「2.」「…」)がある場合は、該当する番号に○を付けてください。
- ・回答用の()がある場合は必要に応じてご回答ください。
- ・上記のほか回答例がある場合は、回答例を参考にお答えください。

【お問い合わせ先】

中能登町企画課 担当: 木幡(こばた)
TEL: 0767-74-2806 FAX: 0767-74-1300

お問い合わせ



昨年度実施した「中能登町公共交通に関するアンケート調査」の結果

調査概要

調査期間

平成 30 年 10 月 1 日（月）～10 月 22 日（月）

調査対象

無作為に選出した町民 3000 人及びおりひめバス利用者

調査方法

①郵送 ②おりひめバス車内で配布

回答率

43%

調査結果

●普段の移動について

・ 移動の目的は、買物が約 40%、通勤・通学と通院がそれぞれ約 20%

・ 移動の方法は、約 80%が車（送迎を含む）であり、公共交通の利用は少ない。

・ 移動目的別の公共交通の利用状況を見ると、通勤・通学はＪＲ（7%）、通院はＪＲ（8%）、買物はおりひめバス（4%）が多い。

表 移動手段の割合

移動目的	移動手段の割合						合計
	車 (送迎を含む)	JR	路線バス	おりひめ バス	デマンド タクシー	その他	
買物	86.8%	1.6%	0.7%	3.7%	0.2%	7.0%	100.0%
通勤・通学	85.0%	7.2%	0.7%	0.7%	0.2%	6.2%	100.0%
通院	77.6%	7.8%	4.6%	2.8%	0.2%	7.0%	100.0%

●おりひめバスの満足度について

・ おりひめバスの満足度は「満足」が約 30%、「普通」が約 43%、「不満」が約 27%

・ 不満が多い項目は「乗り換え」「運行便数」「運行ルート」の順

おりひめバスの満足度

0%20%40%60%80%100%

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
16.8%	13.9%	42.6%	21.8%	5.0%

●公共交通を利用する条件について

・ 公共交通を利用する条件は、「行きたいところに行ける」「運行本数が増える」「他の公共交通との乗り換えがしやすくなる」の回答が多い

●高齢者の移動について

・ 65 歳以上の回答者の 8 割が、将来自動車が運転できなくなることが不安と回答

あなたの普段の移動についてお聞きます。

問1 直近1か月の主な外出（石川県内）について、平日、土曜、日曜・祝日に分けて、「行き先 市町名」「行き先 名称」「頻度」「移動方法」を、外出の目的ごとに教えてください。

【記入方法】

- ・別紙の選択肢一覧を参考に「行き先 市町名」「行き先 名称」「頻度」「移動方法」の該当する番号を選んで回答してください。
- ・選択肢一覧から「その他」を選ぶ方は、以下の回答欄に「行き先 市町名」「行き先 名称」「頻度」「移動方法」を具体的に記入してください。
- ・なお、回答数は、曜日・目的ごとの回答欄の数を最大としてください。
(例：平日の買物は3つまで)

【平日】

目的		行き先		頻度 (1つ)	移動方法 (いくつでも)	
		市町名	名称			
平日	記入例	例：「通院」の目的で、「1. 中能登町」の「8. その他（なかのと接骨院）」に「4. 月に2〜3回」、「4. おりひめバス」と「12. 徒歩」で行く場合				
		1	8（なかのと接骨院）	4	4・12	
	買物	①				
		②				
		③				
	通院	①				
		②				
		③				
	余暇 娯楽 飲食	①				
		②				
	通勤 通学	①				

【土曜】

土曜	買物	①				
		②				
	通院	①				
		②				
	余暇 娯楽 飲食	①				
		②				

【日曜・祝日】

	目的		行き先		頻度 (1つ)	移動方法 (いくつでも)
			市町名	名称		
日 曜 祝 日	買物	①				
		②				
		③				
	余暇 娯楽 飲食	①				
		②				
		③				

中能登町の公共交通についてお聞きます。

問2 JR七尾線 についてお聞きます。

(1) あなたは、これまでに JR七尾線 を利用したことがありますか。(1つに○)

1. ある 2. ない ⇒ 問3へ

(2) (1) で「1. ある」と回答した方にお聞きます。

JR七尾線 について、①から⑰の項目の満足度を教えてください。(1つに○)

※⑮⑯の乗り換えに関する項目は、該当する方のみお答えください。

※全体の満足度も忘れずにお答えください。

	1 満足	2 やや 満足	3 普通	4 やや 不満	5 不満
【回答例】①1日あたりの運行便数	1	2	3	4	5
①1日あたりの運行便数	1	2	3	4	5
②通勤・通学時間の便数	1	2	3	4	5
③始発時刻	1	2	3	4	5
④終発時刻	1	2	3	4	5
⑤ダイヤのわかりやすさ	1	2	3	4	5
⑥ダイヤの正確さ	1	2	3	4	5
⑦運行ルート	1	2	3	4	5
⑧目的地までの乗車時間	1	2	3	4	5
⑨最寄駅までの距離	1	2	3	4	5
⑩運賃	1	2	3	4	5
⑪運行情報の分かりやすさ (ダイヤ・ルート・運賃など)	1	2	3	4	5
⑫待合施設的环境(屋根・ベンチなど)	1	2	3	4	5
⑬車内の快適性(バリアフリーなど)	1	2	3	4	5
⑭乗務員の接遇	1	2	3	4	5
⑮路線バスへの乗り換え	1	2	3	4	5
⑯おりひめバスへの乗り換え	1	2	3	4	5
⑰全体の満足度	1	2	3	4	5

皆さまにお聞きします。

問5 昨年度実施した公共交通に関するアンケートでは、おりひめバスの「乗り換え」「運行便数」「運行ルート」を不満に思う意見が多く挙げられました。
そこで、以下に示す再編の方向性について、あなたが良いと思うものを1つ選んでください。

①乗り換えについて

現在おりひめバスは、「道の駅 織姫の里」でおりひめバス同士の乗り換えが、同時刻でできるダイヤとなっています。このため、JR や路線バスとの乗り換えダイヤは不便な状況にあります。

a)おりひめバスと JR (1つに○)

1. 現在のように、道の駅でおりひめバス同士の乗り換えが同時刻でできるダイヤ
2. JR とおりひめバスの乗り換えを考慮したダイヤとし、道の駅での乗り換えは考慮しない
3. どちらでも良い
4. どちらを優先すべきかわからない

b)おりひめバスと路線バス (1つに○)

1. 現在のように、道の駅でおりひめバス同士の乗り換えが同時刻でできるダイヤ
2. 路線バスとおりひめバスの乗り換えを考慮したダイヤとし、道の駅での乗り換えは考慮しない
3. どちらでも良い
4. どちらを優先すべきかわからない

②おりひめバスの便数と、運行日について (1つに○)

1. 2時間に1便のダイヤで、毎日運行
2. 1時間に1便のダイヤで、1日おきに運行
3. どちらでも良い
4. どちらを優先すべきかわからない

③ルート1周の所要時間と、乗り換えの有無について (1つに○)

1. 1周1時間のルートが、乗り換え拠点で同時刻に接続しているルート(図1)
2. 1周が2時間で 乗り換えなく移動ができるルート(図2)
3. どちらでも良い
4. どちらを優先すべきかわからない

例)

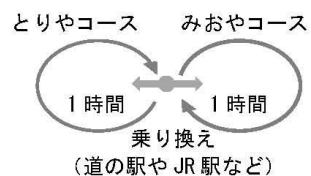


図 1

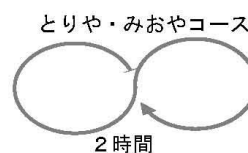


図 2

問6 あなたが、これまでより JR、路線バス、おりひめバス、デマンドタクシーなどの公共交通を利用するようになるためには、どのような利用促進の取り組みがあったら良いと思いますか。(いくつでも○)

1. 公共交通の乗り方の周知・体験会の実施
2. わかりやすくダイヤ・ルートを示した冊子の発行
3. スマートフォンなどでダイヤや位置情報、運賃などを確認できるサービスの配信
4. 公共交通利用者が町内施設やイベントで特典を得られる仕組みづくり
5. 公共交通機関同士が連携した電子決済の導入
6. 待合環境の改善
7. その他()
8. 特にない

運転免許証の返納 についてお聞きます。

問7 あなたは、どのような状況になったらご自身の運転免許証を返納すると思いますか。(いくつでも○) なお、運転免許証の返納を考えていない方は、「9. 運転免許証の返納は考えていない」に○をつけてください。

1. 現在、運転免許証の返納を考えている
2. 自分の運転に不安を感じた時
3. () 歳になった時
4. 中能登町の運転免許証の自主返納に対する支援を受けられる年齢(70 歳)になった時※
5. 家族などに返納をすすめられた時
6. 健康上の理由などで運転ができなくなった時
7. その他()
8. 既に運転免許証の返納をしている
9. 運転免許証の免許返納は考えていない

※中能登町は運転免許証の自主返納者に対して、中能登町商品券(12,000 円分)とコミュニティバス回数券 55 回分を交付しています

問8 あなたが、将来運転免許証を返納した際に、どのようなサービスがあると良いと思いますか。(いくつでも○)

1. 運転免許返納者のための公共交通の定期券などが発行される
2. 便数が増えるなどにより、公共交通が便利になっている
3. 公共交通の乗車場所までの移動に対するサポートがある
4. 買い物などの荷物の運搬のサポートがある
5. 気軽に乗れるタクシーがある(具体的に:)
6. その他()

あなたご自身についてお聞きます。

皆さまにお聞きます

問 9 性別			
1. 男性	2. 女性		
問 10 年齢			
1. 10代	2. 20代	3. 30代	4. 40代
5. 50代	6. 60代	7. 70代	8. 80代以上
問 11 居住地区			
1. 鹿島地区	2. 鳥屋地区	3. 鹿西地区	
郵便番号()			
問 12 職業			
1. 会社員	2. 公務員	3. 自営業	4. パート・アルバイト
5. 専業主婦・主夫	6. 高校生・高専生	7. 専門学校生・短大生・大学生・大学院生	
8. 無職	9. その他()		
問 13 運転免許証の有無			
1. 持っている	2. 持っていない	3. 運転免許証を返納した	
問 14 自由に使うことができる自家用車・バイクの所有状況			
1. 自家用車とバイクを所有している	2. 自家用車を所有している		
3. バイクを所有している	4. どちらも所有していない		
問 15 外出の際に送迎をしてくれる家族や知人の有無			
1. いる	2. いない		

中能登町の公共交通に関するご意見、ご要望がありましたらご自由にお書きください。

アンケート調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

問 1 の選択肢一覧

問 1 はこれらの選択肢から該当する番号を選んで、アンケート用紙 3～4 ページの【平日】【土曜】【日曜・祝日】それぞれの回答欄にご記入ください。

行き先 市町名	1. 中能登町 2. 七尾市 3. 羽咋市 4. 金沢市 5. かほく市 6. 志賀町 7. 宝達志水町 8. その他 ⇒ 回答欄に具体的に記入してください			
行き先 名称	【買物】 1. アル・プラザ鹿島 2. どんたくエブリィ鳥屋店 3. 道の駅 織姫の里 4. イオンモール かほく 5. マックスバリュ羽咋店 6. 食文化新鮮館 鹿西館 7. ホームセンターロッキー 8. パロー羽咋店 9. マツモトキヨシ鹿島店 10. ホームセンターコメリ鳥屋店 11. その他 ⇒ 回答欄に具体的に記入してください 【通院】 1. 能登総合病院 2. 恵寿総合病院 3. 安田医院 4. かじ内科クリニック 5. なかお内科医院 6. 国立病院機構 七尾病院 7. 金沢医科大学病院 8. その他 ⇒ 回答欄に具体的に記入してください 【余暇・娯楽・飲食】 1. 道の駅 織姫の里 2. 天平の里 3. 古墳公園とりや 4. 健康ハウス憩 5. ふるさと創修館 6. カルチャーセンター飛翔 7. つくしの里 8. その他 ⇒ 回答欄に具体的に記入してください 【通勤・通学】 行き先の名称を回答欄に具体的に記入してください			
頻度	1. 週 4～5 回 2. 週 2～3 回 3. 週 1 回 4. 月に 2～3 回 5. 月 1 回 6. 月 1 回未満			
移動 方法	1. 車（自ら運転） 2. 車（送迎） 3. J R 4. おりひめバス 5. 路線バス 6. タクシー 7. デマンドタクシー 8. スクールバス 9. バイク 10. 行き先施設の送迎バス 11. 自転車 12. 徒歩 13. その他			

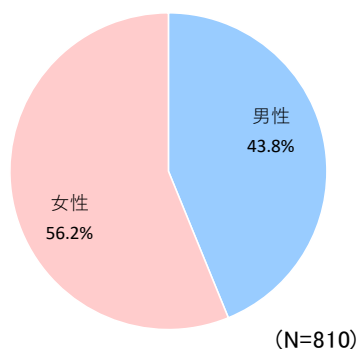
4－2．アンケート結果

(1) 回答者の属性

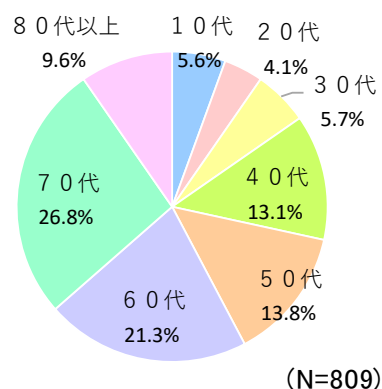
回答者の性別は男性が 43.8%、女性が 56.2%であった。回答者の年齢は「70 代」が最も多く 26.8%、次いで「60 代」が 21.3%、「50 代」が 13.8%であった。

職業は、「無職」が最も多く 32.2%、次いで「会社員」が 24.1%、「パート・アルバイト」が 12.7%であった。

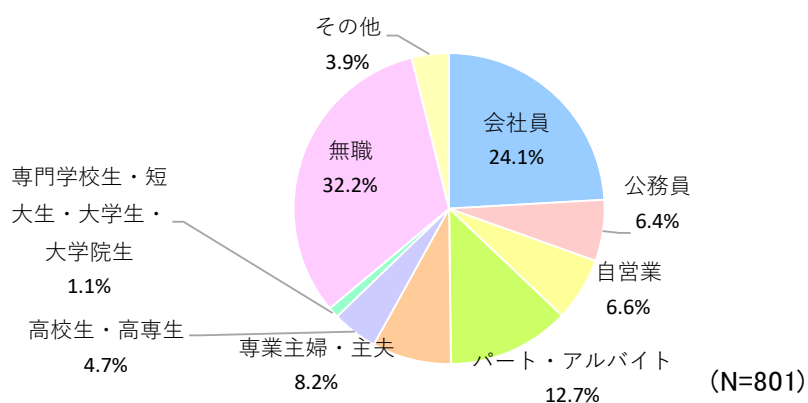
図表 137 性別



図表 138 年齢



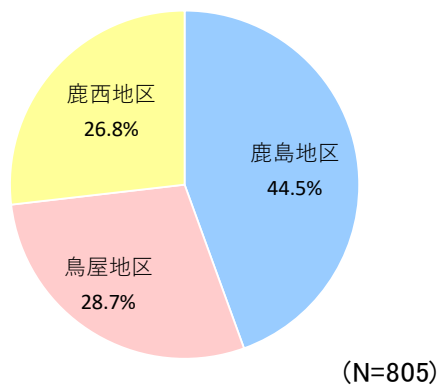
図表 139 職業



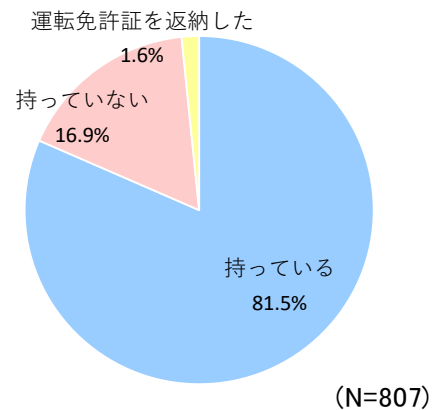
回答者の居住地区は鹿島地区が 44.5%、鳥屋地区が 28.7%、鹿西地区が 26.8%であった。運転免許証を持っている割合は 81.5%、自家用車およびバイクのいずれかまたは両方を所有している割合は 82.6%であった。

送迎してくれる人の有無については、75.7%が「いる」、24.3%が「いない」と回答している。

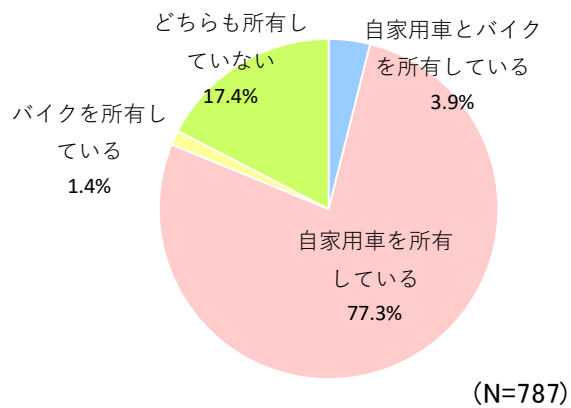
図表 140 居住地区



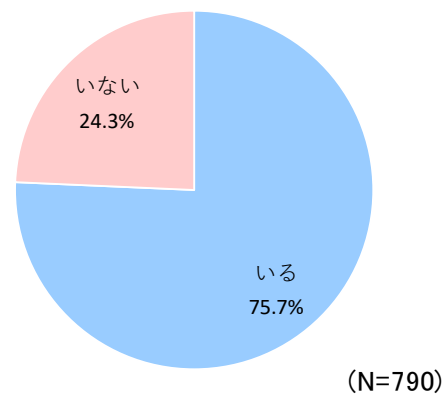
図表 141 運転免許証の有無



図表 142 自家用車とバイクの所有状況



図表 143 送迎してくれる人の有無



（２）普段の移動

①平日の移動

１）買い物（３つまで）

平日の買物の行き先は「アル・プラザ鹿島」が最も多く 379 件（32.5%）であった。次いで「どんたくエブリィ鳥屋店」が 192 件（16.5%）、「ホームセンターロッキー」が 101 件（8.7%）であった。

移動手段は「車（自ら運転）」が最も多く 976 件（76.2%）であり、公共交通の利用は「おりひめバス」が最も多く 30 件（2.3%）であった。

居住地区別の買い物の行き先は、どの地区においても「アル・プラザ鹿島」が最も多いが、鳥屋地区は「どんたくエブリィ鳥屋店」、鹿西地区は「食文化新鮮館 鹿西館」の件数が他の地区と比較して多くなっている。

図表 144 平日の買い物（市町名）

買物:市町名	(N=1250)	
	票数	%
中能登町	888	71.0%
七尾市	169	13.5%
羽咋市	106	8.5%
金沢市	21	1.7%
かほく市	28	2.2%
志賀町	13	1.0%
宝達志水町	18	1.4%
その他	7	0.6%
計	1250	100.0%

図表 145 平日の買い物（行き先）

買物:名称	(N=1166)	
	票数	%
アル・プラザ鹿島	379	32.5%
どんたくエブリィ鳥屋店	192	16.5%
道の駅 織姫の里	39	3.3%
イオンモール かほく	21	1.8%
マックスバリュ羽咋店	49	4.2%
食文化新鮮館 鹿西館	56	4.8%
ホームセンターロッキー	101	8.7%
パロー羽咋店	21	1.8%
マツモトキヨシ鹿島店	72	6.2%
ホームセンターコメリ鳥屋	20	1.7%
その他	216	18.5%
計	1166	100.0%

図表 146 平日の買い物（頻度）

買物:頻度	(N=1140)	
	票数	%
週4～5回	128	11.2%
週2～3回	320	28.1%
週1回	279	24.5%
月に2～3回	262	23.0%
月1回	104	9.1%
月1回未満	47	4.1%
計	1140	100.0%

図表 147 平日の買い物（移動方法）

買物:移動方法	(N=1281)	
	票数	%
車(自ら運転)	976	76.2%
車(送迎)	120	9.4%
J R	9	0.7%
おりひめバス	30	2.3%
路線バス	4	0.3%
タクシー	6	0.5%
デマンドタクシー	2	0.2%
スクールバス	2	0.2%
バイク	5	0.4%
行き先施設の送迎バス	2	0.2%
自転車	26	2.0%
徒歩	33	2.6%
その他	66	5.2%
計	1281	100.0%

■行き先名称その他 代表的な施設名

どんたくアスティ店(32 件)、アルビス羽咋宝達志水店(17 件)、どんたくナッピー店(12 件)

【地区別 行き先・移動手段】

図表 148 平日の買い物（鹿島地区）

買物:名称 (N=531)		
	票数	%
アル・プラザ鹿島	184	34.7%
どんたくエブリイ鳥屋店	57	10.7%
道の駅 織姫の里	26	4.9%
イオンモール かほく	9	1.7%
マックスバリュ羽咋店	27	5.1%
食文化新鮮館 鹿西館	16	3.0%
ホームセンターロッキー	57	10.7%
パロー羽咋店	7	1.3%
マツモトキヨシ鹿島店	42	7.9%
ホームセンターコメリ鳥屋店	3	0.6%
その他	103	19.4%
計	531	100.0%

◆公共交通利用者の行き先

- ・JR
 - イオンモールかほく 1件
 - どんたくアスティ店 1件
 - 金沢フォーラス 1件
- ・おりひめバス
 - アル・プラザ鹿島 6件
 - どんたくエブリイ鳥屋店 1件
 - イオンモールかほく 1件
 - 食文化新鮮館 鹿西館 1件
 - ホームセンターロッキー 2件
 - パロー羽咋店 1件
 - マツモトキヨシ鹿島店 2件
 - どんたくアスティ店 1件
- ・路線バス
 - アル・プラザ鹿島店 1件
 - ますや衣料（七尾市）1件

図表 149 平日の買い物（鳥屋地区）

買物:名称 (N=321)		
	票数	%
アル・プラザ鹿島	100	31.2%
どんたくエブリイ鳥屋店	82	25.5%
道の駅 織姫の里	5	1.6%
イオンモール かほく	8	2.5%
マックスバリュ羽咋店	3	0.9%
食文化新鮮館 鹿西館	2	0.6%
ホームセンターロッキー	19	5.9%
パロー羽咋店	2	0.6%
マツモトキヨシ鹿島店	24	7.5%
ホームセンターコメリ鳥屋店	11	3.4%
その他	65	20.2%
計	321	100.0%

◆公共交通利用者の行き先

- ・JR
 - 金沢フォーラス 1件
 - イオンモールかほく 1件
- ・おりひめバス
 - アル・プラザ鹿島 5件
 - 道の駅 織姫の里 1件
 - ホームセンターロッキー 1件
 - マツモトキヨシ鹿島店 1件
 - どんたくエブリイ鳥屋店 1件

図表 150 平日の買い物（鹿西地区）

買物:名称 (N=299)		
	票数	%
アル・プラザ鹿島	89	29.8%
どんたくエブリイ鳥屋店	51	17.1%
道の駅 織姫の里	7	2.3%
イオンモール かほく	3	1.0%
マックスバリュ羽咋店	18	6.0%
食文化新鮮館 鹿西館	38	12.7%
ホームセンターロッキー	22	7.4%
パロー羽咋店	12	4.0%
マツモトキヨシ鹿島店	6	2.0%
ホームセンターコメリ鳥屋店	6	2.0%
その他	47	15.7%
計	299	100.0%

◆公共交通利用者の行き先

- ・JR
 - めいてつエムザ・大和 1件
- ・おりひめバス
 - アル・プラザ鹿島 5件
 - ホームセンターロッキー 1件
 - ケーズデンキ中能登マイタウン店 1件

2) 通院（3つまで）

平日の通院の行き先は「能登総合病院」が最も多く 134 件 (24.2%) であった。次いで、「恵寿総合病院」が 84 件 (15.2%)、「かじ内科クリニック」が 47 件 (8.5%) であった。

移動手段は「車（自ら運転）」が最も多く 380 件 (68.2%) であった。公共交通の利用は「JR」が 13 件 (2.3%)、「おりひめバス」が 10 件 (1.8%)、「路線バス」が 5 件 (0.9%) であった。

地区別の行き先と公共交通の利用をみると、七尾市及び羽咋市への通院は、鳥屋地区と鹿西地区は JR、鹿島地区は路線バスを利用している傾向にある。

図表 151 平日の通院（市町名）

通院:市町名 (N=554)		
	票数	%
中能登町	161	29.1%
七尾市	314	56.7%
羽咋市	37	6.7%
金沢市	26	4.7%
かほく市	7	1.3%
志賀町	0	0.0%
宝達志水町	1	0.2%
その他	8	1.4%
計	554	100.0%

図表 152 平日の通院（行き先）

通院:名称 (N=554)		
	票数	%
能登総合病院	134	24.2%
恵寿総合病院	84	15.2%
安田医院	39	7.0%
かじ内科クリニック	47	8.5%
なかお内科医院	7	1.3%
国立病院機構 七尾病院	4	0.7%
金沢医科大学病院	17	3.1%
その他	222	40.1%
計	554	100.0%

図表 153 平日の通院（頻度）

通院:頻度 (N=488)		
	票数	%
週4～5回	23	4.7%
週2～3回	13	2.7%
週1回	30	6.1%
月に2～3回	46	9.4%
月1回	163	33.4%
月1回未満	213	43.6%
計	488	100.0%

図表 154 平日の通院（移動方法）

通院:移動方法 (N=557)		
	票数	%
車（自ら運転）	380	68.2%
車（送迎）	69	12.4%
J R	13	2.3%
おりひめバス	10	1.8%
路線バス	5	0.9%
タクシー	8	1.4%
デマンドタクシー	0	0.0%
スクールバス	0	0.0%
バイク	1	0.2%
行き先施設の送迎バス	2	0.4%
自転車	9	1.6%
徒歩	18	3.2%
その他	42	7.5%

■行き先名称その他 代表的な施設名

藤田医院 (22 件)、森クリニック (15 件)、おくむら内科胃腸科医院 (15 件)、なかのと接骨院 (11 件)、荒井皮ふ科医院 (10 件)

【地区別 行き先・移動手段】

図表 155 平日の通院（鹿島地区）

通院:名称 (N=263)		
	票数	%
能登総合病院	61	23.2%
恵寿総合病院	31	11.8%
安田医院	5	1.9%
かじ内科クリニック	32	12.2%
なかお内科医院	1	0.4%
国立病院機構 七尾病院	3	1.1%
金沢医科大学病院	6	2.3%
その他	124	47.1%
計	263	100.0%

◆公共交通利用者の行き先

- ・JR
 - 金沢医療センター 1件
- ・おりひめバス
 - 恵寿総合病院 1件
 - かじ内科クリニック 1件
 - 藤田医院 1件
 - 堀江歯科医院 1件
- ・路線バス
 - 能登総合病院 1件
 - 恵寿総合病院 1件
 - かじ内科クリニック 1件
 - 八野田整形外科医院 1件
 - 公立羽咋病院 1件

図表 156 平日の通院（鳥屋地区）

通院:名称 (N=153)		
	票数	%
能登総合病院	46	30.1%
恵寿総合病院	27	17.6%
安田医院	7	4.6%
かじ内科クリニック	11	7.2%
なかお内科医院	3	2.0%
国立病院機構 七尾病院	0	0.0%
金沢医科大学病院	3	2.0%
その他	56	36.6%
計	153	100.0%

◆公共交通利用者の行き先

- ・JR
 - 能登総合病院 2件
 - 山田産婦人科医院 1件
 - 七尾木元歯科医院 1件
 - 公立羽咋病院 1件
- ・おりひめバス
 - 能登総合病院 1件
 - 恵寿総合病院 2件
 - 堂本接骨院 1件

図表 157 平日の通院（鹿西地区）

通院:名称 (N=128)		
	票数	%
能登総合病院	24	18.8%
恵寿総合病院	23	18.0%
安田医院	26	20.3%
かじ内科クリニック	3	2.3%
なかお内科医院	3	2.3%
国立病院機構 七尾病院	1	0.8%
金沢医科大学病院	8	6.3%
その他	40	31.3%
計	128	100.0%

◆公共交通利用者の行き先

- ・JR
 - 能登総合病院 1件
 - 恵寿総合病院 3件
 - 金沢医科大学病院 2件
 - 公立羽咋病院 1件
- ・おりひめバス
 - 恵寿総合病院 1件
 - 鹿寿苑 1件

3) 余暇・娯楽・飲食(2つまで)

平日の余暇・娯楽・飲食の行き先は「道の駅 織姫の里」が最も多く 58 件 (17.1%) であった。次いで「健康ハウス憩」が 26 件 (7.6%)、「古墳公園とりや」が 14 件 (4.1%) であった。

移動方法は「車(自ら運転)」が最も多く 260 件 (69.7%) であった。公共交通の利用は「おりひめバス」が 13 件 (3.5%)、「JR」が 8 件 (2.1%)、「路線バス」が 1 件 (0.3%) であった。

図表 158 平日の余暇・娯楽・飲食(市町名)

余暇娯楽飲食:市町名 (N=360)		
	票数	%
中能登町	208	57.8%
七尾市	63	17.5%
羽咋市	17	4.7%
金沢市	29	8.1%
かほく市	28	7.8%
志賀町	5	1.4%
宝達志水町	1	0.3%
その他	9	2.5%
計	360	100.0%

図表 159 平日の余暇・娯楽・飲食(行き先)

余暇娯楽飲食:名称 (N=340)		
	票数	%
道の駅 織姫の里	58	17.1%
天平の里	10	2.9%
古墳公園とりや	14	4.1%
健康ハウス憩	26	7.6%
ふるさと創修館	10	2.9%
カルチャーセンター飛翔	10	2.9%
つくしの里	1	0.3%
その他	211	62.1%
計	340	100.0%

図表 160 平日の余暇・娯楽・飲食(頻度)

余暇娯楽飲食:頻度 (N=324)		
	票数	%
週4~5回	20	6.2%
週2~3回	45	13.9%
週1回	43	13.3%
月に2~3回	71	21.9%
月1回	76	23.5%
月1回未満	69	21.3%
計	324	100.0%

図表 161 平日の余暇・娯楽・飲食(移動方法)

余暇娯楽飲食:移動方法 (N=373)		
	票数	%
車(自ら運転)	260	69.7%
車(送迎)	41	11.0%
J R	8	2.1%
おりひめバス	13	3.5%
路線バス	1	0.3%
タクシー	3	0.8%
デマンドタクシー	0	0.0%
スクールバス	0	0.0%
バイク	1	0.3%
行き先施設の送迎バス	1	0.3%
自転車	9	2.4%
徒歩	8	2.1%
その他	28	7.5%

■行き先名称その他 代表的な施設名

8 番らーめん鹿島店 (12 件)、イオンモールかほく (10 件)

4) 通勤・通学（１つまで）

通勤通学先の市町は「七尾市」が最も多く 131 件 (41.3%)、次いで「中能登町」が 99 件 (31.2%) であった。移動手段は「車（自ら運転）」が最も多く 245 件 (71.0%)、次いで「JR」が 35 件 (10.1%) であった。

図表 162 通勤通学（市町名）

通勤通学:市町名 (N=317)		
	票数	%
中能登町	99	31.2%
七尾市	131	41.3%
羽咋市	31	9.8%
金沢市	19	6.0%
かほく市	5	1.6%
志賀町	14	4.4%
宝達志水町	10	3.2%
その他	8	2.5%
計	317	100.0%

図表 163 通勤通学（頻度）

通勤通学:頻度 (N=277)		
	票数	%
週4～5回	251	90.6%
週2～3回	11	4.0%
週1回	7	2.5%
月に2～3回	2	0.7%
月1回	1	0.4%
月1回未満	5	1.8%
計	277	100.0%

図表 164 通勤通学（移動方法）

通勤通学:移動方法 (N=345)		
	票数	%
車（自ら運転）	245	71.0%
車（送迎）	19	5.5%
J R	35	10.1%
おりひめバス	2	0.6%
路線バス	1	0.3%
タクシー	0	0.0%
デマンドタクシー	0	0.0%
スクールバス	1	0.3%
バイク	1	0.3%
行き先施設の送迎	4	1.2%
自転車	11	3.2%
徒歩	13	3.8%
その他	13	3.8%
計	345	100.0%

◆公共交通利用者 行き先市町名

- ・JR
 - 七尾市 16 件
 - 羽咋市 7 件
 - 中能登町 5 件
 - 金沢市 2 件
 - かほく市 1 件
 - 宝達志水町 1 件

- ・おりひめバス
 - 中能登町 1 件
 - 羽咋市 1 件

- ・路線バス
 - 七尾市 1 件

【年代別 移動手段】

図表 165 通勤通学（18 歳以下）

通勤通学:移動方法 (N=53)		
	票数	%
車(自ら運転)	2	3.8%
車(送迎)	10	18.9%
J R	26	49.1%
おりひめバス	1	1.9%
路線バス	0	0.0%
タクシー	0	0.0%
デマンドタクシー	0	0.0%
スクールバス	1	1.9%
バイク	0	0.0%
行き先施設の送迎	2	3.8%
自転車	6	11.3%
徒歩	5	9.4%
その他	0	0.0%
計	53	100.0%

図表 166 通勤通学（生産年齢）

通勤通学:移動方法 (N=251)		
	票数	%
車(自ら運転)	213	84.9%
車(送迎)	7	2.8%
J R	9	3.6%
おりひめバス	1	0.4%
路線バス	1	0.4%
タクシー	0	0.0%
デマンドタクシー	0	0.0%
スクールバス	0	0.0%
バイク	0	0.0%
行き先施設の送迎	1	0.4%
自転車	5	2.0%
徒歩	7	2.8%
その他	7	2.8%
計	251	100.0%

②土曜日の移動

1) 買い物（2つまで）

土曜の買物の行き先は「アル・プラザ鹿島」が最も多く 237 件（37.6%）であった。次いで「どんたくエブリィ鳥屋店」が 72 件（11.4%）、「イオンモールかほく」が 48 件（7.6%）であった。

移動手段は「車（自ら運転）」が最も多く 528 件（77.3%）であった。公共交通の利用は「おりひめバス」が最も多く 15 件（2.2%）、次いで「JR」が 7 件（1.0%）、「路線バス」が 2 件（0.3%）であった。

居住地区別にみた買物の行き先は、平日の買い物と同様に、どの地区においても「アル・プラザ鹿島」が最も多いが、鳥屋地区は「どんたくエブリィ鳥屋店」、鹿西地区は「食文化新鮮館 鹿西館」の件数が他の地区と比較して多くなっている。

図表 167 土曜の買い物（市町名）

買物:市町名	(N=672)	
	票数	%
中能登町	418	62.2%
七尾市	68	10.1%
羽咋市	61	9.1%
金沢市	39	5.8%
かほく市	46	6.8%
志賀町	5	0.7%
宝達志水町	23	3.4%
その他	12	1.8%
計	672	100.0%

図表 168 土曜の買い物（行き先）

買物:名称	(N=630)	
	票数	%
アル・プラザ鹿島	237	37.6%
どんたくエブリィ鳥屋店	72	11.4%
道の駅 織姫の里	19	3.0%
イオンモール かほく	48	7.6%
マックスバリュ羽咋店	25	4.0%
食文化新鮮館 鹿西館	15	2.4%
ホームセンターロッキー	37	5.9%
バロー羽咋店	19	3.0%
マツモトキヨシ鹿島店	17	2.7%
ホームセンターコメリ鳥屋	1	0.2%
その他	140	22.2%
計	630	100.0%

図表 169 土曜の買い物（頻度）

買物:頻度	(N=628)	
	票数	%
週4～5回	51	8.1%
週2～3回	56	8.9%
週1回	182	29.0%
月に2～3回	188	29.9%
月1回	113	18.0%
月1回未満	38	6.1%
計	628	100.0%

図表 170 土曜の買い物（移動方法）

買物:移動方法	(N=683)	
	票数	%
車（自ら運転）	528	77.3%
車（送迎）	72	10.5%
J R	7	1.0%
おりひめバス	15	2.2%
路線バス	2	0.3%
タクシー	0	0.0%
デマンドタクシー	0	0.0%
スクールバス	0	0.0%
バイク	0	0.0%
行き先施設の送迎バス	0	0.0%
自転車	10	1.5%
徒歩	11	1.6%
その他	38	5.6%
計	683	100.0%

■行き先名称その他 代表的な施設名

アルビス宝達志水店（23 件）、どんたくアスティ店（16 件）

【地区別 行き先・移動手段】

図表 171 土曜の買い物（鹿島地区）

買物:名称 (N=300)		
	票数	%
アル・プラザ鹿島	118	39.3%
どんたくエブリイ鳥屋店	19	6.3%
道の駅 織姫の里	13	4.3%
イオンモール かほく	20	6.7%
マックスバリュ羽咋店	13	4.3%
食文化新鮮館 鹿西館	6	2.0%
ホームセンターロッキー	24	8.0%
バロー羽咋店	5	1.7%
マツモトキヨシ鹿島店	11	3.7%
ホームセンターコメリ鳥屋	0	0.0%
その他	71	23.7%
計	300	100.0%

◆公共交通利用者の行き先

- ・JR
金沢フォーラス 1件
イオンモールかほく 1件
- ・おりひめバス
アル・プラザ鹿島 3件
ホームセンターロッキー 1件
マツモトキヨシ鹿島店 1件
- ・路線バス
イオンモールかほく 1件
マツモトキヨシ鹿島店 1件

図表 172 土曜の買い物（鳥屋地区）

買物:名称 (N=168)		
	票数	%
アル・プラザ鹿島	61	36.3%
どんたくエブリイ鳥屋店	35	20.8%
道の駅 織姫の里	3	1.8%
イオンモール かほく	12	7.1%
マックスバリュ羽咋店	0	0.0%
食文化新鮮館 鹿西館	1	0.6%
ホームセンターロッキー	7	4.2%
バロー羽咋店	4	2.4%
マツモトキヨシ鹿島店	5	3.0%
ホームセンターコメリ鳥屋	1	0.6%
その他	39	23.2%
計	168	100.0%

◆公共交通利用者の行き先

- ・JR
金沢フォーラス 1件
- ・おりひめバス
アル・プラザ鹿島 2件

図表 173 土曜の買い物（鹿西地区）

買物:名称 (N=160)		
	票数	%
アル・プラザ鹿島	57	35.6%
どんたくエブリイ鳥屋店	18	11.3%
道の駅 織姫の里	3	1.9%
イオンモール かほく	16	10.0%
マックスバリュ羽咋店	11	6.9%
食文化新鮮館 鹿西館	8	5.0%
ホームセンターロッキー	6	3.8%
バロー羽咋店	10	6.3%
マツモトキヨシ鹿島店	1	0.6%
ホームセンターコメリ鳥屋	0	0.0%
その他	30	18.8%
計	160	100.0%

◆公共交通利用者の行き先

- ・JR
マックスバリュ羽咋店 1件
めいてつエムザ 1件
- ・おりひめバス
アル・プラザ鹿島 5件
ホームセンターロッキー 1件
アルビス羽咋宝達志水店 1件

2) 通院（2つまで）

土曜の通院の行き先は「かじ内科クリニック」が最も多く 10 件 (20.4%) であった。移動方法は、「車（自ら運転）」が最も多く 31 件 (66.0%) であった。公共交通である「JR」「おりひめバス」「路線バス」「デマンドタクシー」を利用した移動はみられなかった。

図表 174 土曜の通院（市町名）

通院:市町名 (N=50)		
	票数	%
中能登町	15	30.0%
七尾市	25	50.0%
羽咋市	5	10.0%
金沢市	4	8.0%
かほく市	0	0.0%
志賀町	0	0.0%
宝達志水町	1	2.0%
その他	0	0.0%
計	50	100.0%

図表 175 土曜の通院（行き先）

通院:名称 (N=49)		
	票数	%
能登総合病院	9	18.4%
恵寿総合病院	1	2.0%
安田医院	2	4.1%
かじ内科クリニック	10	20.4%
なかお内科医院	1	2.0%
国立病院機構 七尾病院	2	4.1%
金沢医科大学病院	0	0.0%
その他	24	49.0%
計	49	100.0%

図表 176 土曜の通院（頻度）

通院:頻度 (N=41)		
	票数	%
週4～5回	2	4.9%
週2～3回	1	2.4%
週1回	5	12.2%
月に2～3回	3	7.3%
月1回	9	22.0%
月1回未満	21	51.2%
計	41	100.0%

図表 177 土曜の通院（移動方法）

通院:移動方法 (N=47)		
	票数	%
車（自ら運転）	31	66.0%
車（送迎）	8	17.0%
J R	0	0.0%
おりひめバス	0	0.0%
路線バス	0	0.0%
タクシー	0	0.0%
デマンドタクシー	0	0.0%
スクールバス	0	0.0%
バイク	0	0.0%
行き先施設の送迎バス	0	0.0%
自転車	1	2.1%
徒歩	1	2.1%
その他	6	12.8%
計	47	100.0%

【地区別 行き先・移動手段】

図表 178 土曜の通院（鹿島地区）

通院: 名称 (N=21)		
	票数	%
能登総合病院	3	14.3%
恵寿総合病院	0	0.0%
安田医院	0	0.0%
かじ内科クリニック	6	28.6%
なかお内科医院	0	0.0%
国立病院機構 七尾病院	1	4.8%
金沢医科大学病院	0	0.0%
その他	11	52.4%
計	21	100.0%

◆公共交通利用者の行き先

公共交通の利用の回答はなかった。

図表 179 土曜の通院（鳥屋地区）

通院: 名称 (N=17)		
	票数	%
能登総合病院	5	29.4%
恵寿総合病院	1	5.9%
安田医院	0	0.0%
かじ内科クリニック	4	23.5%
なかお内科医院	1	5.9%
国立病院機構 七尾病院	0	0.0%
金沢医科大学病院	0	0.0%
その他	6	35.3%
計	17	100.0%

◆公共交通利用者の行き先

公共交通の利用の回答はなかった。

図表 180 土曜の通院（鹿西地区）

通院: 名称 (N=10)		
	票数	%
能登総合病院	1	10.0%
恵寿総合病院	0	0.0%
安田医院	2	20.0%
かじ内科クリニック	0	0.0%
なかお内科医院	0	0.0%
国立病院機構 七尾病院	1	10.0%
金沢医科大学病院	0	0.0%
その他	6	60.0%
計	10	100.0%

◆公共交通利用者の行き先

公共交通の利用の回答はなかった。

3) 余暇・娯楽・飲食（2つまで）

土曜の余暇・娯楽・飲食の行き先は「道の駅 織姫の里」と「健康ハウス憩」が最も多く 36 件（13.8%）であった。

移動方法は「車（自ら運転）」が最も多く 221 件（74.9%）であった。公共交通の利用は「JR」が 6 件（2.0%）、「おりひめバス」が 4 件（1.4%）、「路線バス」が 2 件（0.7%）であった。

図表 181 土曜の余暇・娯楽・飲食(市町名)

余暇娯楽飲食:市町名 (N=285)		
	票数	%
中能登町	106	37.2%
七尾市	46	16.1%
羽咋市	15	5.3%
金沢市	51	17.9%
かほく市	44	15.4%
志賀町	5	1.8%
宝達志水町	0	0.0%
その他	18	6.3%
計	285	100.0%

図表 182 土曜の余暇・娯楽・飲食(行き先)

余暇娯楽飲食:名称 (N=260)		
	票数	%
道の駅 織姫の里	36	13.8%
天平の里	4	1.5%
古墳公園とりや	10	3.8%
健康ハウス憩	36	13.8%
ふるさと創修館	7	2.7%
カルチャーセンター飛翔	4	1.5%
つくしの里	0	0.0%
その他	163	62.7%
計	260	100.0%

図表 183 土曜の余暇・娯楽・飲食(頻度)

余暇娯楽飲食:頻度 (N=266)		
	票数	%
週4～5回	11	4.1%
週2～3回	5	1.9%
週1回	38	14.3%
月に2～3回	63	23.7%
月1回	77	28.9%
月1回未満	72	27.1%
計	266	100.0%

図表 184 土曜の余暇・娯楽・飲食(移動方法)

余暇娯楽飲食:移動方法 (N=295)		
	票数	%
車（自ら運転）	221	74.9%
車（送迎）	35	11.9%
J R	6	2.0%
おりひめバス	4	1.4%
路線バス	2	0.7%
タクシー	1	0.3%
デマンドタクシー	0	0.0%
スクールバス	0	0.0%
バイク	1	0.3%
行き先施設の送迎バス	0	0.0%
自転車	5	1.7%
徒歩	5	1.7%
その他	15	5.1%

③日曜・祝日の移動

1) 買い物（3つまで）

日曜・祝日の買物の行き先は「アル・プラザ鹿島」が最も多く 234 件（37.4%）であった。次いで「どんたくエブリィ鳥屋店」と「イオンモールかほく」が 60 件（9.6%）、「ホームセンターロッキー」が 45 件（7.2%）であった。

移動方法は「車（自ら運転）」が最も多く 526 件（75.9%）であった。公共交通の利用は「JR」が 11 件（1.6%）、「おりひめバス」が 8 件（1.2%）、「路線バス」が 4 件（0.6%）であった。

図表 185 日曜・祝日の買い物（市町名）

買物:市町名 (N=678)		
	票数	%
中能登町	406	59.9%
七尾市	63	9.3%
羽咋市	68	10.0%
金沢市	38	5.6%
かほく市	60	8.8%
志賀町	9	1.3%
宝達志水町	16	2.4%
その他	18	2.7%
計	678	100.0%

図表 186 日曜・祝日の買い物（行き先）

買物:名称 (N=625)		
	票数	%
アル・プラザ鹿島	234	37.4%
どんたくエブリィ鳥屋店	60	9.6%
道の駅 織姫の里	12	1.9%
イオンモール かほく	60	9.6%
マックスバリュ羽咋店	22	3.5%
食文化新鮮館 鹿西館	16	2.6%
ホームセンターロッキー	45	7.2%
パロー羽咋店	18	2.9%
マツモトキヨシ鹿島店	21	3.4%
ホームセンターコメリ鳥屋店	4	0.6%
その他	133	21.3%
計	625	100.0%

図表 187 日曜・祝日の買い物（頻度）

買物:頻度 (N=623)		
	票数	%
週4～5回	35	5.6%
週2～3回	50	8.0%
週1回	139	22.3%
月に2～3回	179	28.7%
月1回	162	26.0%
月1回未満	58	9.3%
計	623	100.0%

図表 188 日曜・祝日の買い物（移動方法）

買物:移動方法 (N=693)		
	票数	%
車(自ら運転)	526	75.9%
車(送迎)	78	11.3%
J R	11	1.6%
おりひめバス	8	1.2%
路線バス	4	0.6%
タクシー	4	0.6%
デマンドタクシー	0	0.0%
スクールバス	0	0.0%
バイク	0	0.0%
行き先施設の送迎バス	0	0.0%
自転車	8	1.2%
徒歩	6	0.9%
その他	48	6.9%
計	693	100.0%

図表 189 日曜・祝日の買い物（鹿島地区）

買物:名称	(N=303)	
	票数	%
アル・プラザ鹿島	129	42.6%
どんたくエブリイ鳥屋店	15	5.0%
道の駅 織姫の里	9	3.0%
イオンモール かほく	23	7.6%
マックスバリュ羽咋店	8	2.6%
食文化新鮮館 鹿西館	7	2.3%
ホームセンターロッキー	26	8.6%
パロー羽咋店	7	2.3%
マツモトキヨシ鹿島店	9	3.0%
ホームセンターコメリ鳥屋店	3	1.0%
その他	67	22.1%
計	303	100.0%

◆公共交通利用者の行き先

- ・JR
 - イオンモールかほく 1件
 - 金沢フォーラス 2件
 - アル・プラザ鹿島 1件
- ・おりひめバス
 - アル・プラザ鹿島 3件
 - 道の駅 織姫の里 1件
 - ホームセンターロッキー 1件
 - マツモトキヨシ鹿島店 2件
- ・路線バス
 - アル・プラザ鹿島 1件
 - 道の駅 織姫の里 1件
 - ホームセンターロッキー 2件
 - マツモトキヨシ鹿島店 1件
 - イオンモールかほく 1件

図表 190 日曜・祝日の買い物（鳥屋地区）

買物:名称	(N=170)	
	票数	%
アル・プラザ鹿島	56	32.9%
どんたくエブリイ鳥屋店	31	18.2%
道の駅 織姫の里	2	1.2%
イオンモール かほく	20	11.8%
マックスバリュ羽咋店	3	1.8%
食文化新鮮館 鹿西館	1	0.6%
ホームセンターロッキー	10	5.9%
パロー羽咋店	4	2.4%
マツモトキヨシ鹿島店	6	3.5%
ホームセンターコメリ鳥屋店	1	0.6%
その他	36	21.2%
計	170	100.0%

◆公共交通利用者の行き先

- ・JR
 - イオンモールかほく 1件
 - 金沢フォーラス 2件
- ・おりひめバス
 - アル・プラザ鹿島 2件

図表 191 日曜・祝日の買い物（鹿西地区）

買物:名称	(N=149)	
	票数	%
アル・プラザ鹿島	48	32.2%
どんたくエブリイ鳥屋店	14	9.4%
道の駅 織姫の里	1	0.7%
イオンモール かほく	17	11.4%
マックスバリュ羽咋店	10	6.7%
食文化新鮮館 鹿西館	8	5.4%
ホームセンターロッキー	9	6.0%
パロー羽咋店	7	4.7%
マツモトキヨシ鹿島店	6	4.0%
ホームセンターコメリ鳥屋店	0	0.0%
その他	29	19.5%
計	149	100.0%

◆公共交通利用者の行き先

- ・JR
 - 食文化新鮮館鹿西館 1件
 - イオンモールかほく 1件
 - 金沢フォーラス 1件
 - アル・プラザ鹿島 1件
- ・おりひめバス
 - アル・プラザ鹿島 3件

2) 余暇・娯楽・食事（3つまで）

日曜・祝日の余暇・娯楽・食事の行き先は「健康ハウス憩」が最も多く 40 件（14.5%）であった。次いで「道の駅 織姫の里」が 31 件（11.3%）、「古墳公園とりや」が 9 件（3.3%）であった。

移動方法は「車（自ら運転）」が最も多く 236 件（75.2%）であった。公共交通の利用は「JR」が 9 件（2.9%）、「おりひめバス」が 1 件（0.3%）であった。

図表 192 日曜・祝日の余暇・娯楽・飲食
（市町名）

余暇娯楽飲食:市町名 (N=309)		
	票数	%
中能登町	103	33.3%
七尾市	39	12.6%
羽咋市	15	4.9%
金沢市	61	19.7%
かほく市	44	14.2%
志賀町	9	2.9%
宝達志水町	1	0.3%
その他	37	12.0%
計	309	100.0%

図表 193 日曜・祝日の余暇・娯楽・飲食
（行き先）

余暇娯楽飲食:名称 (N=275)		
	票数	%
道の駅 織姫の里	31	11.3%
天平の里	5	1.8%
古墳公園とりや	9	3.3%
健康ハウス憩	40	14.5%
ふるさと創修館	5	1.8%
カルチャーセンター飛翔	1	0.4%
つくしの里	1	0.4%
その他	183	66.5%
計	275	100.0%

図表 194 日曜・祝日の余暇・娯楽・飲食
（頻度）

余暇娯楽飲食:頻度 (N=288)		
	票数	%
週4～5回	6	2.1%
週2～3回	8	2.8%
週1回	39	13.5%
月に2～3回	65	22.6%
月1回	99	34.4%
月1回未満	71	24.7%
計	288	100.0%

図表 195 日曜・祝日の余暇・娯楽・飲食
（移動方法）

余暇娯楽飲食:移動方法 (N=314)		
	票数	%
車(自ら運転)	236	75.2%
車(送迎)	45	14.3%
J R	9	2.9%
おりひめバス	1	0.3%
路線バス	0	0.0%
タクシー	4	1.3%
デマンドタクシー	0	0.0%
スクールバス	0	0.0%
バイク	2	0.6%
行き先施設の送迎バス	0	0.0%
自転車	0	0.0%
徒歩	2	0.6%
その他	15	4.8%
計	314	100.0%

④普段の移動において JR および路線バスと組み合わせて利用されている移動方法

1) 地区別にみた普段の移動における JR と他の移動方法の組み合わせ

地区別の普段の移動における「JR」と他の移動方法の組み合わせをみると、「JR」のみの利用や「送迎」と組み合わせた利用が多い。「JR」と「おりひめバス」を組み合わせて利用しているのは鹿西地区の1名のみであった。

図表 196 JR と組み合わせて利用している移動方法（鹿島地区）

(N=31)

目的	曜日	JR 利用者 (人)	JRと組み合わせて利用している移動方法(人)					
			JRのみ 利用	自家用車	送迎	自転車	路線バス 徒歩	送迎 送迎バス 徒歩
買い物	平日	4	2	2	0	0	0	0
	土曜	2	0	0	1	0	1	0
	日曜・祝日	3	1	0	1	0	1	0
	小計	9	3	2	2	0	2	0
通院	平日	1	1	0	0	0	0	0
	土曜	0	0	0	0	0	0	0
	小計	1	1	0	0	0	0	0
余暇 娯楽 飲食	平日	2	1	0	1	0	0	0
	土曜	1	0	0	1	0	0	0
	日曜・祝日	5	1	1	3	0	0	0
	小計	8	2	1	5	0	0	0
通勤 通学	平日	13	10	0	1	1	0	1
	小計	13	10	0	1	1	0	1
合計		31	16	3	8	1	2	1

図表 197 JR と組み合わせて利用している移動方法（鳥屋地区）

(N=29)

目的	曜日	JR 利用者 (人)	JRと組み合わせて利用している移動方法(人)				
			JRのみ 利用	送迎	自転車	自家用車 送迎	自転車 徒歩
買い物	平日	2	0	2	0	0	0
	土曜	1	0	1	0	0	0
	日曜・祝日	3	0	3	0	0	0
	小計	6	0	6	0	0	0
通院	平日	4	1	2	0	0	1
	土曜	0	0	0	0	0	0
	小計	4	1	2	0	0	1
余暇 娯楽 飲食	平日	2	1	0	0	1	0
	土曜	3	3	0	0	0	0
	日曜・祝日	2	1	1	0	0	0
	小計	7	5	1	0	1	0
通勤 通学	平日	12	6	5	1	0	0
	小計	12	6	5	1	0	0
合計		29	12	14	1	1	1

図表 198 JR と組み合わせて利用している移動方法（鹿西地区）

(N=29)

目的	曜日	JR 利用者 (人)	JRと組み合わせて利用している移動方法(人)						
			JRのみ 利用	送迎	送迎バス	自転車	その他	送迎 路線バス	おりひめ 徒歩
買い物	平日	0	0	0	0	0	0	0	0
	土曜	3	1	1	0	0	1	0	0
	日曜・祝日	5	2	3	0	0	0	0	0
	小計	8	3	4	0	0	1	0	0
通院	平日	7	4	0	2	0	0	0	1
	土曜	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	7	4	0	2	0	0	0	1
余暇 娯楽 飲食	平日	1	1	0	0	0	0	0	0
	土曜	2	1	0	0	0	0	1	0
	日曜・祝日	1	1	0	0	0	0	0	0
	小計	4	3	0	0	0	0	1	0
通勤 通学	平日	10	7	2	0	1	0	0	0
	小計	10	7	2	0	1	0	0	0
合計		29	17	6	2	1	1	1	1

2) 地区別にみた普段の移動における路線バスと他の移動方法の組み合わせ

普段の移動において路線バスを利用していると回答した人は鹿島地区に集中している。鹿島地区の普段の移動における路線バスと他の移動方法の組み合わせをみると、路線バスのみの利用が11名、おりひめバスを組み合わせて利用しているのが3名であった。

図表 199 路線バスと組み合わせて利用している移動方法（鹿島地区）

(N=18)

目的	曜日	路線バス 利用者 (人)	路線バスと組み合わせて利用している移動方法(人)				
			路線バス のみ利用	おりひめ	送迎 おりひめ	おりひめ タクシー	JR 徒歩
買い物	平日	4	3	0	0	1	0
	土曜	2	1	0	0	0	1
	日曜・祝日	4	1	1	1	0	1
	小計	10	5	1	1	1	2
通院	平日	5	4	1	0	0	0
	土曜	0	0	0	0	0	0
	小計	5	4	1	0	0	0
余暇 娯楽 飲食	平日	1	0	1	0	0	0
	土曜	1	1	0	0	0	0
	日曜・祝日	0	0	0	0	0	0
	小計	2	1	1	0	0	0
通勤 通学	平日	1	1	0	0	0	0
	小計	1	1	0	0	0	0
合計		18	11	3	1	1	2

【参考】

鳥屋地区：普段の利用における路線バスの利用はない

鹿西地区：土曜の余暇・娯楽・飲食において、路線バス＋送迎＋JRの利用が1名

（３）公共交通の満足度

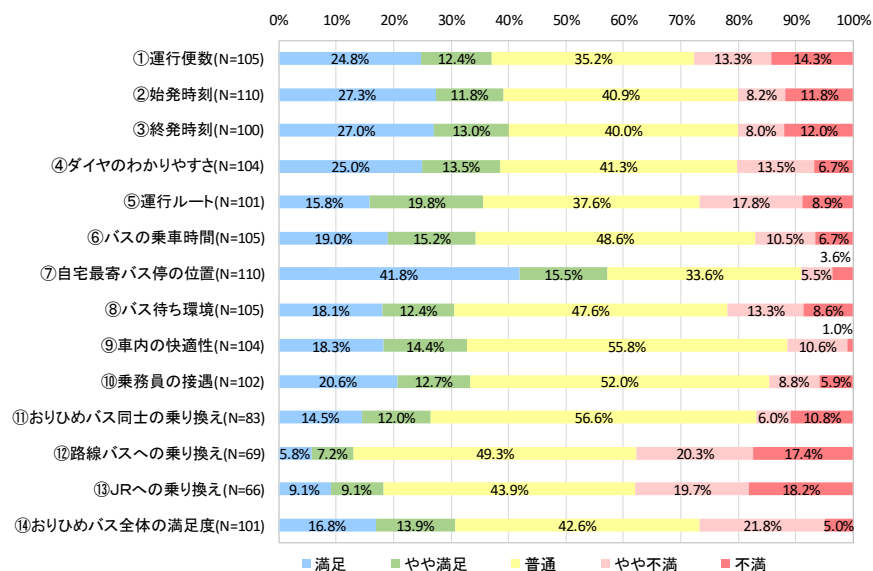
①おりひめバス

おりひめバスの満足度について、満足（「満足」「やや満足」の合計）と回答した割合は「自宅最寄バス停の位置」が最も多く 57.3%であった。不満（「やや不満」「不満」の合計）が最も多いのは「JR への乗り換え」で 37.9%、次いで「路線バスへの乗り換え」が 37.7%、「運行便数」が 27.6%であった。

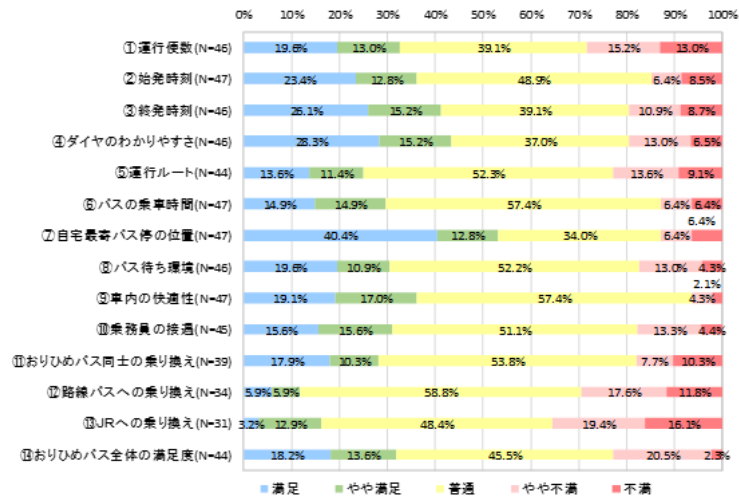
地区別に満足度をみると、鹿島地区と鳥屋地区は「JR への乗り換え」の不満の割合が高い。鹿西地区は「JR への乗り換え」の不満は少なく、最も不満の割合が多いのは「路線バスへの乗り換え」であった。

年代別にみると、18 歳以下と「路線バスへの乗り換え」と「JR への乗り換え」、生産年齢は「JR への乗り換え」、65 歳以上は「路線バスへの乗り換え」不満の割合が多い。

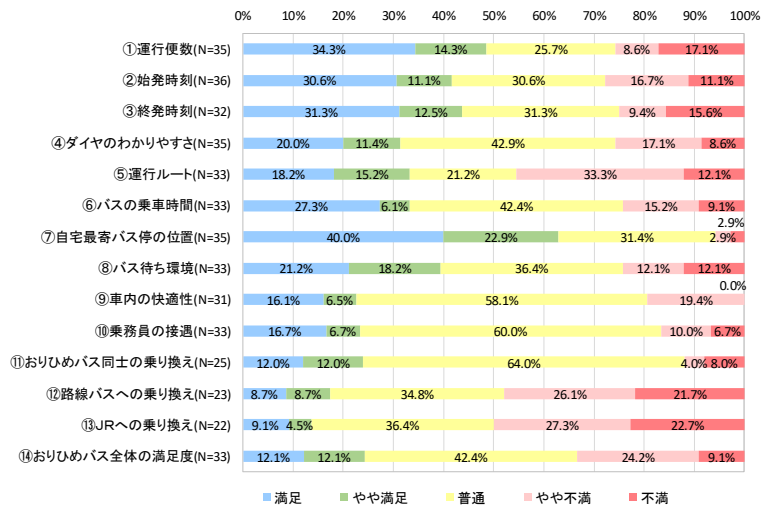
図表 200 おりひめバスの満足度



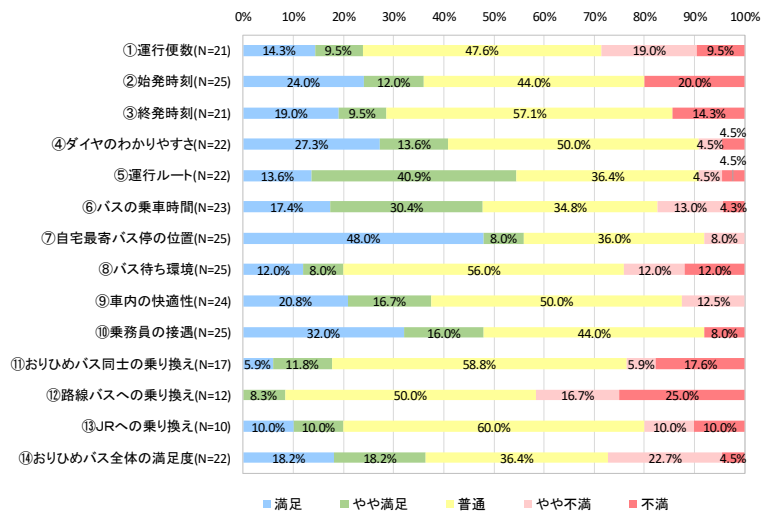
図表 201 おりひめバスの満足度（鹿島地区）



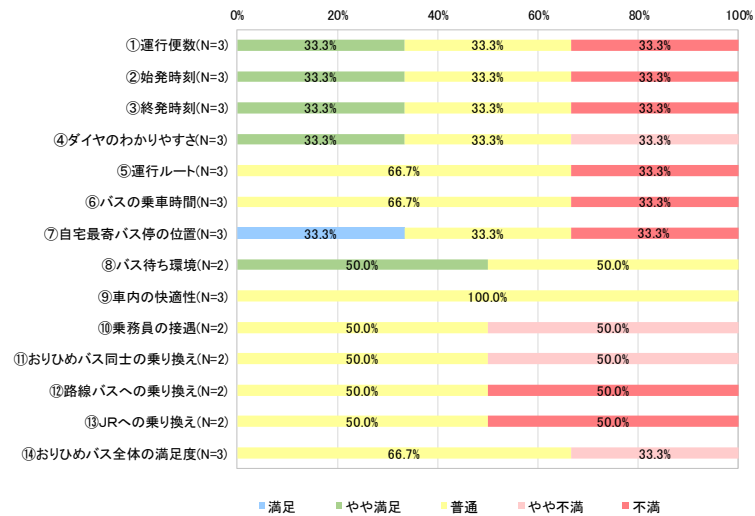
図表 202 おりひめバスの満足度（鳥屋地区）



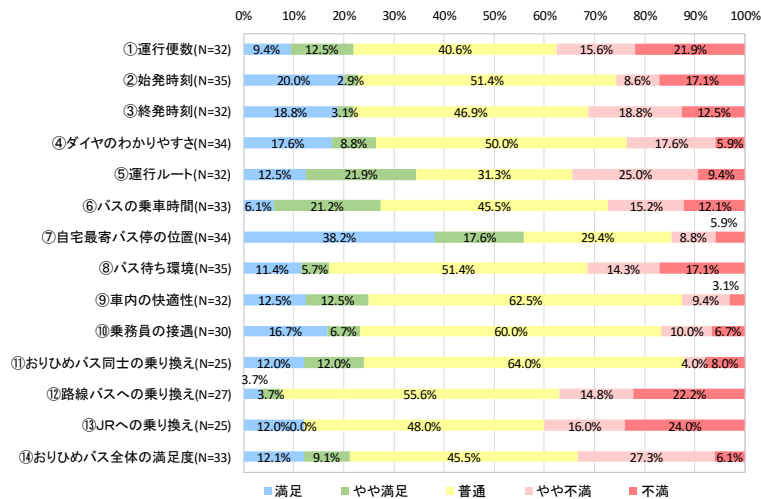
図表 203 おりひめバスの満足度（鹿西地区）



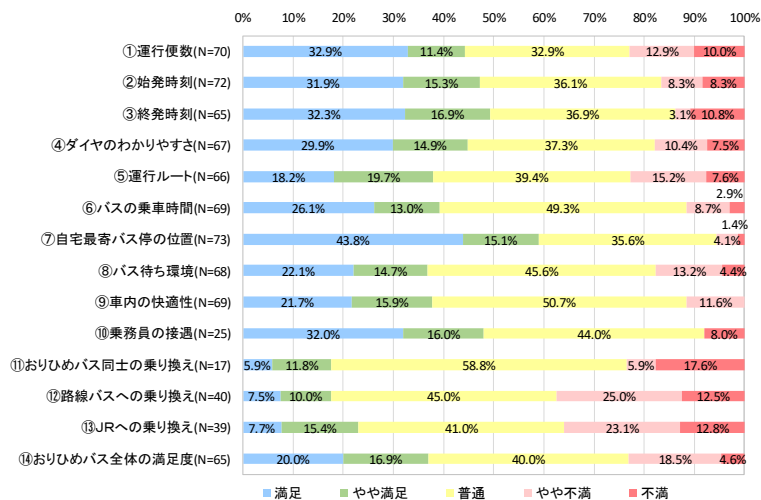
図表 204 おりひめバスの満足度（18 歳以下）



図表 205 おりひめバスの満足度（生産年齢）



図表 206 おりひめバスの満足度（65 歳以上）



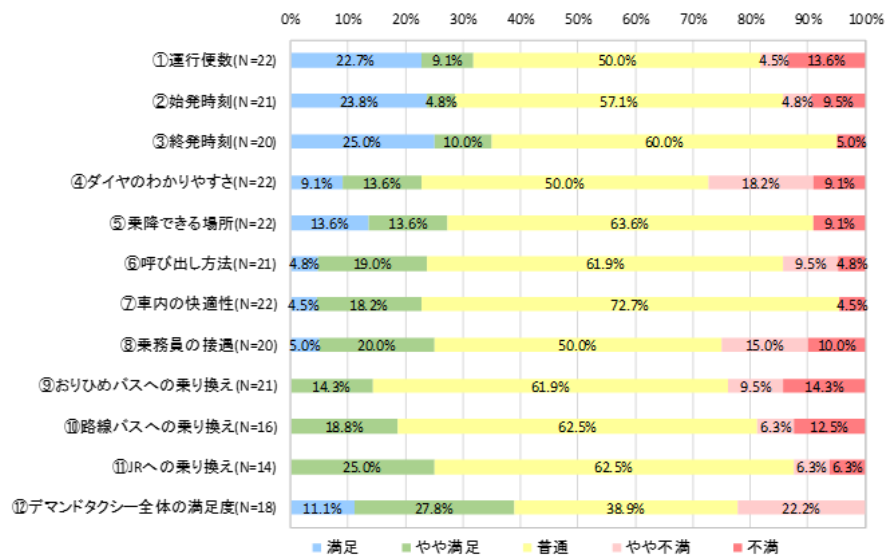
②デマンドタクシー

デマンドタクシーの満足度について、満足（「満足」「やや満足」の合計）と回答した割合は「終発時刻」が最も多く 35.0%であった。不満（「やや不満」「不満」の合計）が最も多いのは「ダイヤの分かりやすさ」で 27.3%、次いで「乗務員の接遇」が 25.0%、「おりひめバスへの乗り換え」が 23.8%であった。

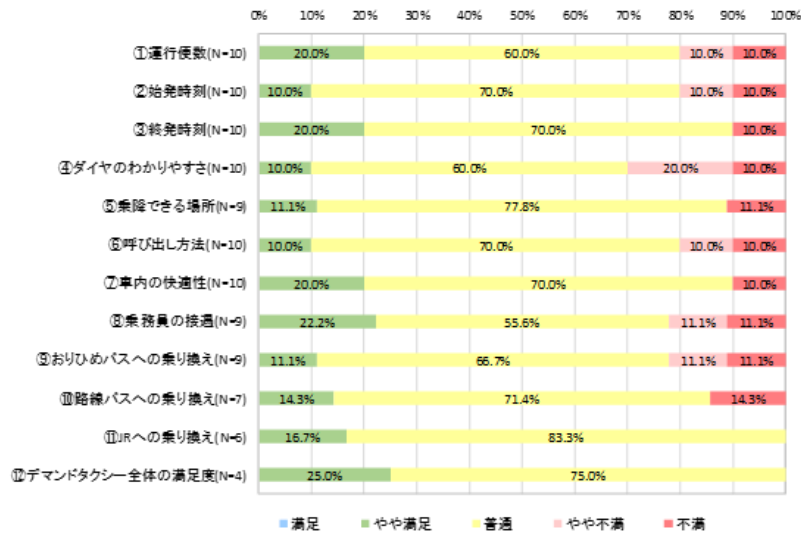
地区別に満足度をみると、鳥屋地区と鹿西地区は乗り換えに関する項目の不満の割合が高い。鹿島地区は「ダイヤの分かりやすさ」の不満が最も多い。

年代別にみると、生産年齢は「おりひめバスへの乗り換え」、65 歳以上は「ダイヤの分かりやすさ」と「乗務員の接遇」の不満の割合が多い。

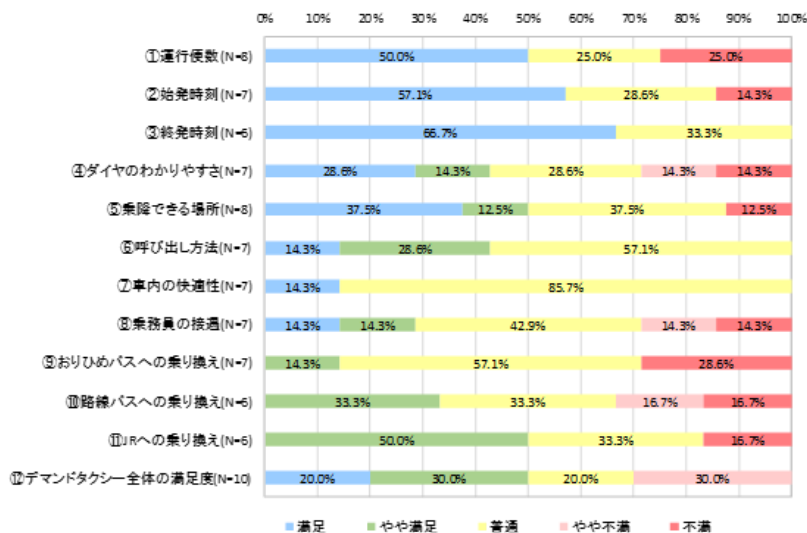
図表 207 デマンドタクシーの満足度



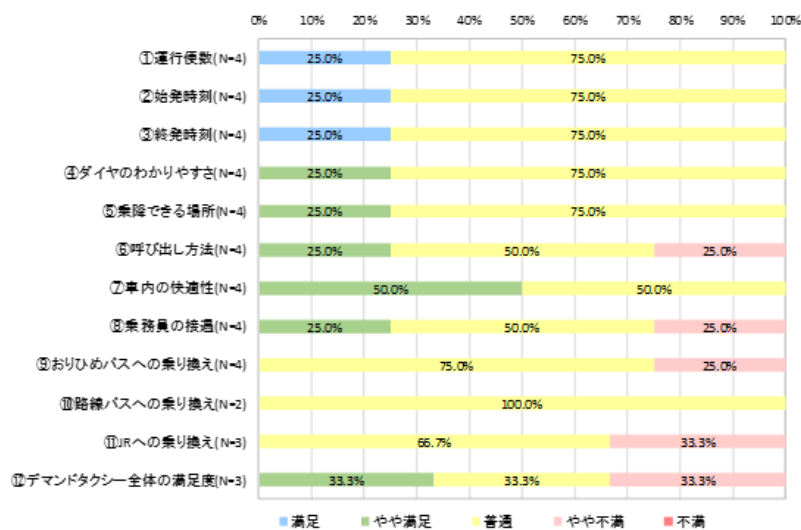
図表 208 デマンドタクシーの満足度（鹿島地区）



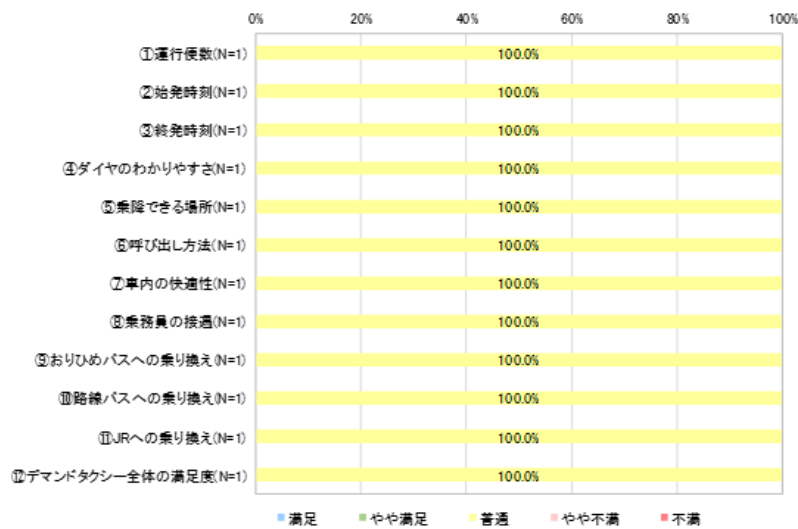
図表 209 デマンドタクシーの満足度（鳥屋地区）



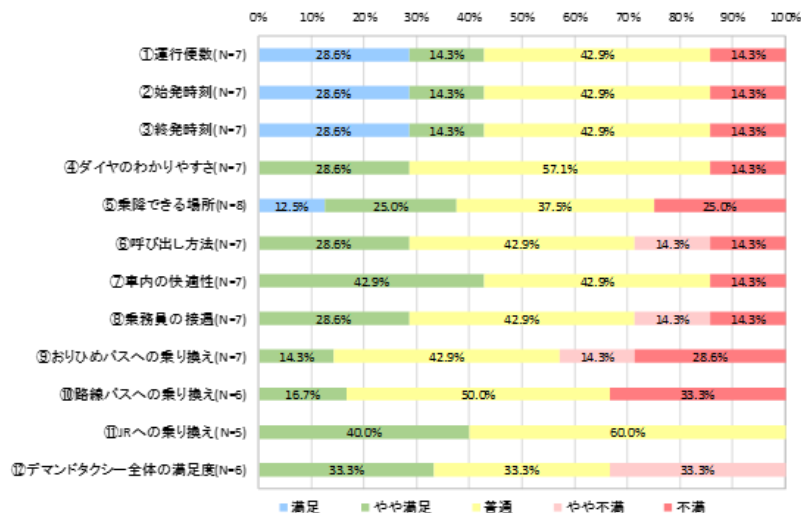
図表 210 デマンドタクシーの満足度（鹿西地区）



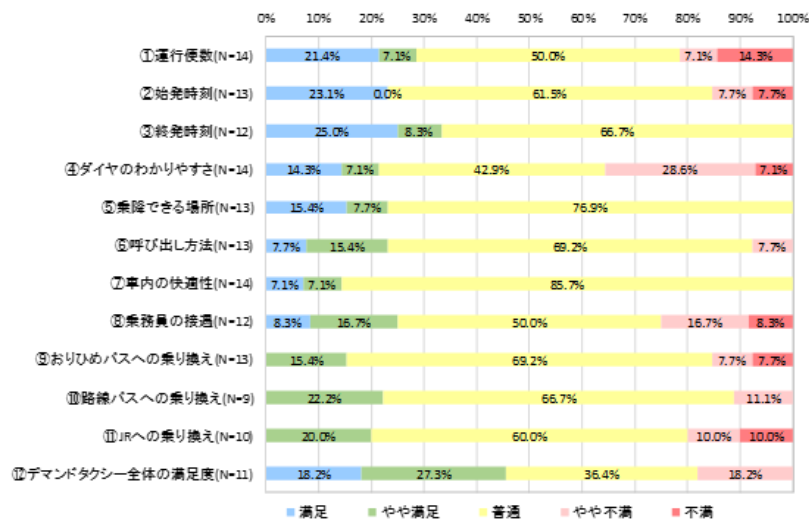
図表 211 デマンドタクシーの満足度（18 歳以下）



図表 212 デマンドタクシーの満足度（生産年齢）



図表 213 デマンドタクシーの満足度（65 歳以上）

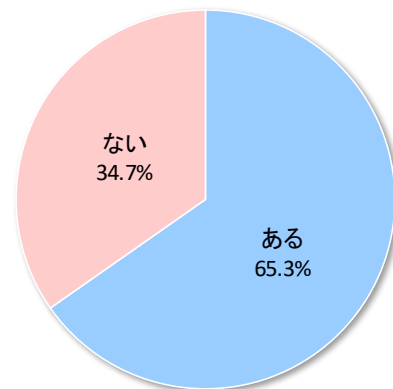


③JR 七尾線

1) 利用経験の有無

七尾線の利用経験が「ある」と回答したのは65.3%、「ない」と回答したのは34.7%であった。

図表 214 JR の利用経験



(N=769)

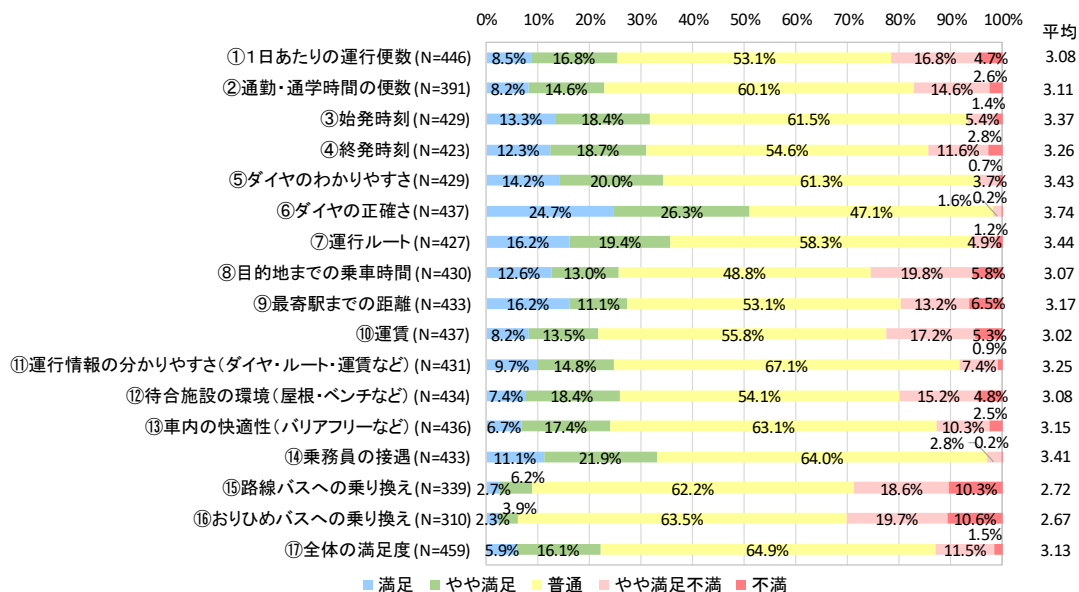
2) 満足度

JR 七尾線の満足度について、満足（「満足」「やや満足」の合計）と回答した割合は「ダイヤの正確さ」が最も多く51.0%であった。不満（「やや不満」「不満」の合計）が最も多いのは「おりひめバスへの乗り換え」で30.3%、次いで「路線バスへの乗り換え」が28.9%、「目的地までの乗車時間」が25.6%であった。

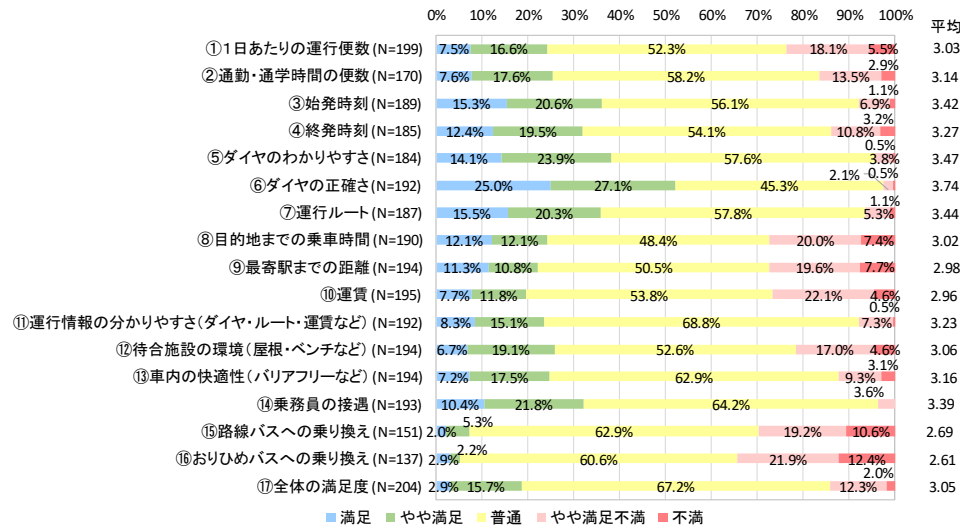
地区別に満足度をみると、鹿島地区と鳥屋地区は乗り換えに関する項目について、不満の割合が高い。また、鹿島地区は「最寄駅までの距離」を不満に感じている割合も多い。

年代別にみると、18歳以下は運行便数に関する項目、生産年齢は乗車時間や運賃、乗り換えに関する項目、65歳以上は乗り換えに関する項目の不満の割合が高い。

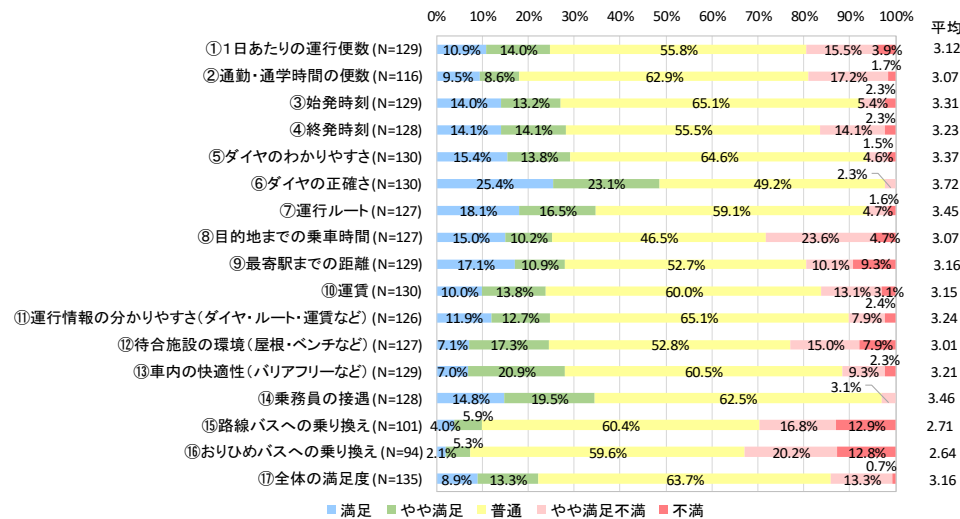
図表 215 JR の満足度



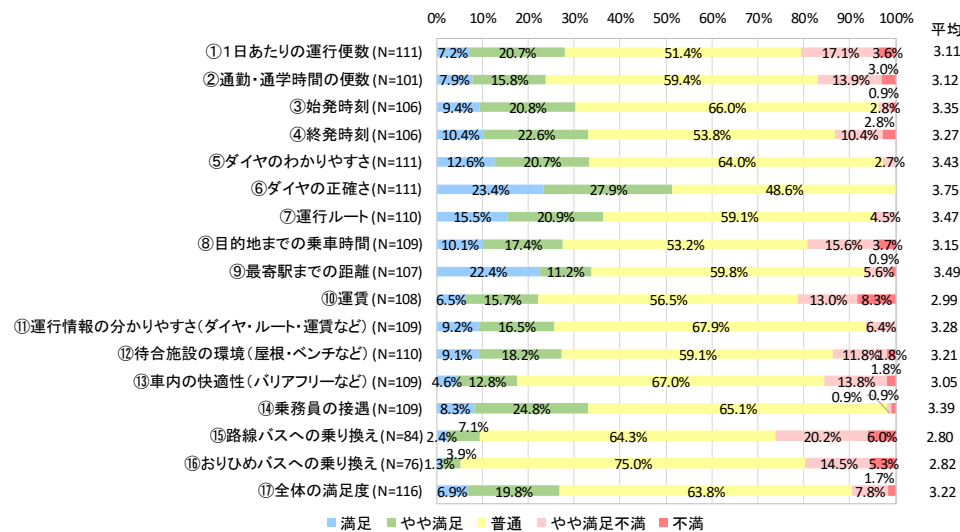
図表 216 JR の満足度（鹿島地区）



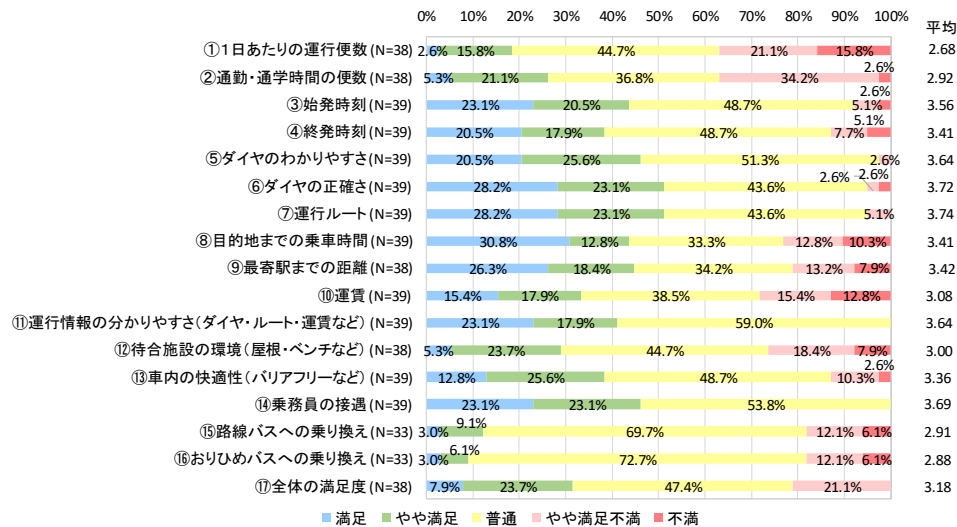
図表 217 JR の満足度（鳥屋地区）



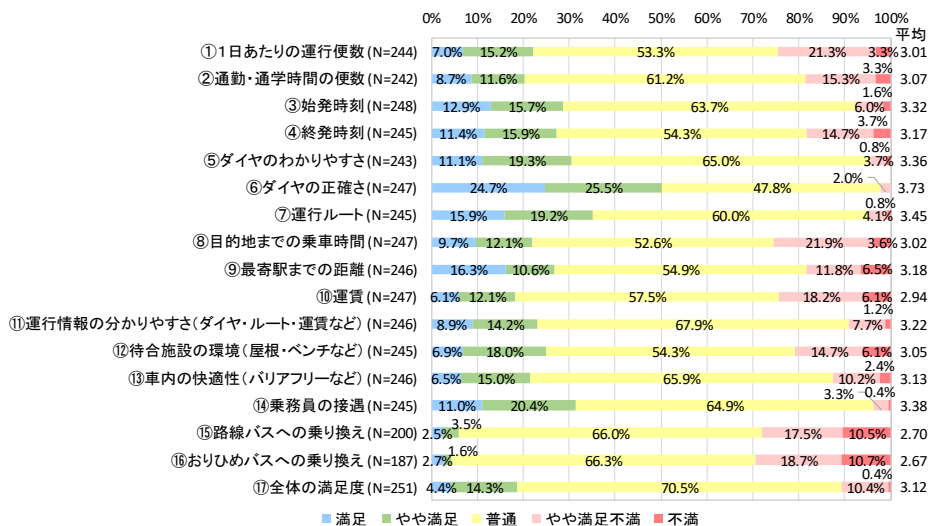
図表 218 JR の満足度（鹿西地区）



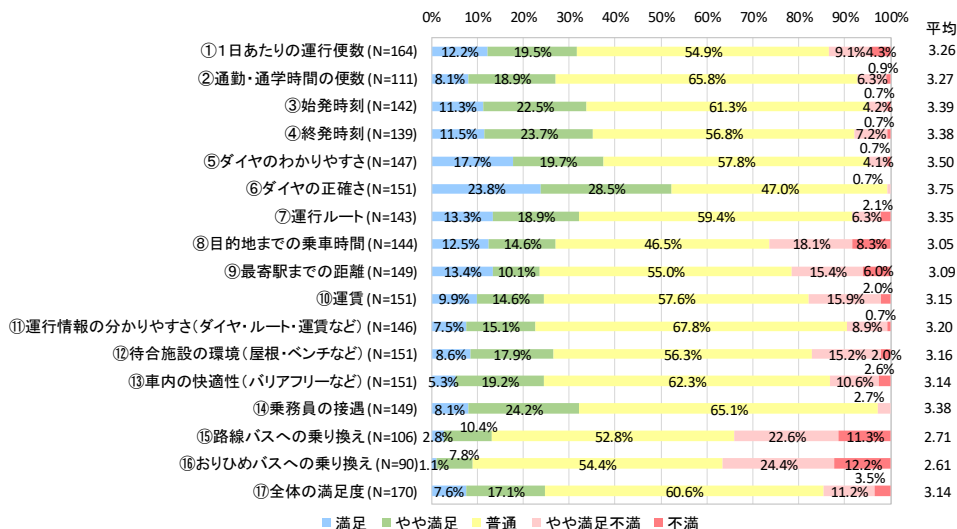
図表 219 JR の満足度（18 歳以下）



図表 220 JR の満足度（生産年齢）



図表 221 JR の満足度（65 歳以上）

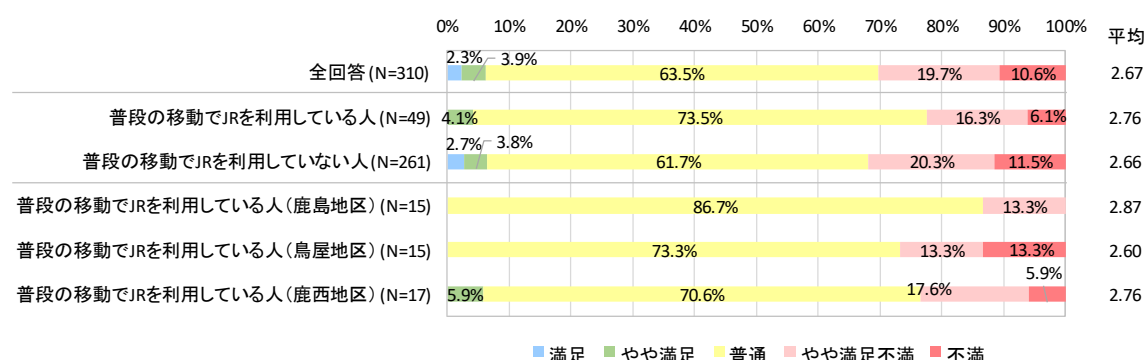


【普段の JR の利用状況別に見たおりひめバスへの乗り換えの満足度】

「⑩おりひめバスへの乗り換え」について普段の JR の利用状況別の満足度をみると、普段の移動において JR を利用している人は、満足（「満足」「やや満足」の合計）と回答した割合は 4.1%、不満（「やや不満」「不満」の合計）と回答した割合が 22.4%であり、普段の移動において JR を利用していない人は満足が 6.5%、不満が 31.8%であった。

普段の移動で JR を利用している人の回答を地区別にみると、鳥屋地区と鹿西地区が不満と回答した人が多い。

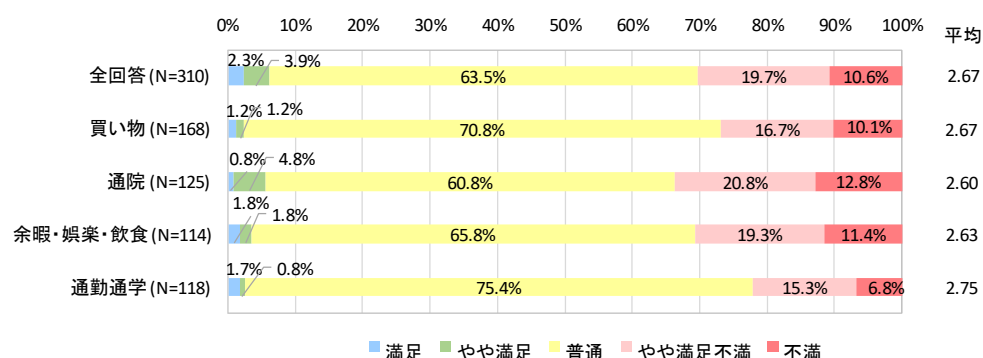
図表 222 普段の JR の利用状況別・地区別にみたおりひめバスへの乗り換えの満足度



【町外への移動目的別に見たJRのおりひめバスへの乗り換えの満足度】

不満が多いのは、町外への通院や余暇・娯楽・飲食、買い物であり、町外へ通勤通学する人の不満は比較的少ない。

図表 223 町外への移動目的別に見た JR のおりひめバスへの乗り換えの満足度

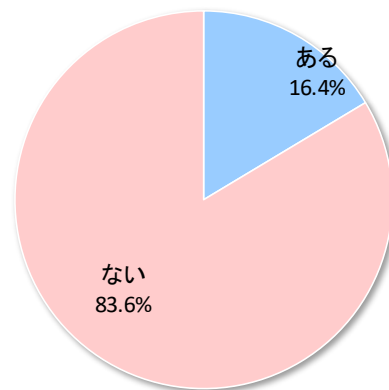


④路線バス

1) 利用経験の有無

路線バスの利用経験が「ある」と回答したのは16.4%、「ない」と回答したのは83.6%であった。

図表 224 路線バスの利用経験



(N=768)

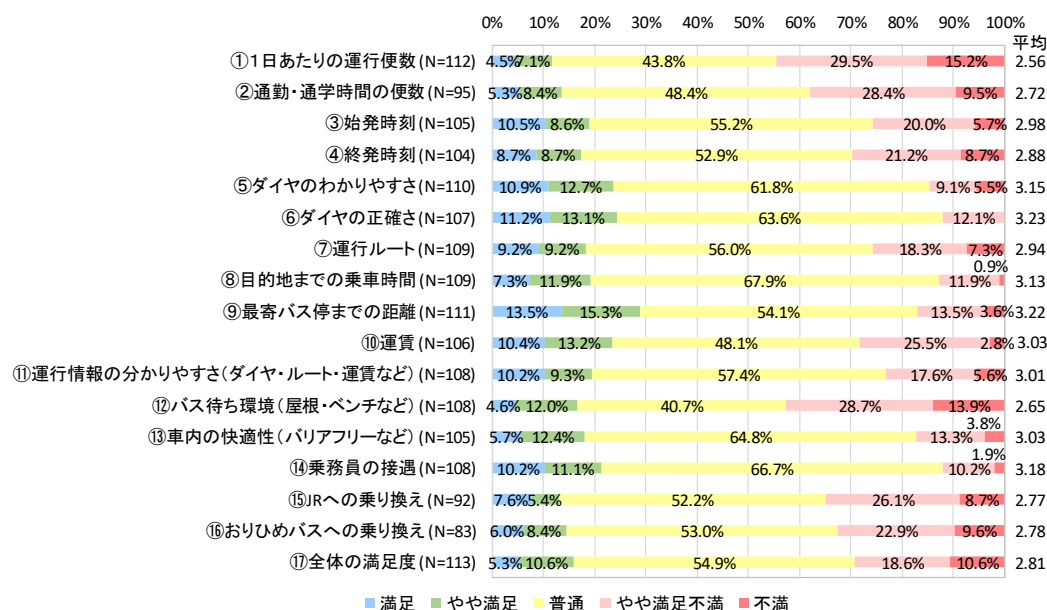
2) 満足度

路線バスの満足度について、満足（「満足」「やや満足」の合計）と回答した割合は「バス停までの距離」が最も多く28.8%であった。不満（「やや不満」「不満」の合計）が最も多いのは「1日あたりの運行便数」で44.7%、次いで「バス待ち環境」が42.6%、「通勤・通学時間の便数」が37.9%であった。

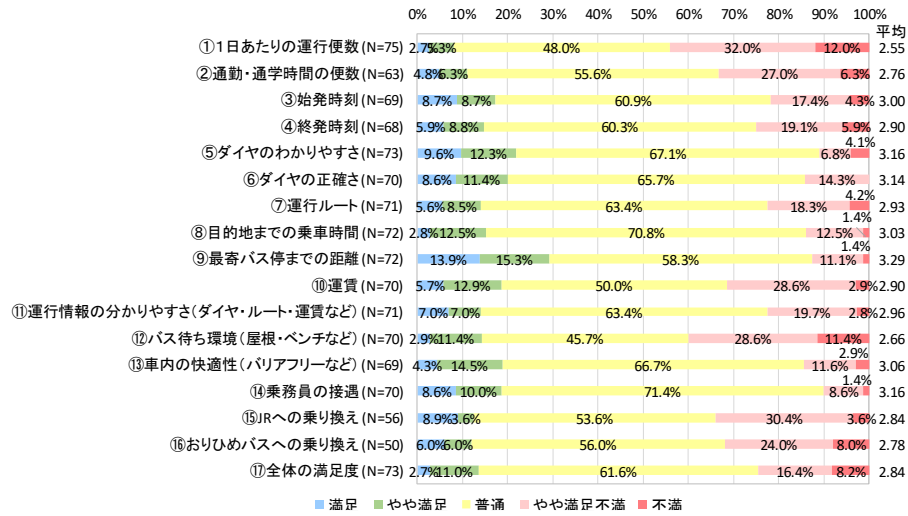
地区別に満足度を見ると、鹿島地区と鳥屋地区は運行便数に関する項目とバス待ち環境、鹿西地区は便数と乗り換えに関する項目の不満の回答が多い。

年代別にみると18歳以下及び生産年齢は「バス待ち環境」、65歳以上は運行便数に関する項目の不満の回答が多い。

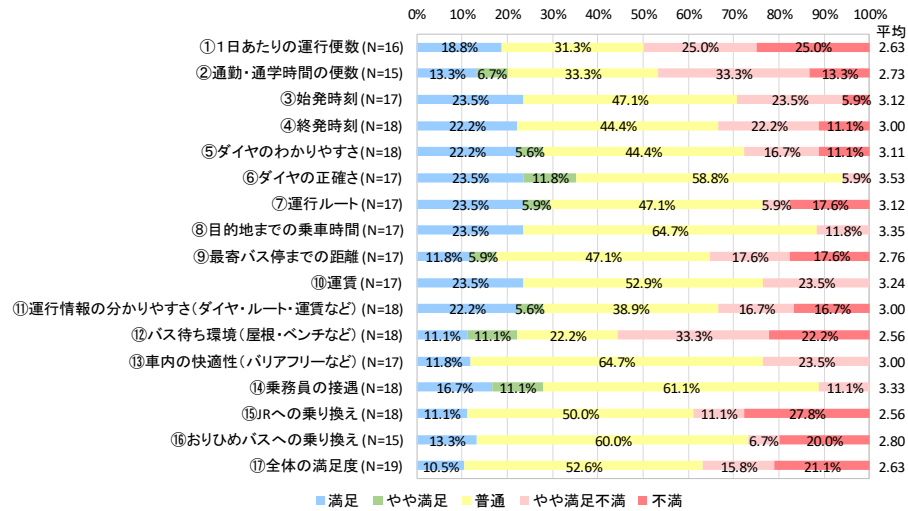
図表 225 路線バスの満足度



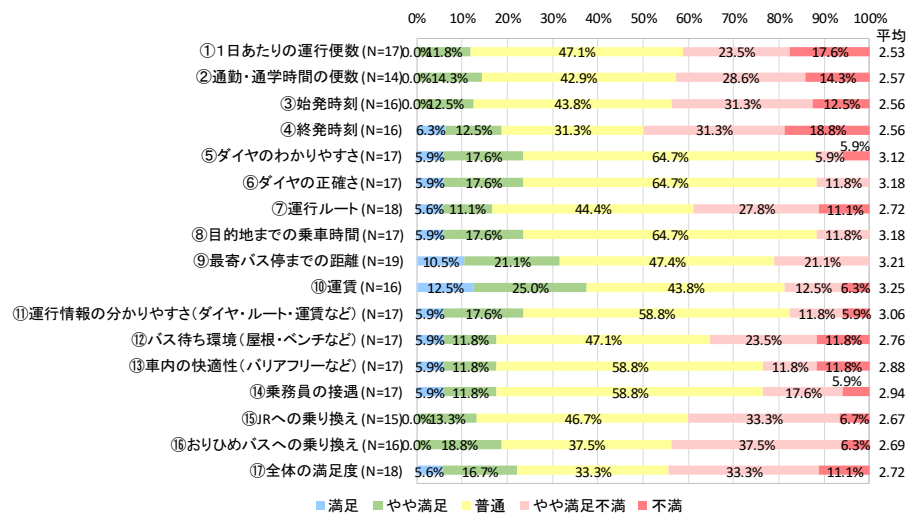
図表 226 路線バスの満足度（鹿島地区）



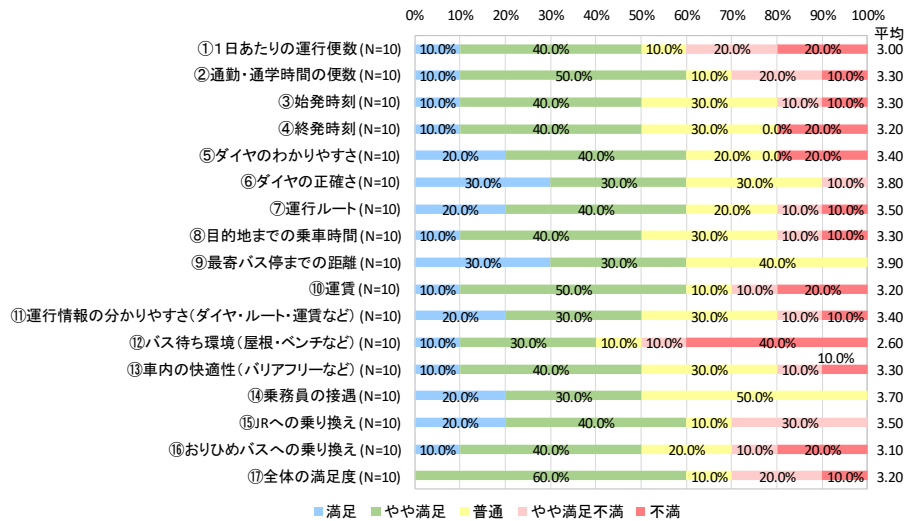
図表 227 路線バスの満足度（鳥屋地区）



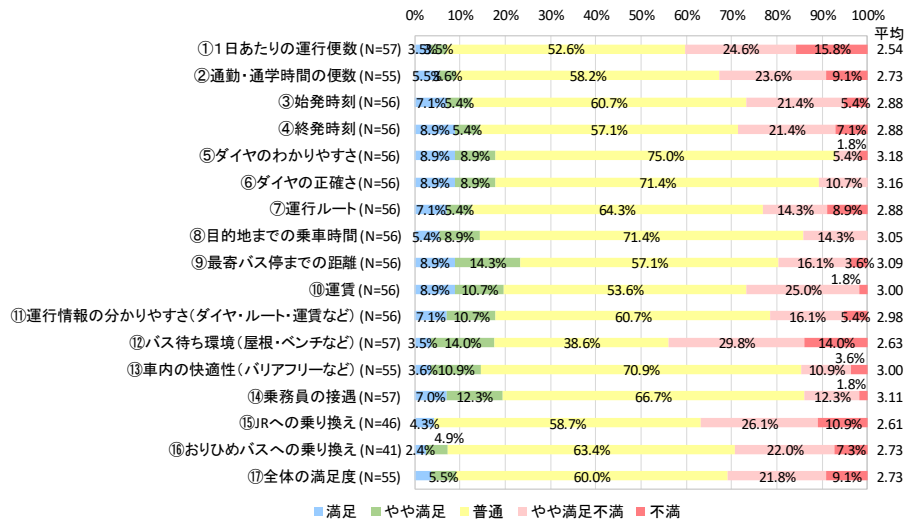
図表 228 路線バスの満足度（鹿西地区）



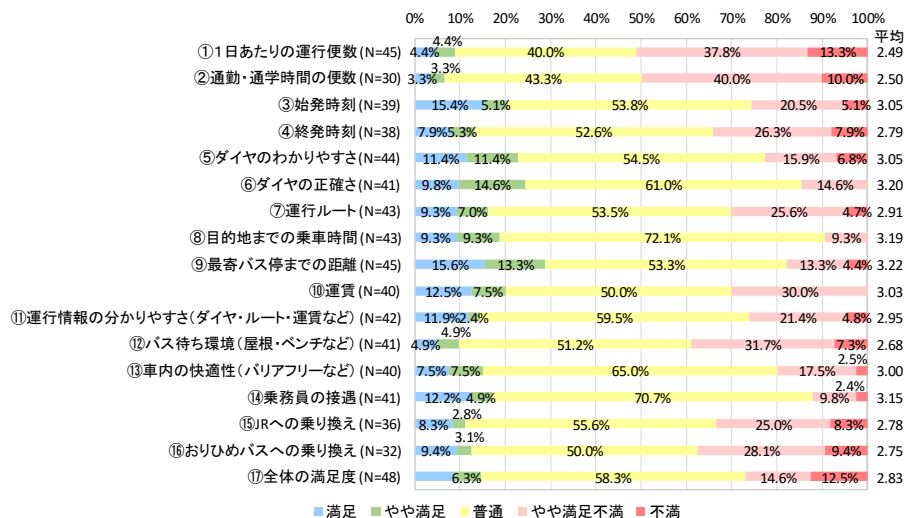
図表 229 路線バスの満足度（18 歳以下）



図表 230 路線バスの満足度（生産年齢）



図表 231 路線バスの満足度（65 歳以上）

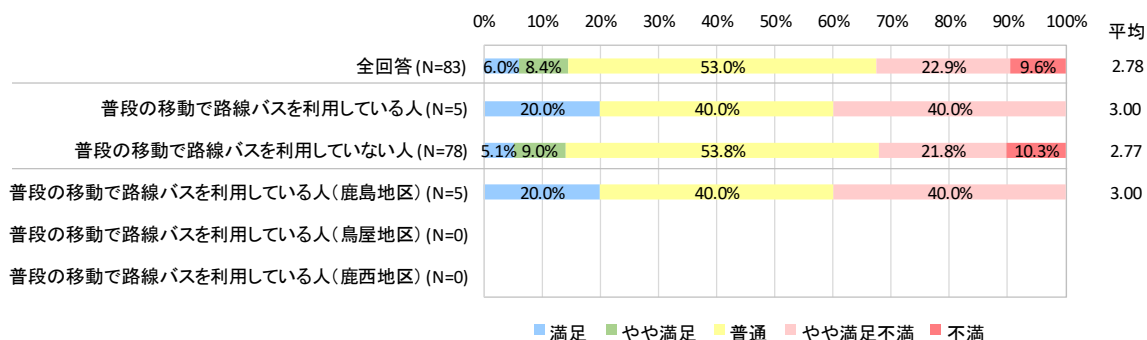


【普段の路線バスの利用状況別に見たおりひめバスへの乗り換えの満足度】

「⑩おりひめバスへの乗り換え」について普段の路線バスの利用状況別の満足度をみると、普段の移動において路線バスを利用している人は、満足（「満足」「やや満足」の合計）と回答した割合は 20.0%、不満（「やや不満」「不満」の合計）と回答した割合が 40.0%であり、普段の移動において路線バスを利用していない人は満足が 14.1%、不満が 32.1%であった。

鳥屋地区および鹿西地区の回答者の中には、普段の移動において路線バスを利用しており本項目について満足度を回答している人はいなかった。

図表 232 普段の路線バスの利用状況別・地区別にみたおりひめバスへの乗り換えの満足度



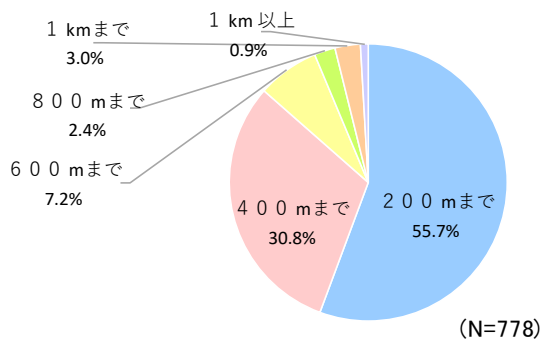
(4) 再編に関する意向

①最寄バス停までの距離について

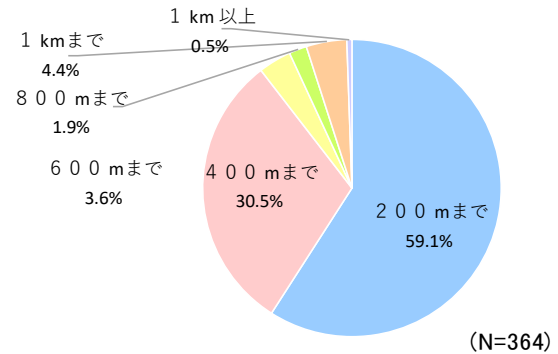
自宅から最寄バス停までの距離として、「歩いて良い」と感じる距離は、「200m まで」が最も多く 55.7%、次いで「400m まで」が 30.8%、「600m まで」が 7.2%であった。

65 歳以上の回答をみると、「200m まで」と「400m まで」の合計が約 9 割を占める結果となった。

図表 233 バス停までの許容距離



図表 234 バス停までの許容距離 (65 歳以上)



②乗り換えについて

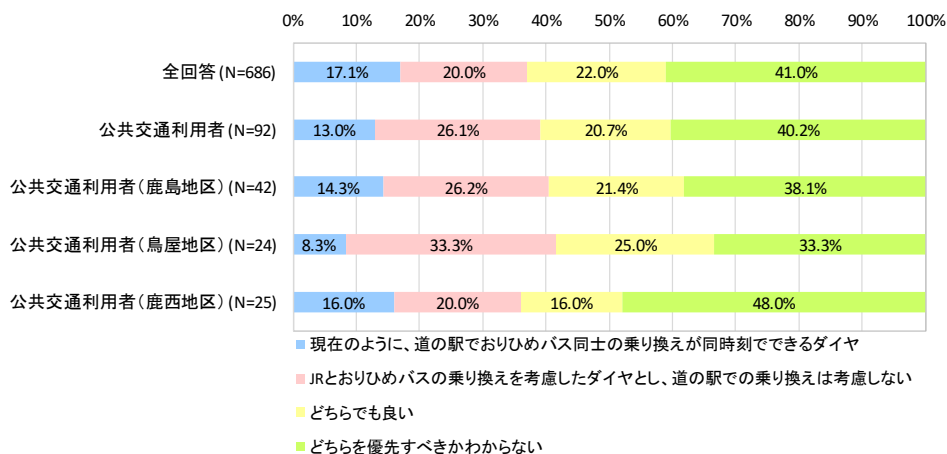
1) おりひめバスと JR

おりひめバスと JR の乗り換えは、おりひめバス同士の乗り換えを優先する回答者が 17.1%、JR 駅でおりひめバスと JR の接続を優先する回答者が 20.0%であった。

公共交通利用者※の回答を見ると、全回答と比較して JR とおりひめバスの乗り換えを優先する回答の割合が多く、26.1%であった。なかでも、鳥屋地区は特に JR との接続を優先する回答者が多かった。

※以下、「公共交通利用者」は問 1 の直近 1 ヶ月の外出において、公共交通に該当する選択肢を 1 つ以上選択した回答者を指す。

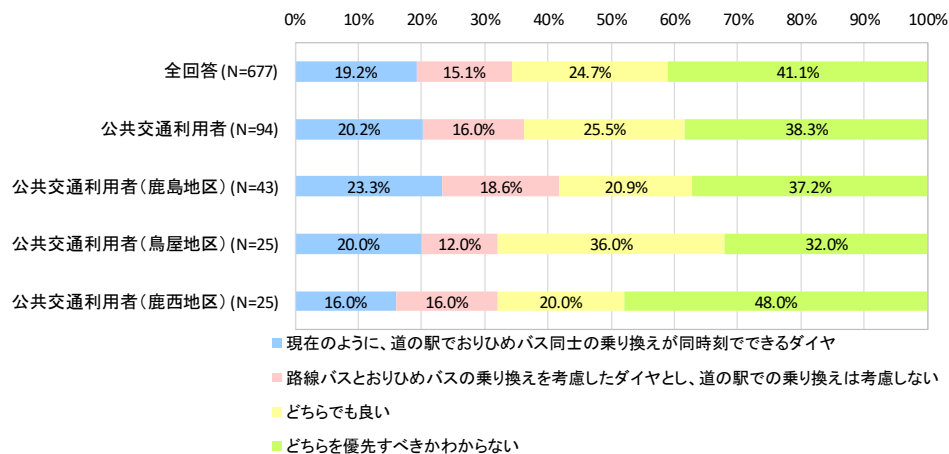
図表 235 おりひめバスと JR の乗り換え



2) おりひめバスと路線バス

おりひめバスと路線バスの乗り換えは、おりひめバス同士の乗り換えを優先する回答者が 19.2%、おりひめバスと路線バスの接続を優先する回答者が 15.1%であった。公共交通利用者の回答も全回答と同様の傾向であった。

図表 236 おりひめバスと路線バスの乗り換え

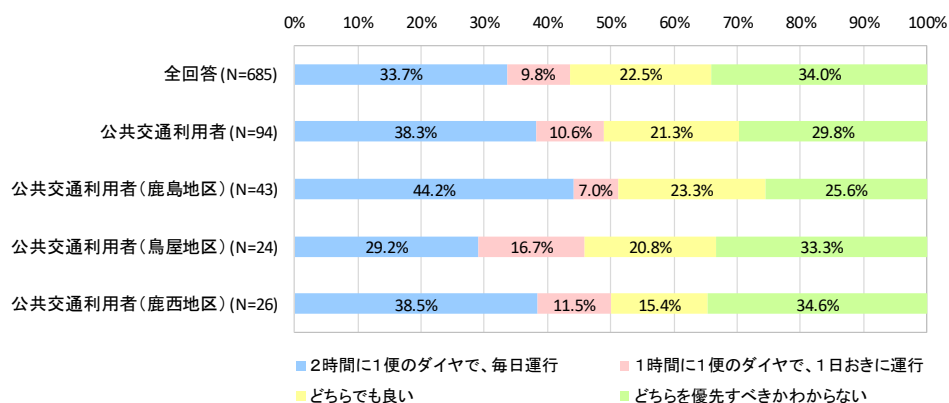


③おりひめバスの便数と運行日について

便数と運行日については、2時間に1便で毎日運行が 33.7%、1時間に1便で隔日運行が 9.8%であった。公共交通利用者の回答を見ると、全回答より2時間に1便で毎日運行と回答した割合がやや高く、38.3%であった。

地区別の回答では、鳥屋地区は他の地区と比較して1時間に1便で隔日運行の回答が多く 16.7%であった。

図表 237 おりひめバスの便数と運行日

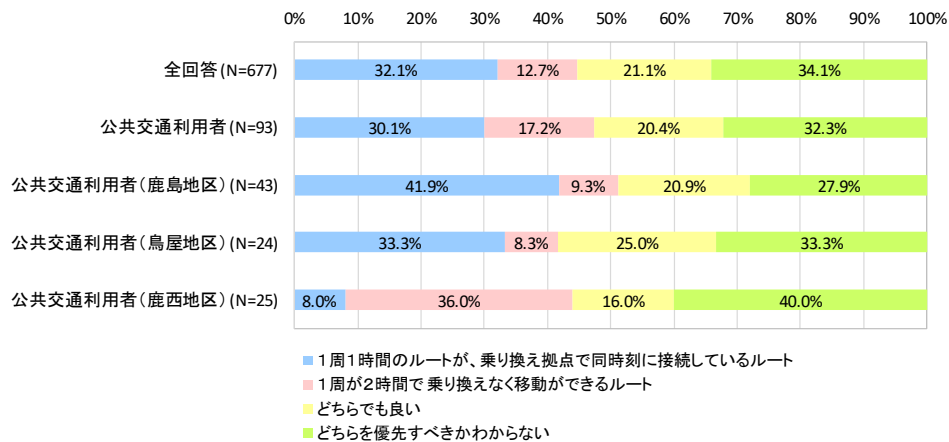


④ルート1週の所要時間と乗り換えの有無について

1 週の所要時間と乗り換えについては、1 周 1 時間で乗り換えありが 32.1%、1 周 2 時間で乗り換えなしが 12.7%であった。

公共交通利用者の回答は、全回答と比較して 1 周 2 時間で乗り換えなしの回答の割合がやや高く、17.2%であった。なかでも、鹿西地区は 1 周 2 時間で乗り換えなしの回答の割合が特に多く 36.0%であった。

図表 238 ルート1週の所要時間と乗り換えの有無



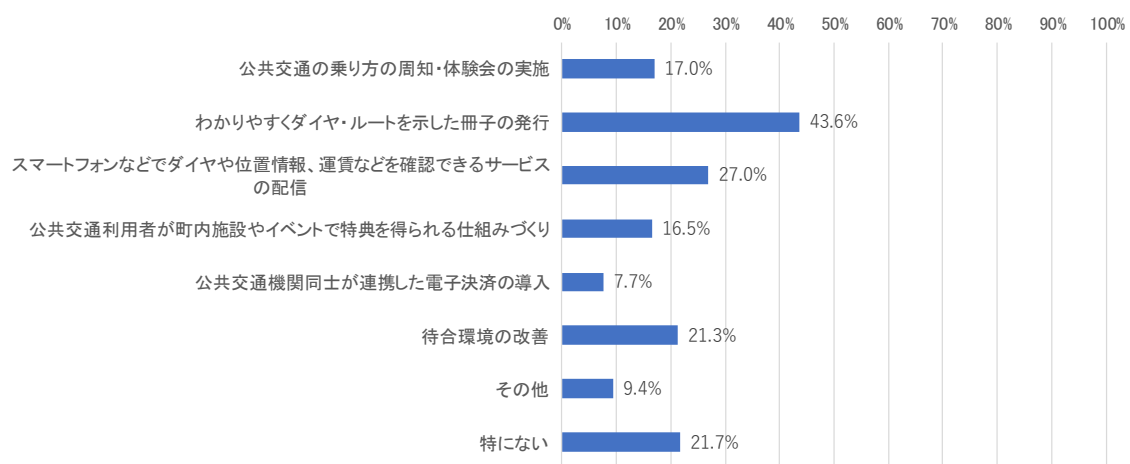
（５）利用促進のための取組

公共交通の利用促進のためにあったら良いと思う取組は、「わかりやすくダイヤ・ルートを示した冊子の発行」が最も多く 43.6%、次いで「スマートフォンなどでダイヤや位置情報、運賃などを確認できるサービスの配信」が 27.0%、「待合環境の改善」が 21.3%であった。

65 歳以上の回答は、「わかりやすくダイヤ・ルートを示した冊子の発行」が最も多く 49.4%、次いで「待合環境の改善」が 21.1%、「公共交通の乗り方の周知・体験会の実施」が 18.9%であった。

公共交通を利用していない人の回答も、「わかりやすくダイヤ・ルートを示した冊子の発行」が最も多く 36.6%、次いで「スマートフォンなどでダイヤや位置情報、運賃などを確認できるサービスの配信」が 33.3%、「公共交通利用者が町内施設やイベントで特典を得られる仕組みづくり」が 23.7%であった。

図表 239 利用促進のための取組

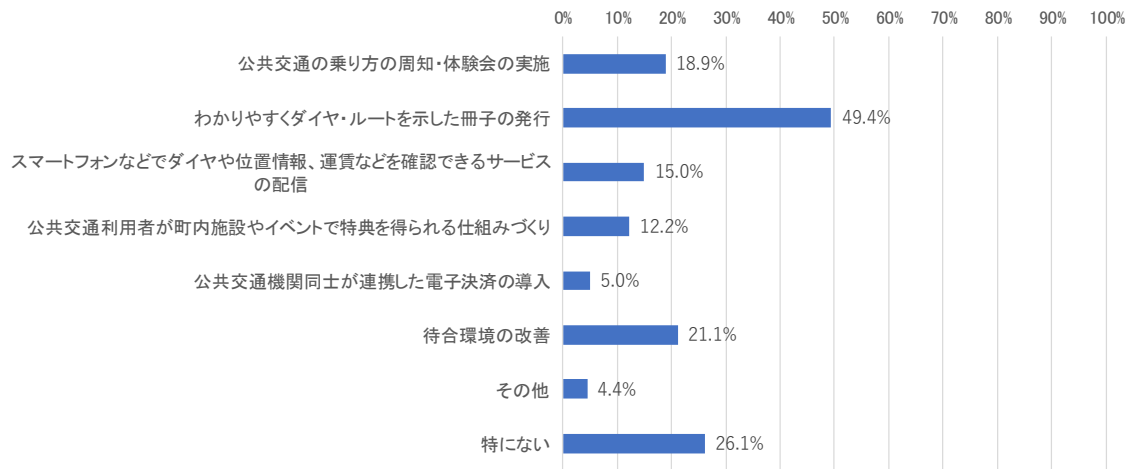


(N=690)

図表 240 利用促進のための取組（その他 具体的回答）

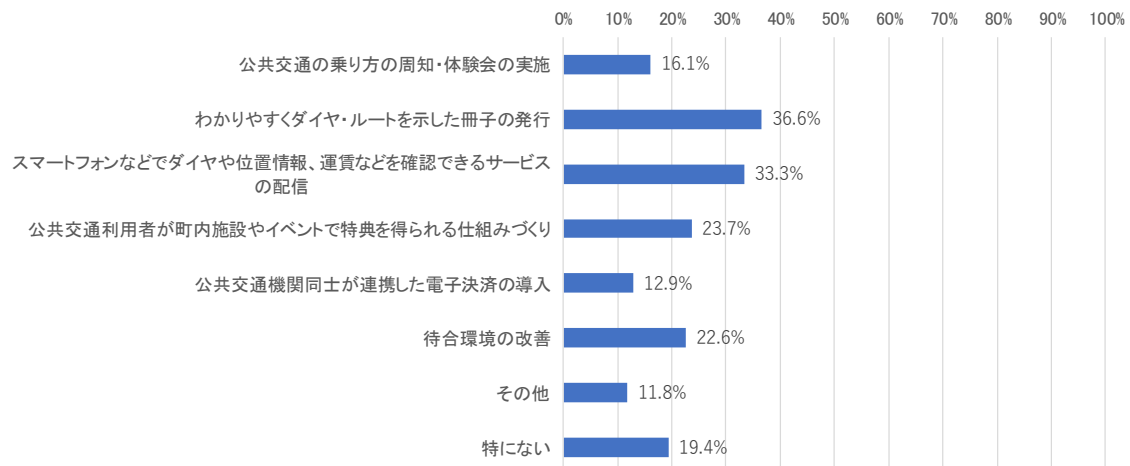
回答	件数	回答	件数
便数を増やす	6	快速便の導入	1
運賃が安くなる	4	ドライバーの接遇向上	1
フリー乗降の導入	4	バス停の増設（行き先施設付近）	1
バス停の増設（自宅付近）	4	バスの位置情報発信	1
時刻表・マップの配布	3	施設滞在時間を考慮したダイヤ	1
通勤通学での利用	3	曜日別ルートを設定行き先が増える	1
バスの小型化	2	乗り換え接続の改善	1
アル・プラザ鹿島での乗降	2	体験乗車できる無料券の配布	1
夜便の増便	2	車内の雰囲気向上	1
逆回りルートの運行	2		

図表 241 利用促進のための取組（65 歳以上）



(N=180)

図表 242 利用促進のための取組（公共交通を利用していない人）



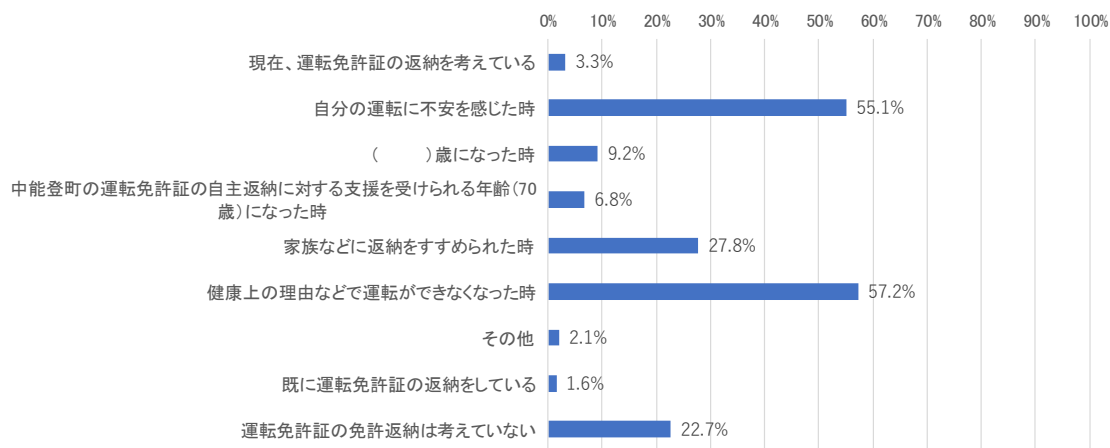
(N=597)

（６）免許返納に対する考え

①免許返納を考える状況

免許返納を考える状況は「健康上の理由などで運転ができなくなった時」が最も多く 57.2%、次いで「自分の運転に不安を感じたとき」が 55.1%、「家族などに返納をすすめられた時」が 27.8%であった。

図表 243 免許返納に対する考え



(N=690)

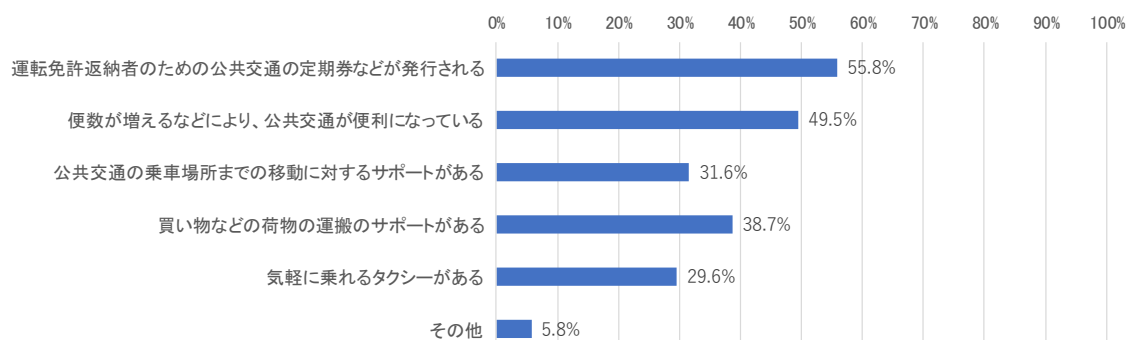
②免許返納後に欲しいサービス

運転免許証の返納後にあったら良いと感じるサービスは、「運転免許返納者のための公共交通の定期券などが発行される」が最も多く 55.8%、次いで「便数が増えるなどにより、公共交通が便利になっている」が 49.5%であった。

「気軽に乗れるタクシーがある」の具体的な回答は「低運賃化 定期券・定期券割引券の配布」「近所の人と乗りあいで利用できる」「簡単に予約ができる」などがあつた。

「その他」の具体的な回答は「ネット販売・移動販売・配送サービスの充実」「公共交通の無償」「タクシーの使いやすさ向上」などがあつた。

図表 244 免許返納後に欲しいサービス



(N=693)

図表 245 免許返納後に欲しいサービス（「気軽に乗れるタクシー」の具体的回答）

回答	件数
低運賃化 定期券・定期券割引券の配布	41
近所の人と乗りあいで利用できる	15
簡単に予約ができる	5
自宅まで迎えに来てくれる	4
特定の施設まで定額で乗れる	4
デマンドタクシーの拡大（乗合・決まったダイヤ）	3
待ち時間が少ない	2

図表 246 免許返納後に欲しいサービス（「その他」の具体的回答）

回答	件数
ネット販売・移動販売・配送サービスの充実	8
公共交通の無償化	3
タクシーの使いやすさ向上	3
特定の施設への送迎バスの導入	3
町内の施設情報が確認できるサービス	1
一ヶ所で用事が済む複合施設	1

(7) 自由記述

自由記述欄の意見を表に示す。木曜日の運行希望および1時間に1便の運行を希望する意見が5件ずつ、バス停の近接化や終バス時間の延長、能登総合病院等へのアクセス、J Rとおりひめバスとの結節強化を希望する意見が4件ずつであった。

図表 247 自由記述 回答内容

おもな自由意見	件数
木曜日の運行希望	5
1 時間に 1 便	5
バス停の近接化	4
終バス時間の延長	4
能登総合病院等へのアクセス	4
J Rとおりひめバスとの結節強化	4
タクシーチケット	3
フリー乗降の復活	3
良川・七尾間のアクセス	2
デマンドタクシーの拡大	2
自転車・シニアカーのバス持込	2
徳前つどいの里行きのバス	1
全コースをアル・ブラザ乗り入れ	1
良川と越路の直通バス	1
休日便の廃止	1
地域共助型バスへの転換	1
バスの現在地表示システム	1
バリアフリー化	1
利用の少ない便の廃止	1
乗り合いタクシー	1
J R通学できるおりひめバス運行	1
1 時間に 1 便 (1 日おき可)	1
18 時便の廃止	1
わかりやすい時刻表	1
総計	51

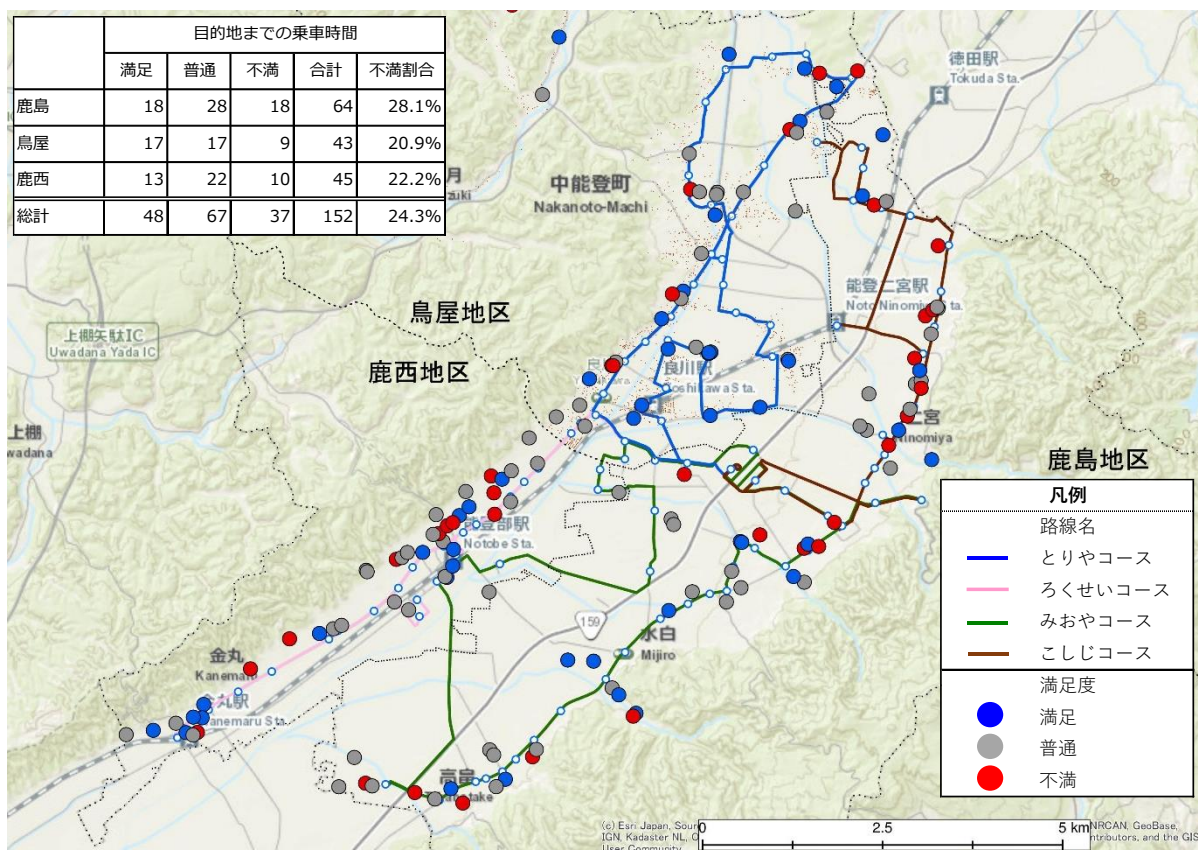
4-3. GISによるアンケート分析

(1) JRに対する満足度(65歳以上)

①目的地までの乗車時間

目的地までの乗車時間に関しては、鹿島地区において回答者数に占める不満割合が28.1%と高く、次いで鹿西地区の不満割合が22.2%となっている。

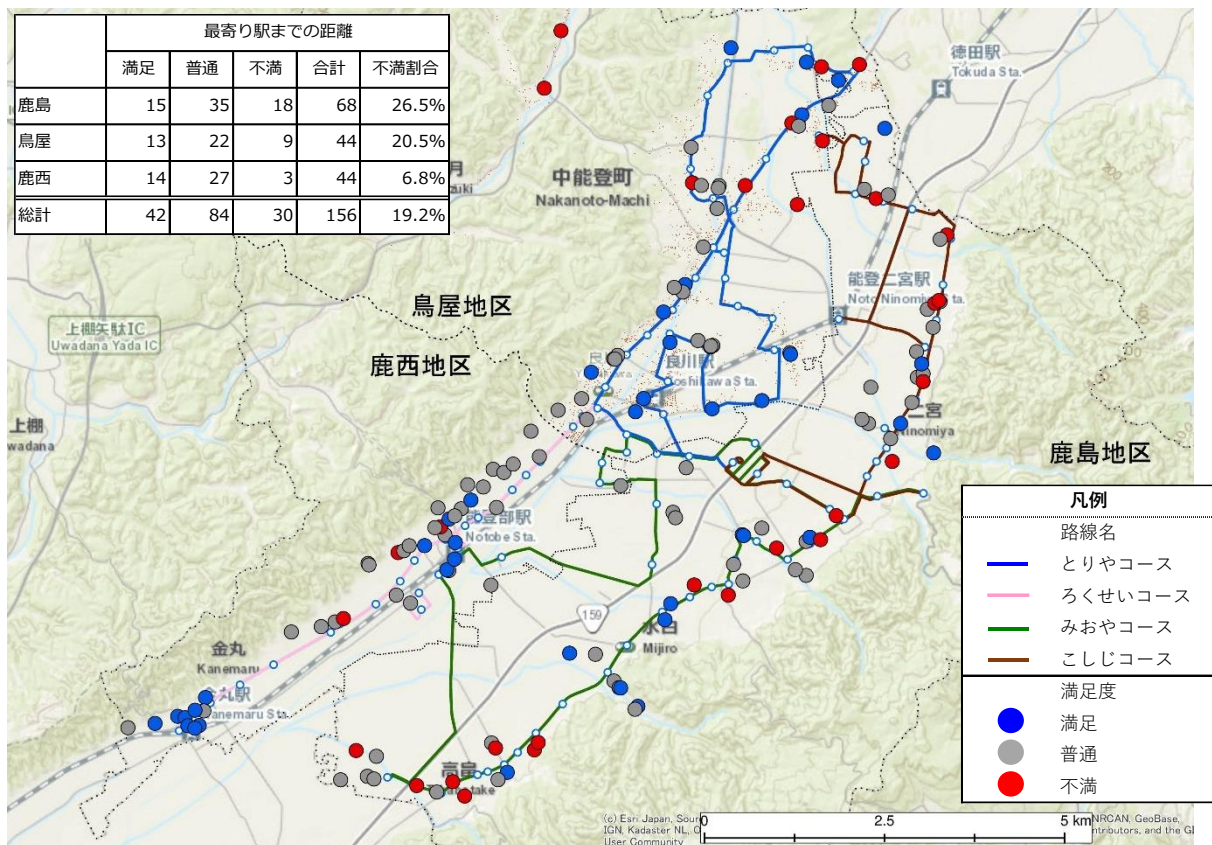
図表 248 目的地までの乗車時間



②最寄り駅までの距離

最寄り駅までの距離に関しては、鹿島地区において回答者数に占める不満割合が26.5%と高く、次いで鳥屋地区の不満割合が20.5%となっている。特に鳥屋地区については、主に北部に不満と回答した住民が分布している。

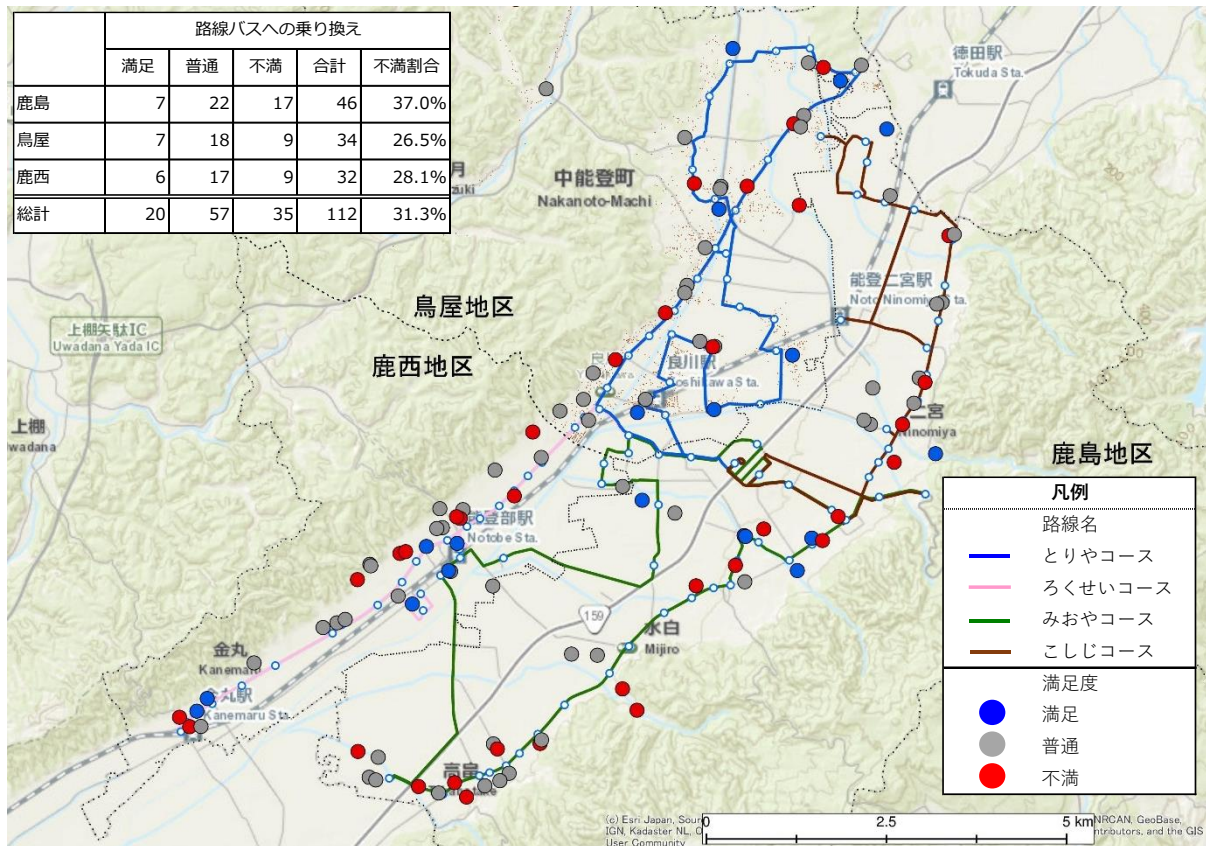
図表 249 最寄り駅までの距離



③路線バスへの乗り換え

路線バスへの乗り換えに関しては、鹿島地区において回答者数に占める不満割合が 37.0%と高く、次いで鹿西地区の不満割合が 28.1%となっている。

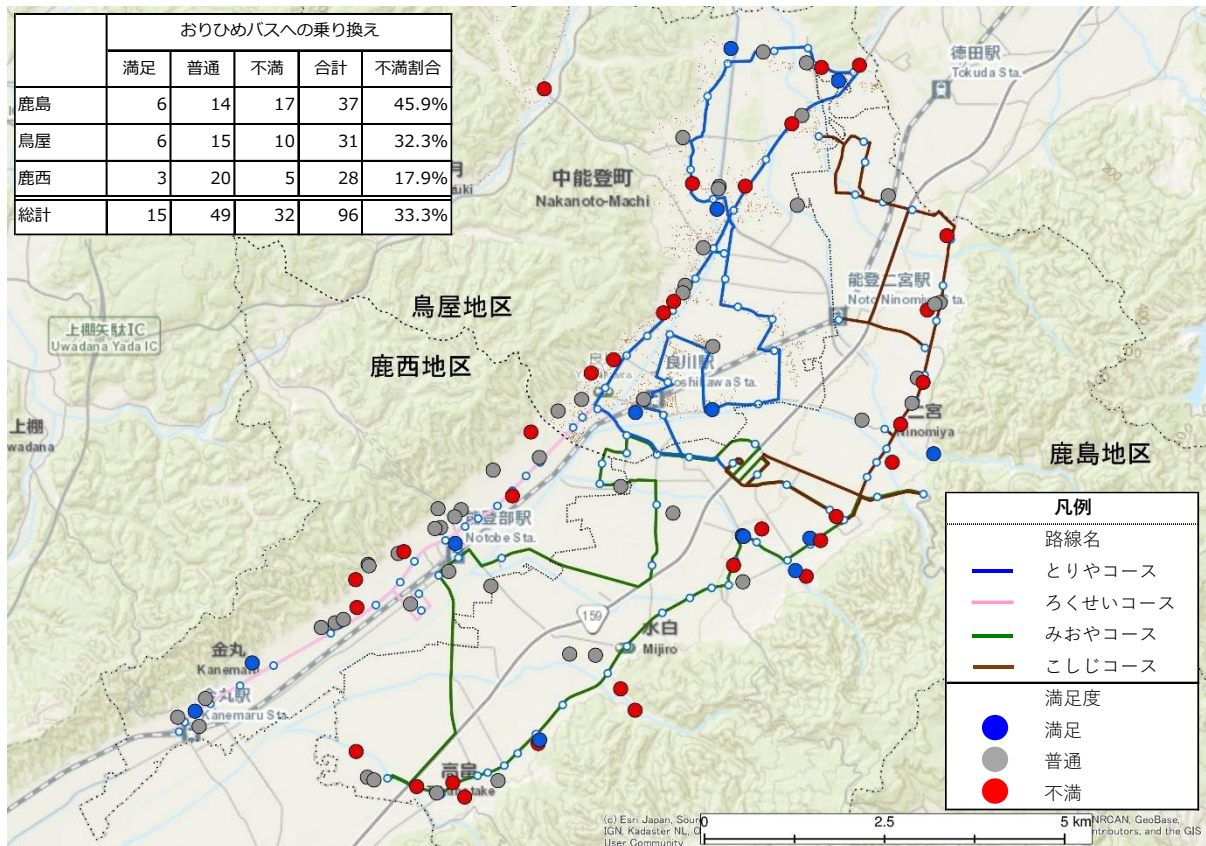
図表 250 路線バスへの乗り換え



④おりひめバスへの乗り換え

おりひめバスへの乗り換えに関しては、鹿島地区において回答者数に占める不満割合が 45.9%と高く、次いで鳥屋地区の不満割合が 32.3%となっている。

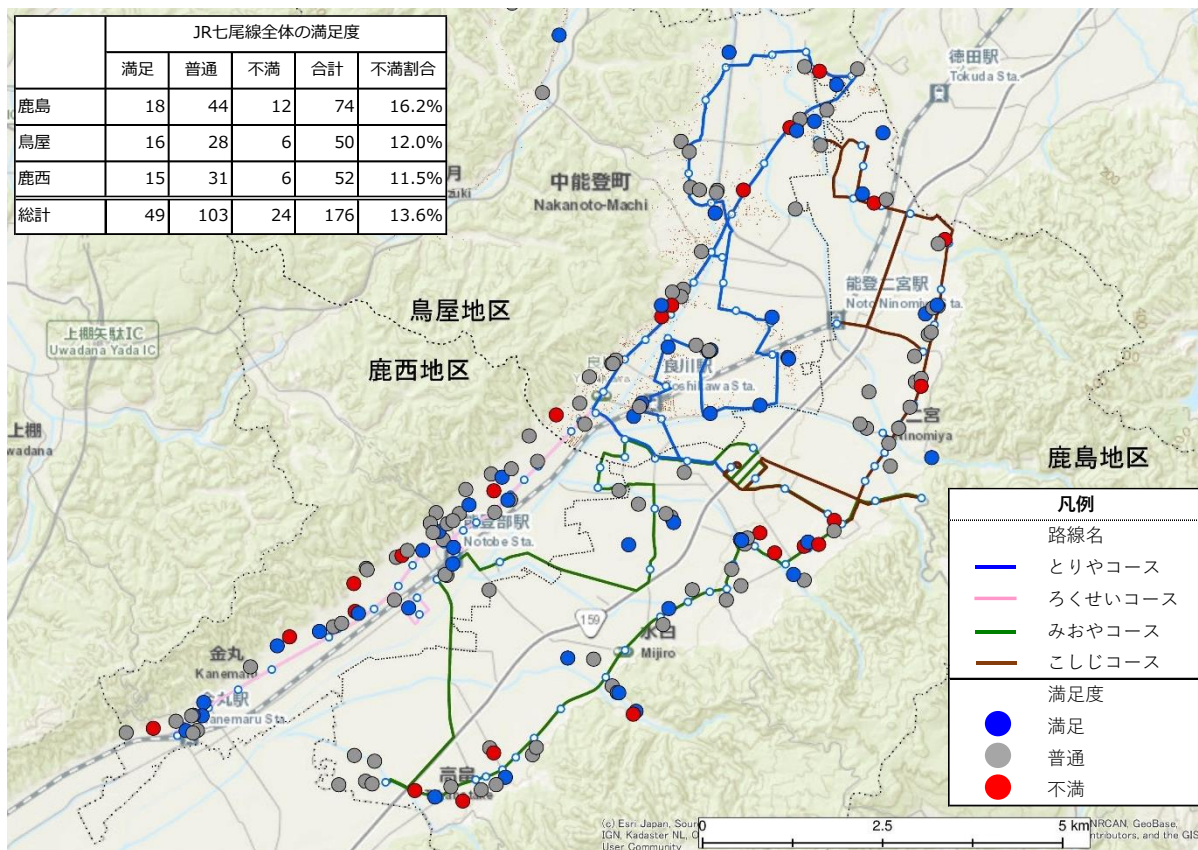
図表 251 おりひめバスへの乗り換え



⑤JR 七尾線全体の満足度

JR 七尾線全体の満足度に関しては、全ての地区で不満割合が 20%を下回っている。

図表 252 おりひめバスへの乗り換え

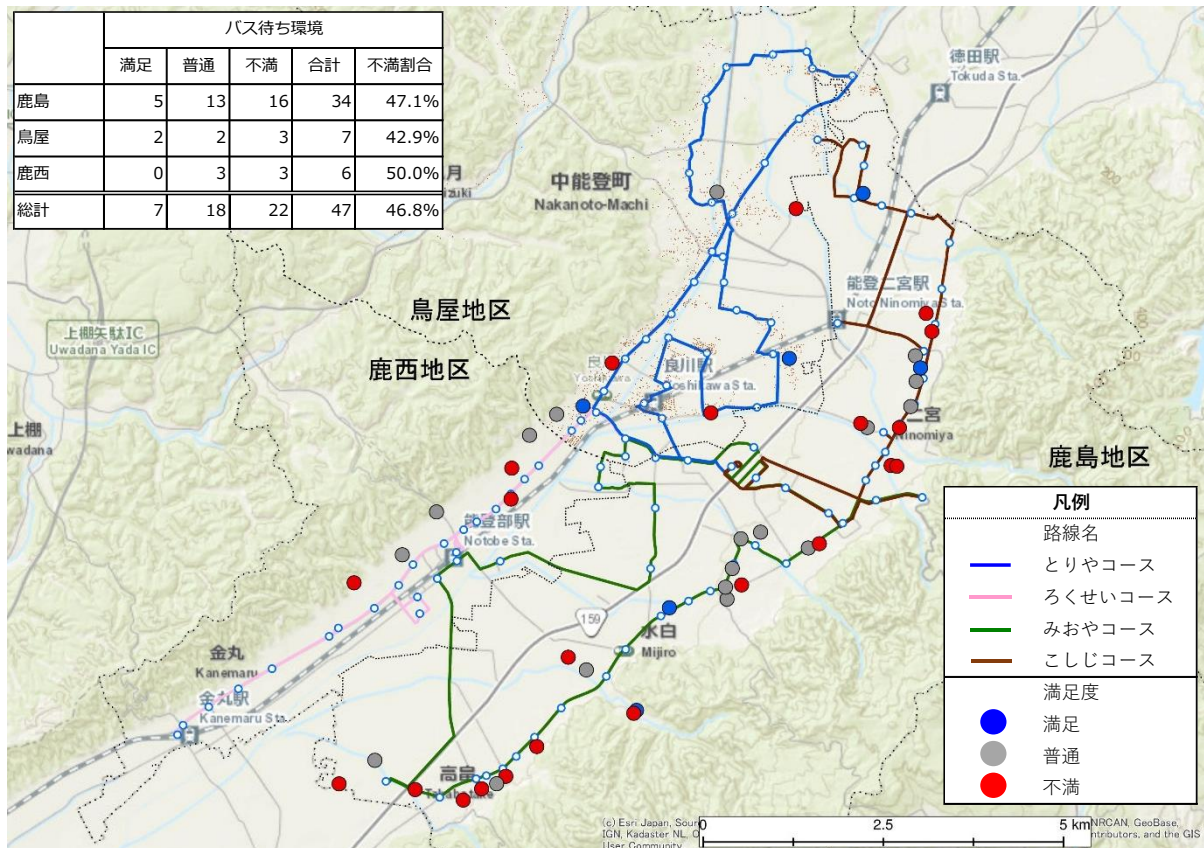


（２）路線バスに対する満足度（65 歳以上）

①バス待ち環境（屋根・ベンチなど）

バス待ち環境に関しては、鹿西地区において回答者数に占める不満割合が 50.0%と高く、次いで鹿島地区の不満割合が 47.1%となっている。

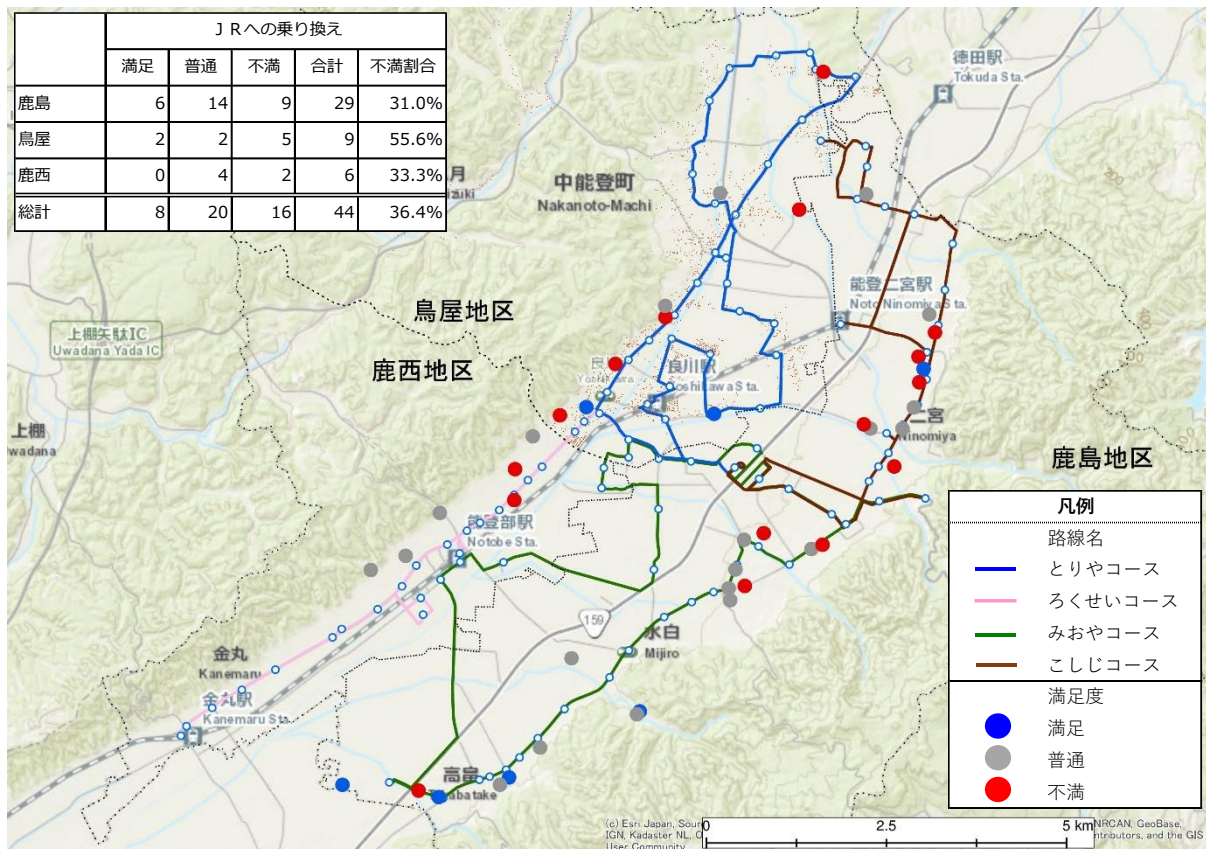
図表 253 バス待ち環境



②JR への乗り換え

JR への乗り換えに関しては、鳥屋地区において回答者数に占める不満割合が 55.6%と高く、次いで鹿西地区の不満割合が 33.3%となっている。

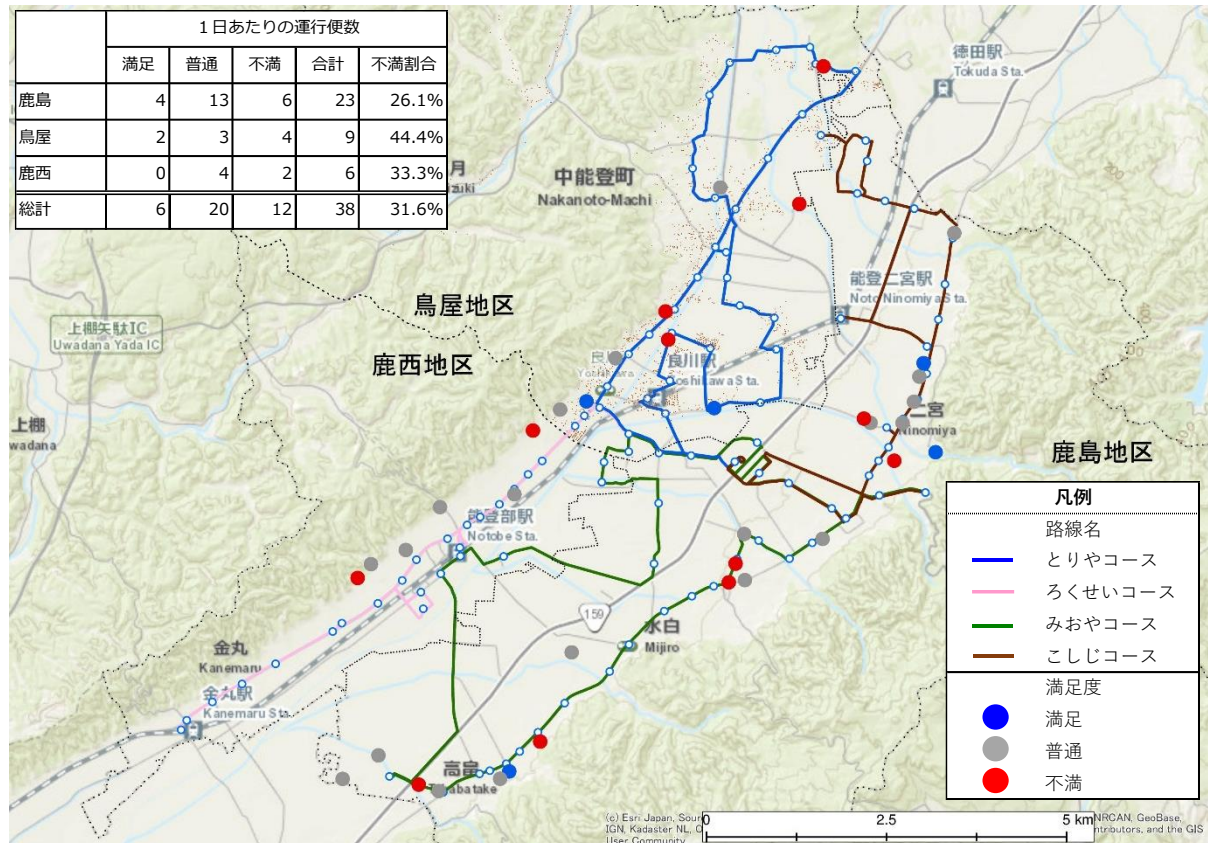
図表 254 JR への乗り換え



③1日あたりの運行便数

1日当たりの運行本数に関しては、鳥屋地区において回答者数に占める不満割合が44.4%と高く、次いで鹿西地区の不満割合が33.3%となっている。

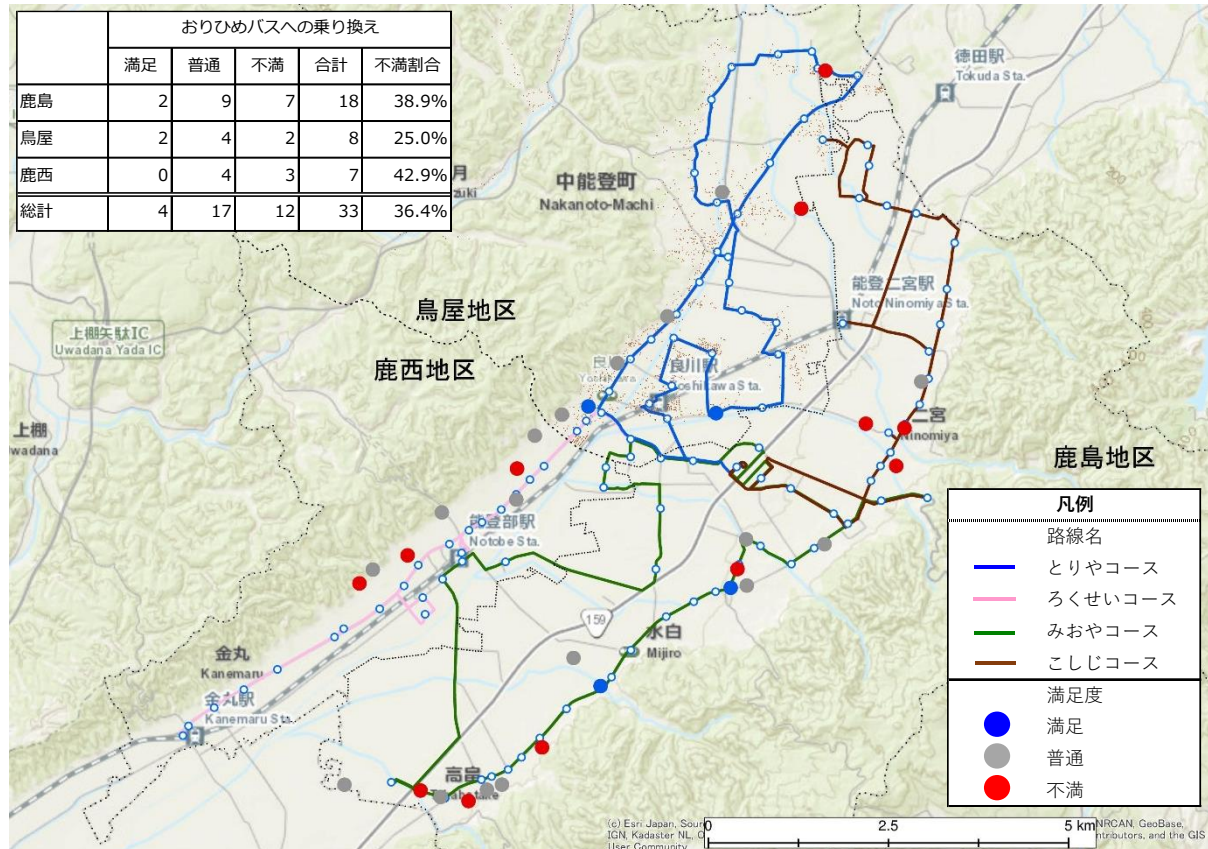
図表 255 1日あたりの運行便数



④おりひめバスへの乗り換え

おりひめバスへの乗り換えに関しては、鹿西地区において回答者数に占める不満割合が 42.9%と高く、次いで鹿島地区の不満割合が 38.9%となっている。

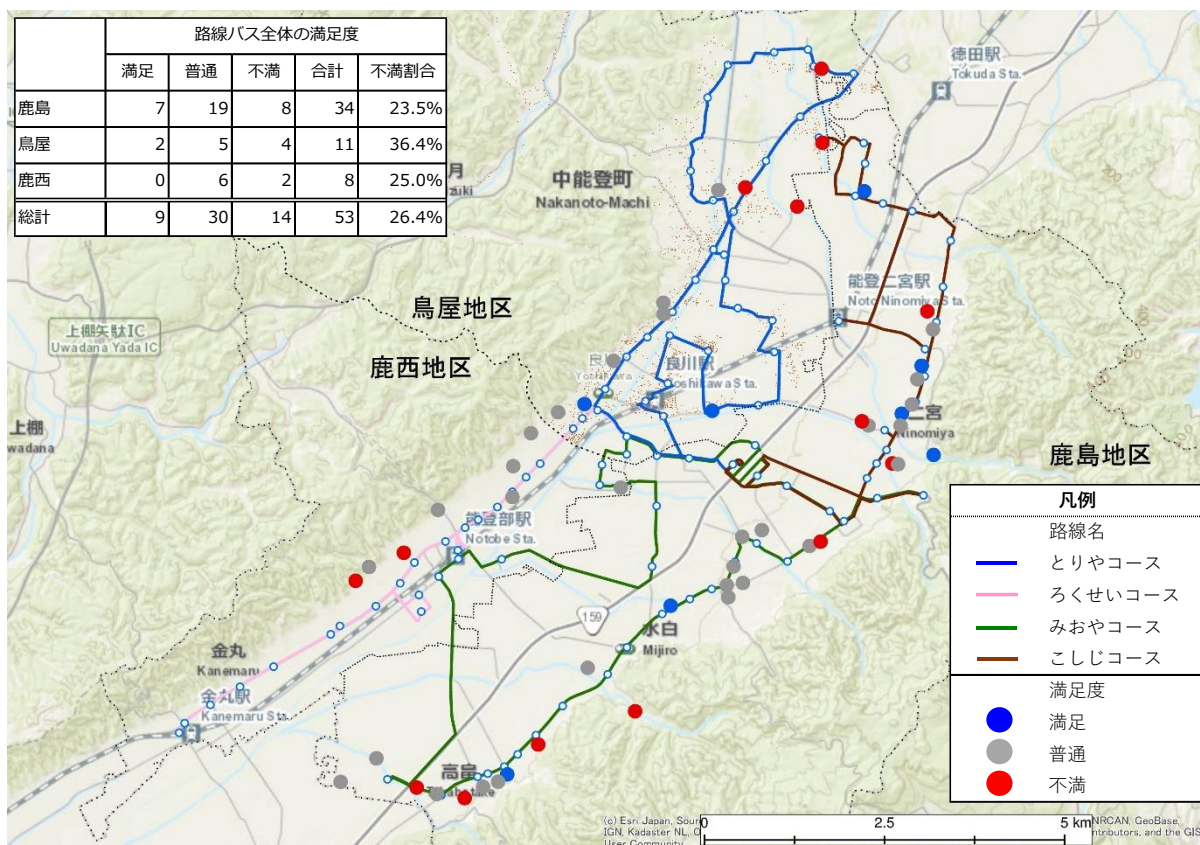
図表 256 おりひめバスへの乗り換え



⑤路線バス全体の満足度

路線バス全体の満足度に関しては主に、鳥屋地区において回答者数に占める不満割合が 36.4%と高く、次いで鹿西地区の不満割合が 25.0%となっている。特に鳥屋地区については、主に北部に不満と回答した住民が分布している。

図表 257 路線バス全体の満足度

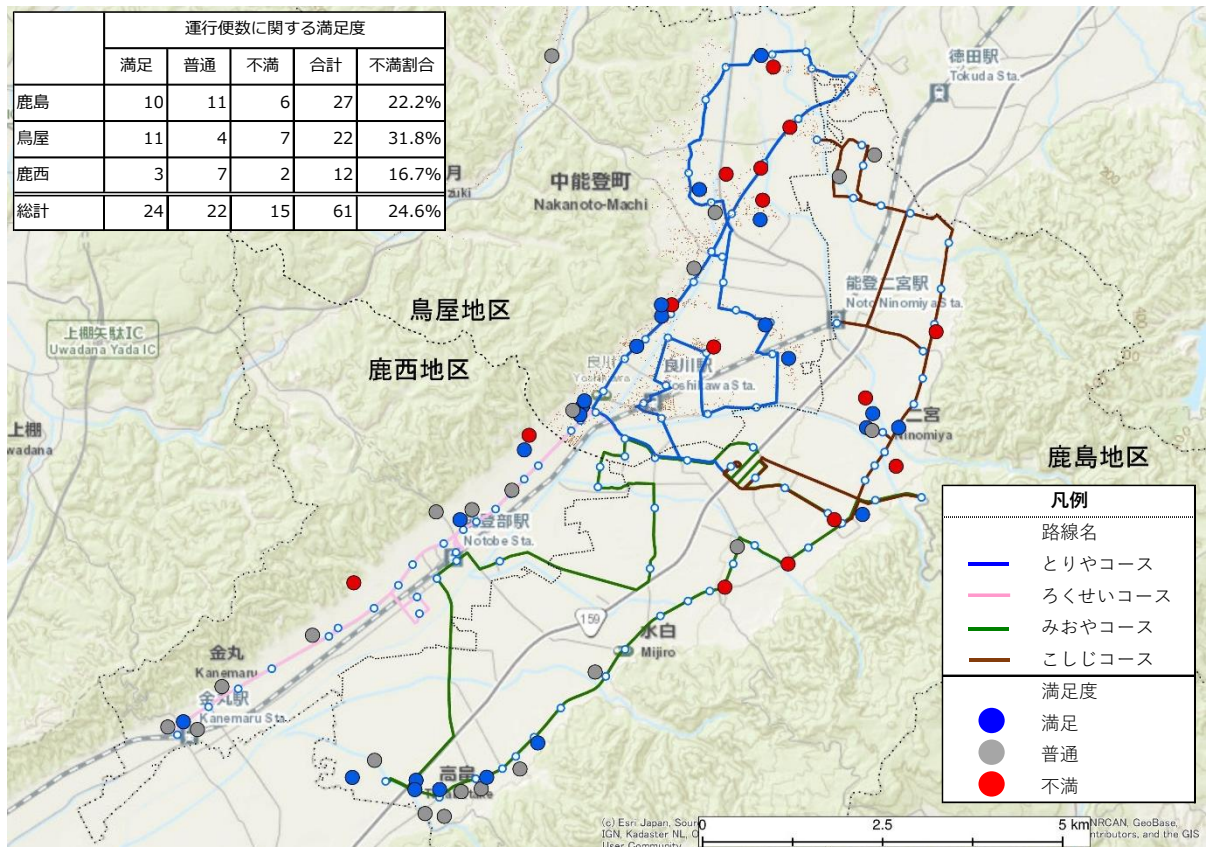


(3) おりひめバスに対する満足度（65 歳以上）

①運行便数に関する満足度

運行便数に関する満足度に関しては、鳥屋地区において回答者数に占める不満割合が 31.8%と高く、次いで鹿島地区の不満割合が 22.2%となっている。

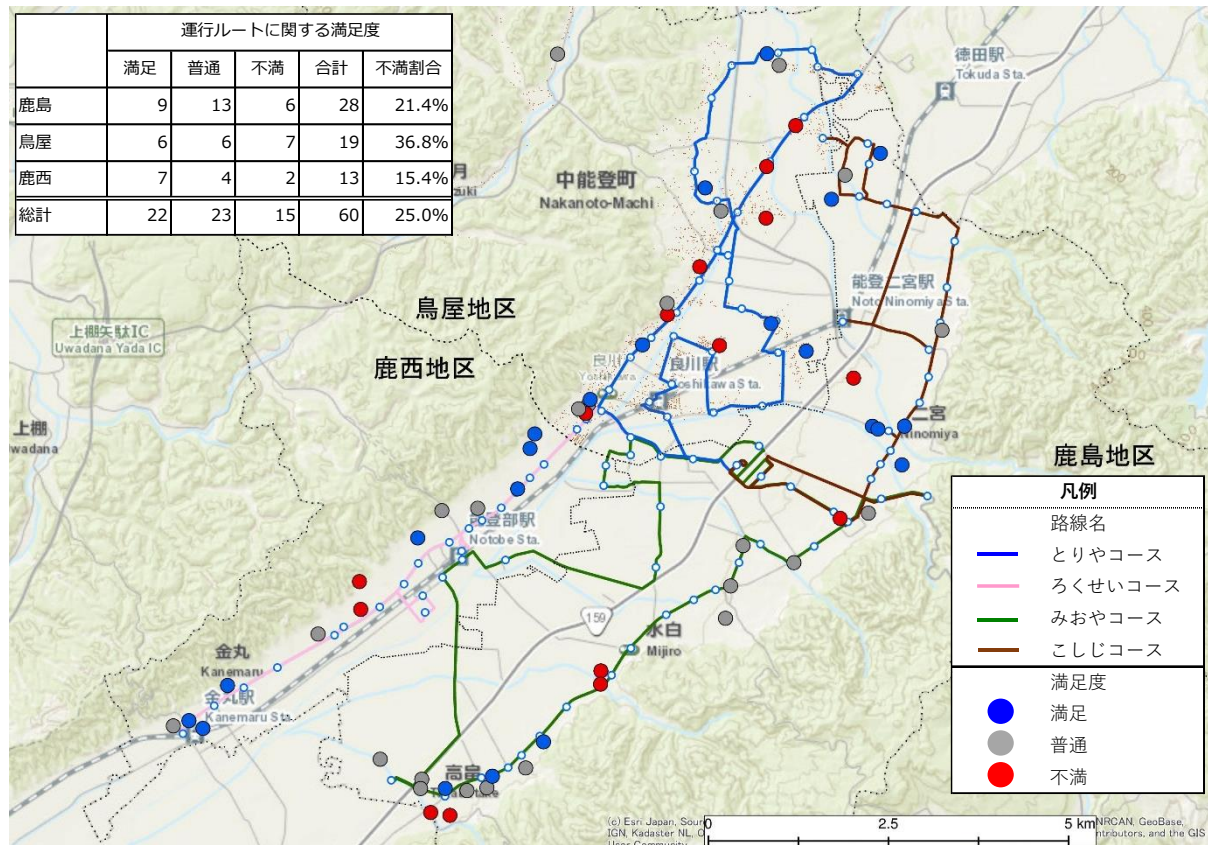
図表 258 運行便数に関する満足度



②運行ルートに関する満足度

運行ルートに関する満足度に関しては、鳥屋地区において回答者数に占める不満割合が 36.8%と高く、次いで鹿島地区の不満割合が 21.4%となっている。

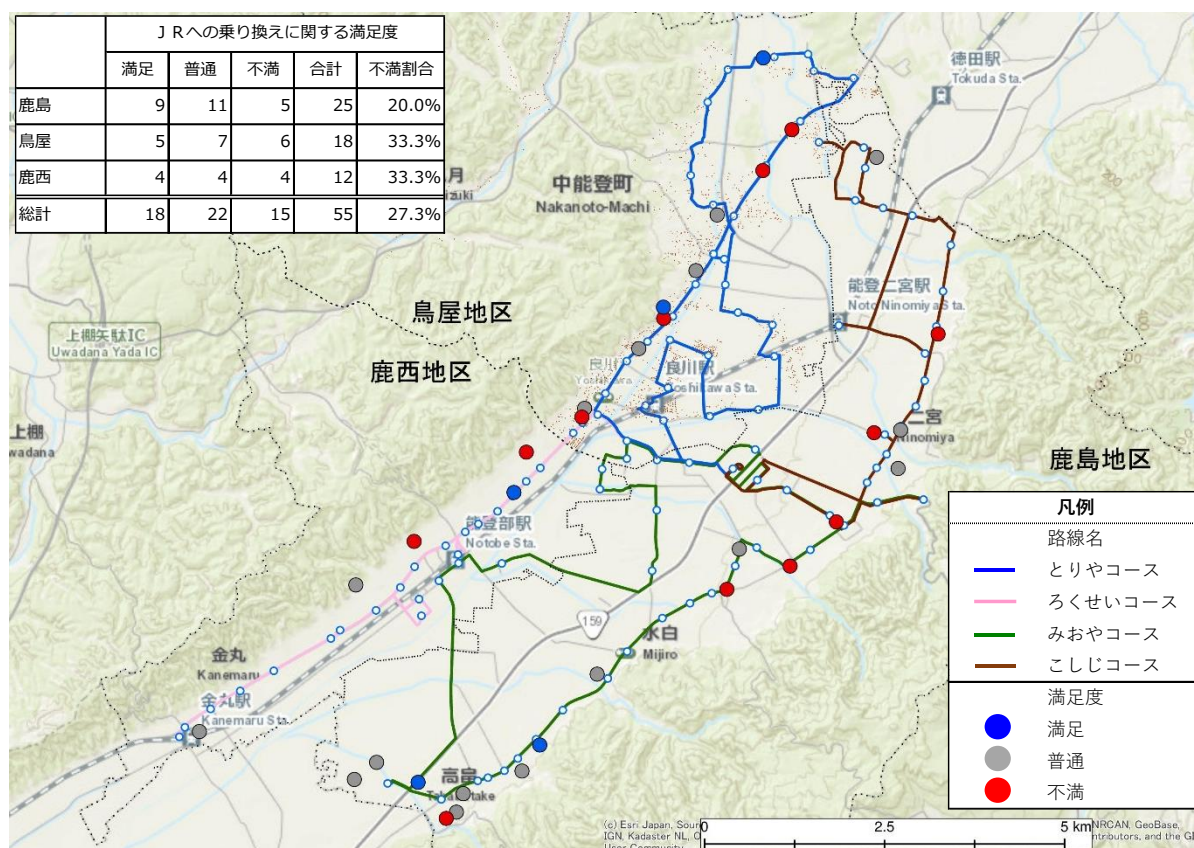
図表 259 運行ルートに関する満足度



③JR への乗り換えに関する満足度

JR への乗り換えに関する満足度に関しては、鳥屋地区、及び鹿西地区において回答者数に占める不満割合が 33.3%と高くなっている。

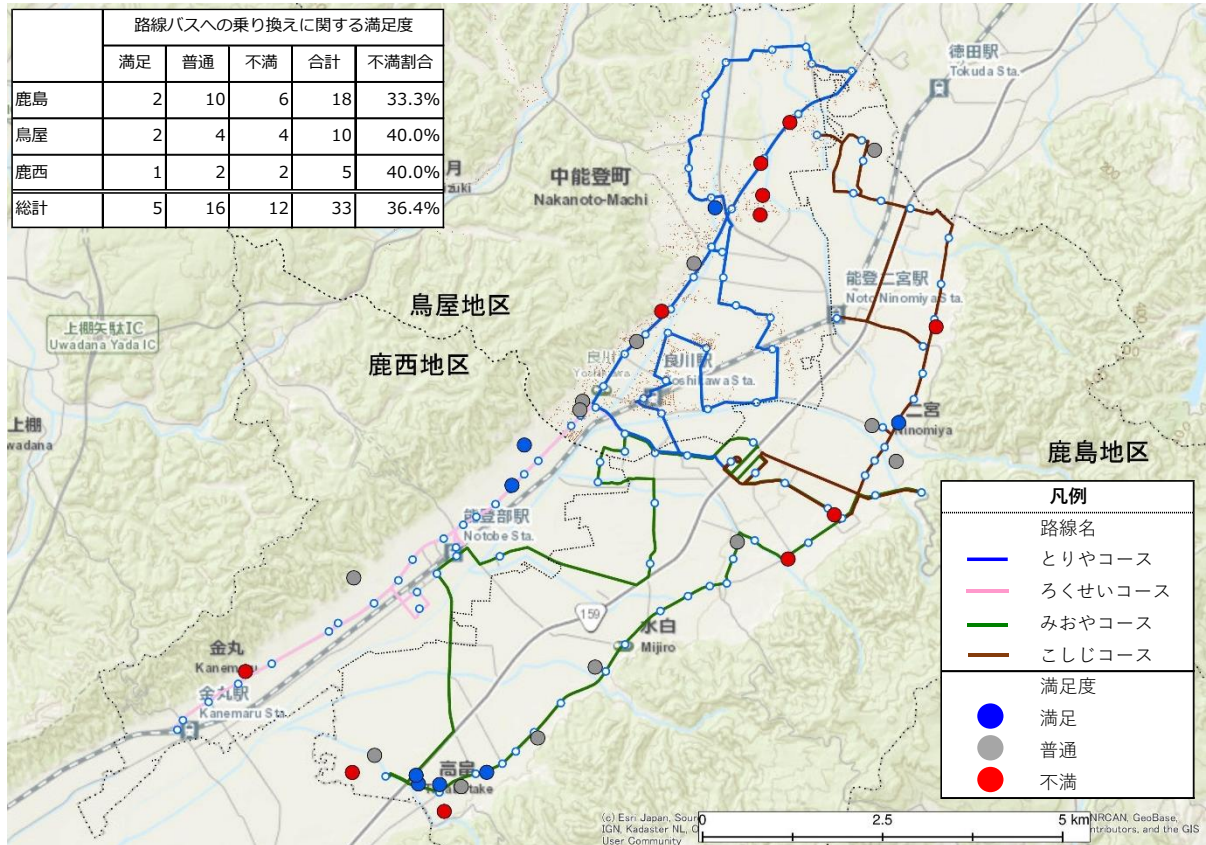
図表 260 JR への乗り換えに関する満足度



④路線バスへの乗り換えに関する満足度

路線バスへの乗り換えに関しては、鳥屋地区、及び鹿西地区において回答者数に占める不満割合が 40.0%と高くなっている。

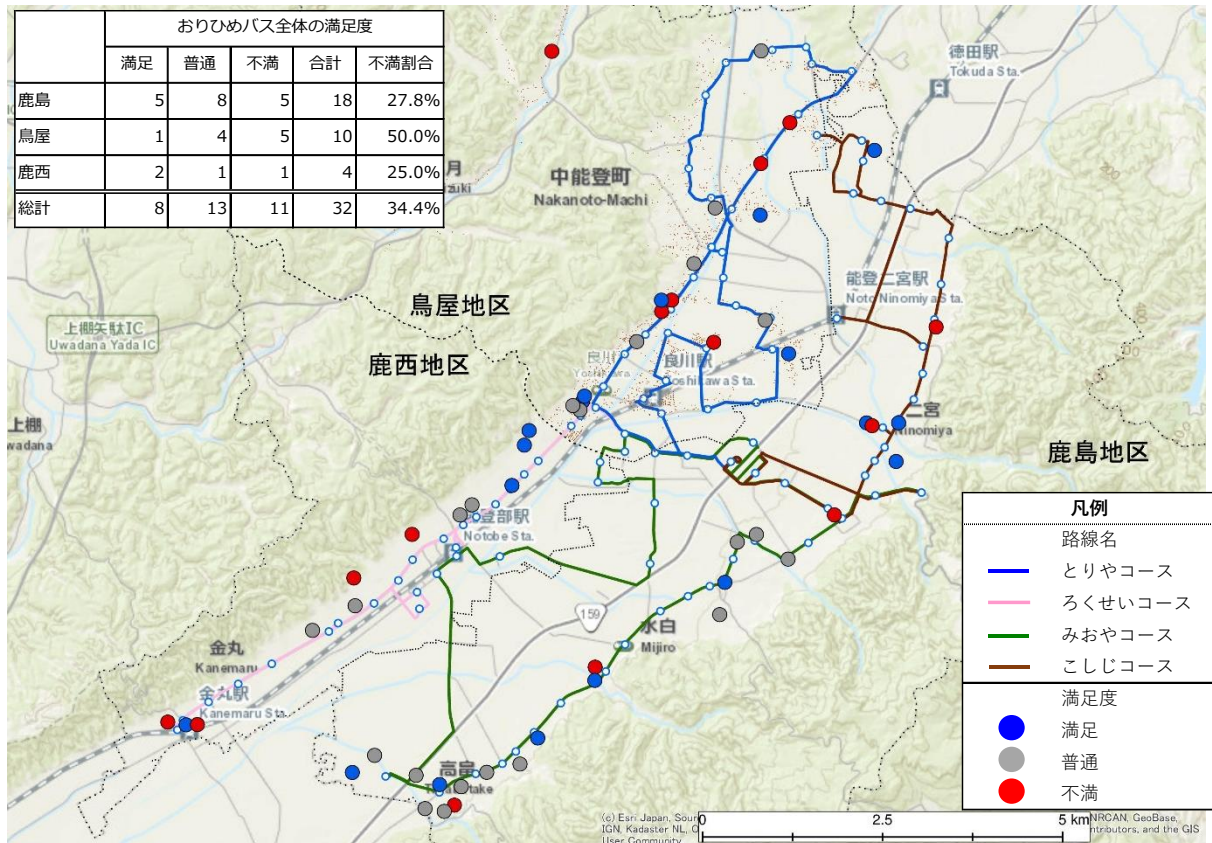
図表 261 路線バスへの乗り換えに関する満足度



⑤おりひめバス全体の満足度

おりひめバス全体の満足度に関しては、鳥屋地区において回答者数に占める不満割合が 50.0%と高く、次いで鹿島地区の不満割合が 27.8%となっている。

図表 262 おりひめバス全体に関する満足度



(4) 再編に関する意向（公共交通利用者）

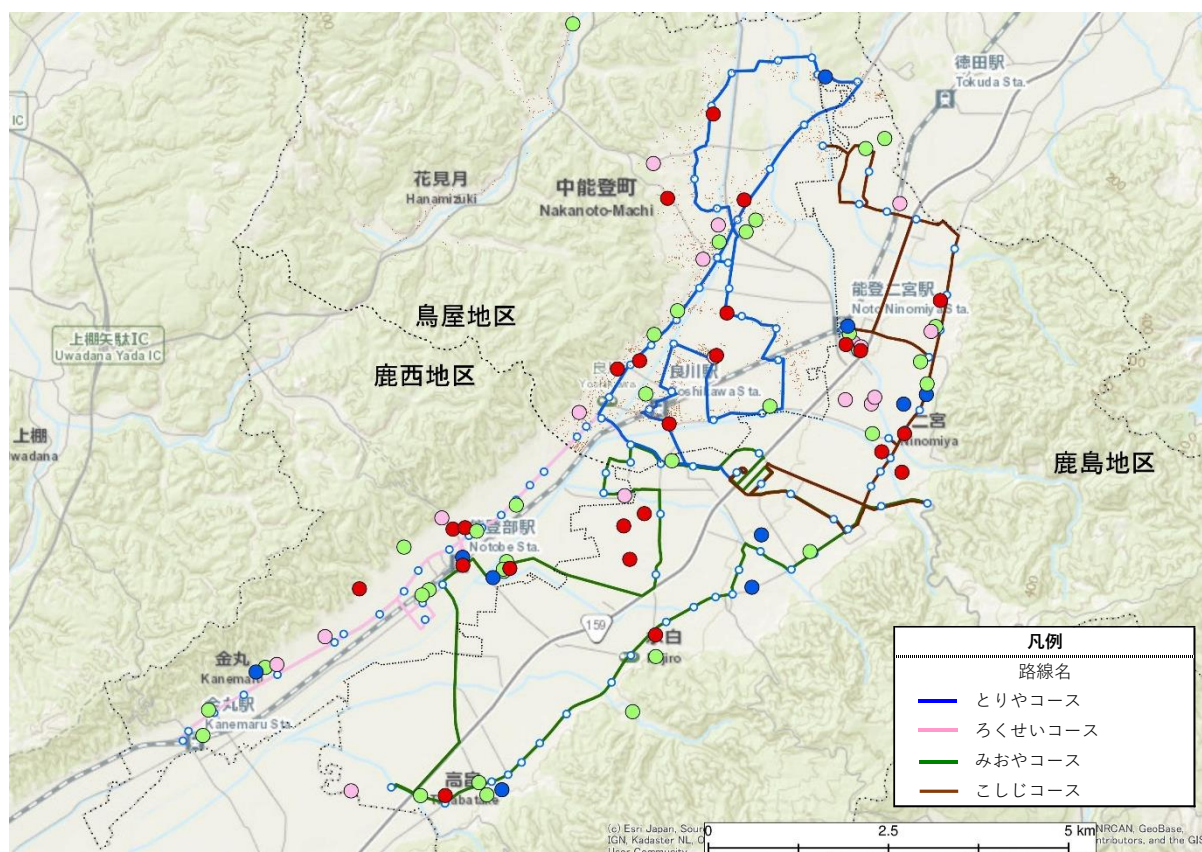
①おりひめバスと JR の乗り換え

おりひめバスと JR の乗り換えに関しては、全地域において「おりひめバスと JR の乗り換えを優先」という意見の割合が、「わからない」を除いて最も高くなっている。

図表 263 おりひめバスと JR の乗り換え

	おりひめバスと JR の乗り換え					構成比				
	●	●	●	●	合計	●	●	●	●	合計
鹿島	6	11	8	16	41	14.6%	26.8%	19.5%	39.0%	100.0%
鳥屋	1	8	6	7	22	4.5%	36.4%	27.3%	31.8%	100.0%
鹿西	3	5	4	11	23	13.0%	21.7%	17.4%	47.8%	100.0%
総計	10	24	18	34	86	11.6%	27.9%	20.9%	39.5%	100.0%

選択肢	
●	おりひめバス同士の乗り換えを優先
●	おりひめバスと JR の乗り換えを優先
●	どちらでもよい
●	わからない



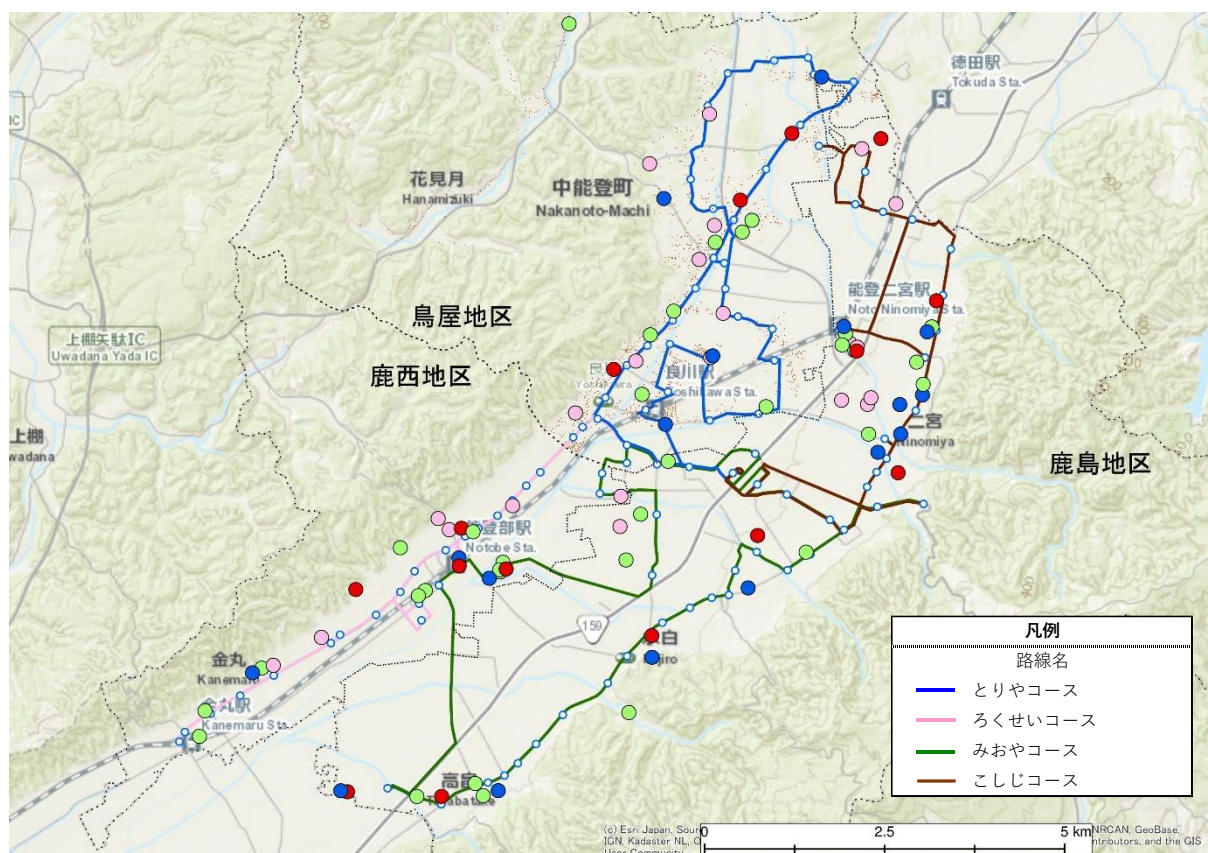
②おりひめバスと路線バスの乗り換え

おりひめバスと路線バスの乗り換えに関しては、鹿島地区、及び鳥屋地区においては「おりひめバス同士の乗り換えを優先」という意見の割合が「おりひめバスと路線バスの乗り換えを優先」を上回っている一方、鹿西地区においては「おりひめバスと路線バスの乗り換えを優先」の割合が「おりひめバス同士の乗り換えを優先」を上回っている。また、鳥屋地区、及び鹿西地区においては、「どちらでもよい」と「わからない」が合わせて約7割を占めている。

図表 264 おりひめバスと路線バスの乗り換え

	おりひめバスと路線バスの乗り換え					構成比				
	●	●	●	●	合計	●	●	●	●	合計
鹿島	10	8	8	16	42	23.8%	19.0%	19.0%	38.1%	100.0%
鳥屋	4	3	9	7	23	17.4%	13.0%	39.1%	30.4%	100.0%
鹿西	3	4	6	10	23	13.0%	17.4%	26.1%	43.5%	100.0%
総計	17	15	23	33	88	19.3%	17.0%	26.1%	37.5%	100.0%

選択肢	
●	おりひめバス同士の乗り換えを優先
●	おりひめバスと路線バスの乗り換えを優先
●	どちらでもよい
●	わからない



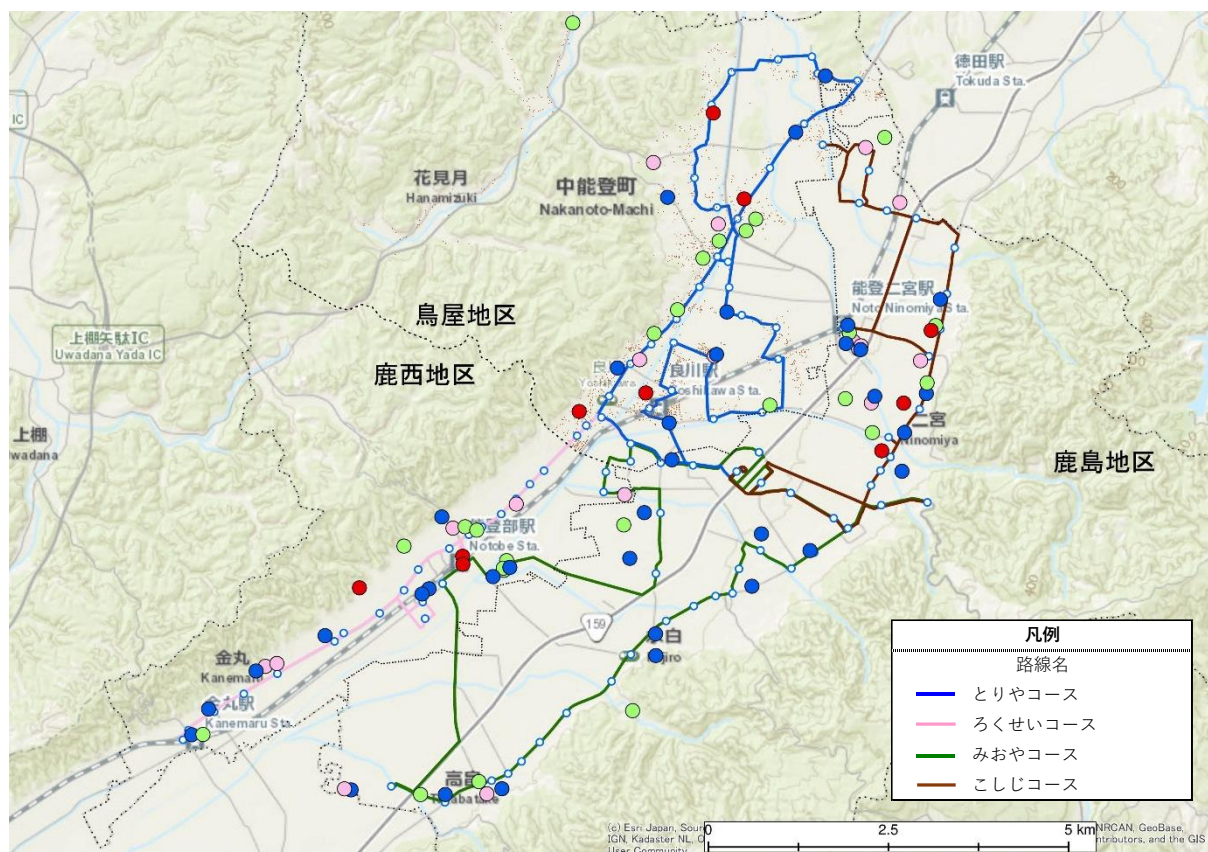
③おりひめバスの便数と運行日について

おりひめバスの便数と運行日については、全地域において「2 時間に 1 便、毎日運行」という意見の割合が最も高くなっている。

図表 265 おりひめバスの便数と運行日について

	おりひめバスの便数と運行日について					構成比				
	●	●	●	●	合計	●	●	●	●	合計
鹿島	19	3	9	11	42	45.2%	7.1%	21.4%	26.2%	100.0%
鳥屋	7	4	5	7	23	30.4%	17.4%	21.7%	30.4%	100.0%
鹿西	9	3	5	7	24	37.5%	12.5%	20.8%	29.2%	100.0%
総計	35	10	19	25	89	39.3%	11.2%	21.3%	28.1%	100.0%

選択肢	
●	2時間に1便、毎日運行
●	1時間に1便、隔日運行
●	どちらでもよい
●	わからない



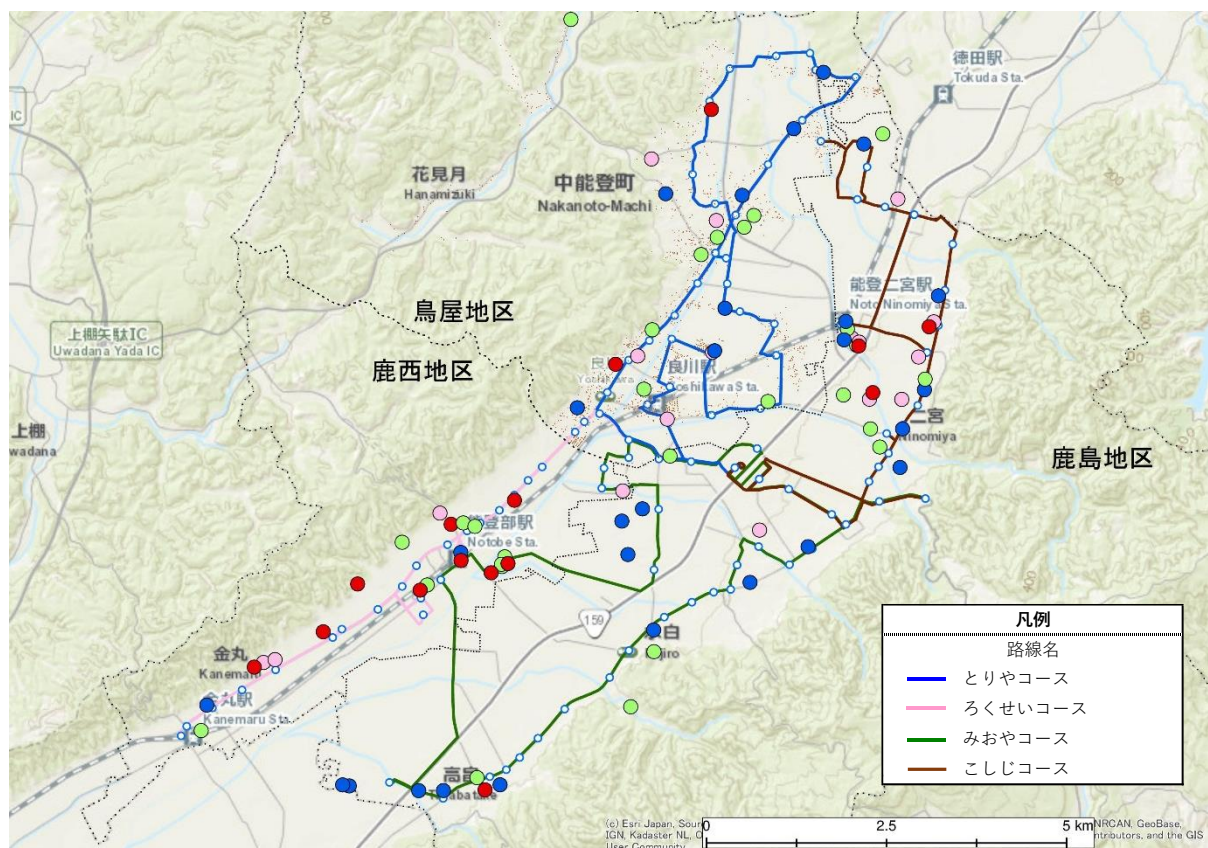
④ルート1 周の所要時間と乗り換えの有無について

ルート1 周の所要時間と乗り換えの有無については、鹿島地区と鳥屋地区において「1 周 1 時間」という意見の占める割合が最も高く、鹿西地区においては「1 周 2 時間、乗り換えなし」が最も高くなっている。

図表 266 ルート1 周の所要時間と乗り換えの有無について

	ルート1 周の所要時間と乗り換えの有無について					構成比				
	●	●	●	●	合計	●	●	●	●	合計
鹿島	18	4	8	12	42	42.9%	9.5%	19.0%	28.6%	100.0%
鳥屋	7	2	6	7	22	31.8%	9.1%	27.3%	31.8%	100.0%
鹿西	2	9	4	8	23	8.7%	39.1%	17.4%	34.8%	100.0%
総計	27	15	18	27	87	31.0%	17.2%	20.7%	31.0%	100.0%

選択肢	
●	1周1時間
●	1周2時間、乗り換えなし
●	どちらでもよい
●	わからない



(参考) 再編に関する意向 (アンケート回答者全体)

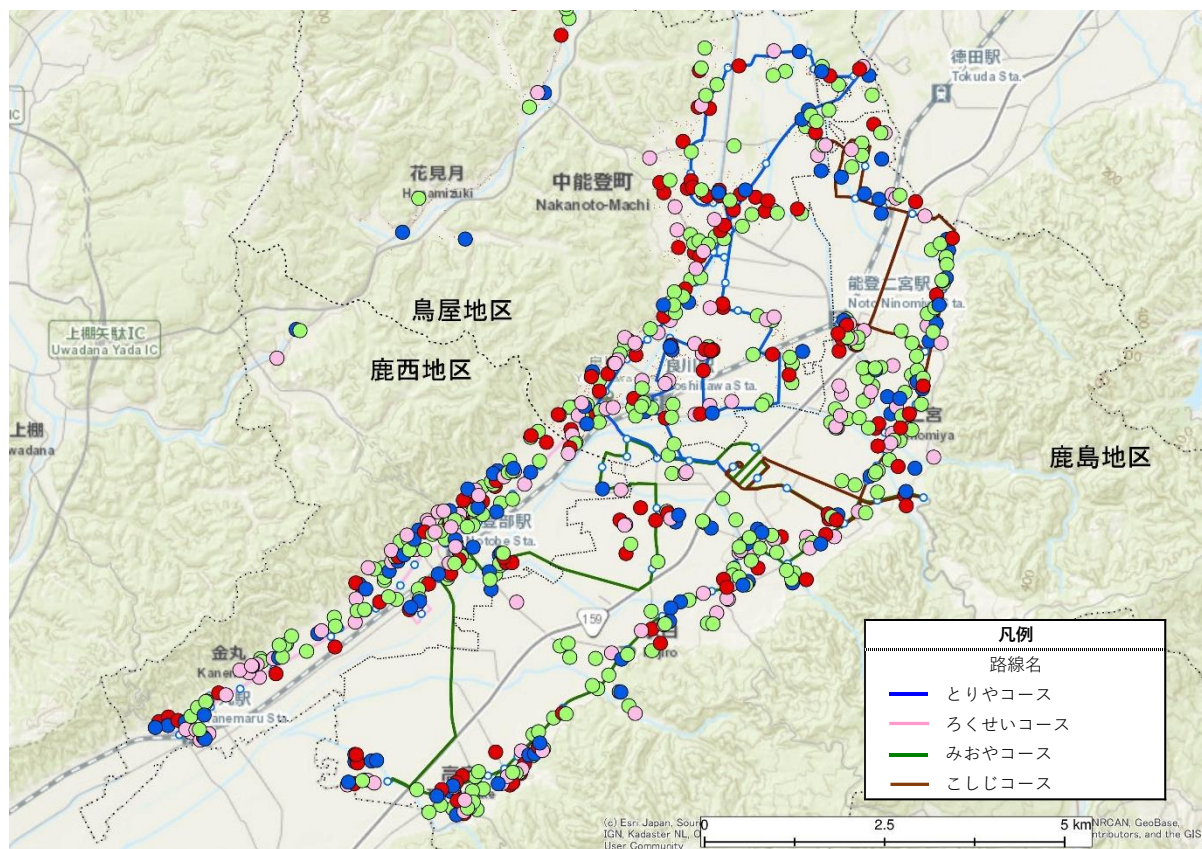
①おりひめバスと JR の乗り換え

おりひめバスと JR の乗り換えに関しては、鳥屋地区においては「おりひめバスと JR の乗り換えを優先」という意見の割合が「おりひめバス同士の乗り換えを優先」を上回り、鹿西地区においては「おりひめバス同士の乗り換えを優先」の割合が「おりひめバスと JR の乗り換えを優先」を上回っている。

図表 267 おりひめバスと JR の乗り換え

	おりひめバスと JR の乗り換え					構成比				
	●	●	●	●	合計	●	●	●	●	合計
鹿島	53	53	65	131	302	17.5%	17.5%	21.5%	43.4%	100.0%
鳥屋	22	52	41	72	187	11.8%	27.8%	21.9%	38.5%	100.0%
鹿西	37	29	40	69	175	21.1%	16.6%	22.9%	39.4%	100.0%
総計	112	134	146	272	664	16.9%	20.2%	22.0%	41.0%	100.0%

選択肢	
●	おりひめバス同士の乗り換えを優先
●	おりひめバスと JR の乗り換えを優先
●	どちらでもよい
●	わからない



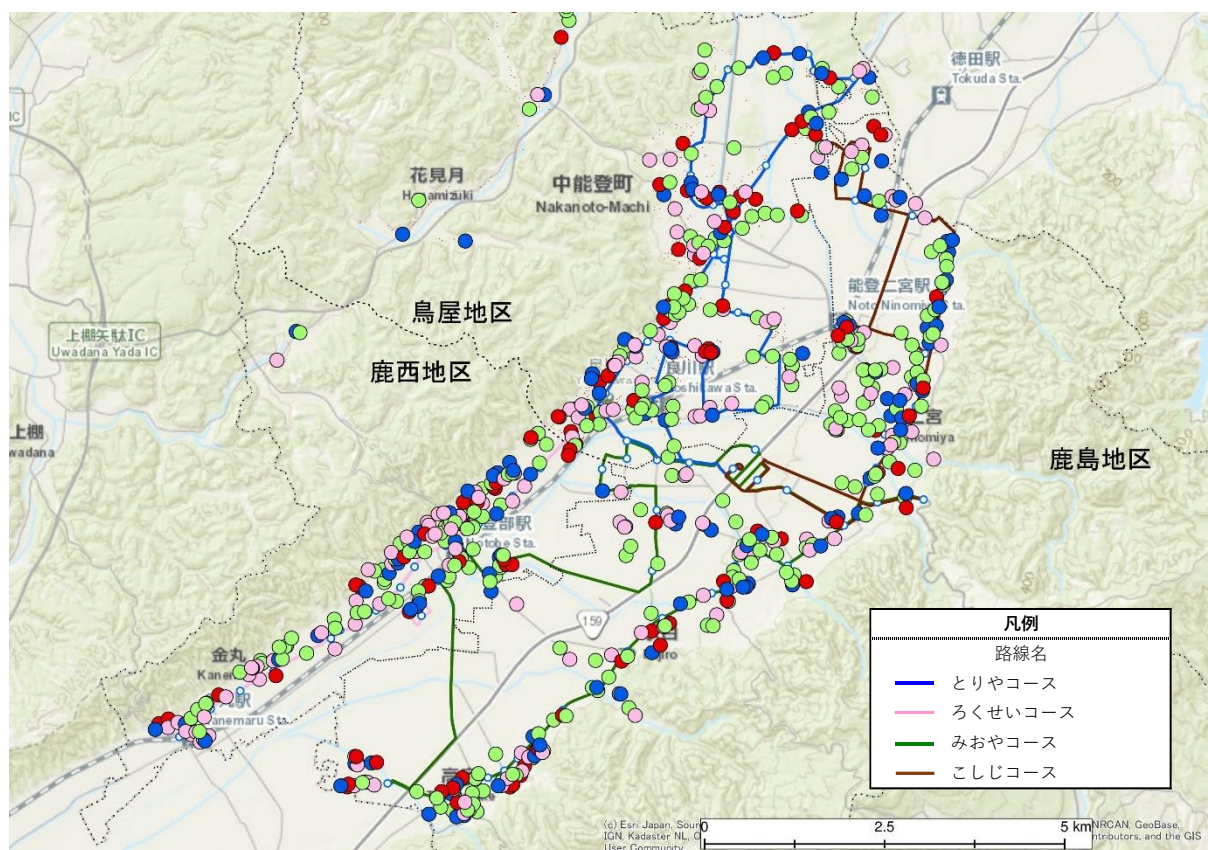
②おりひめバスと路線バスの乗り換え

おりひめバスと路線バスの乗り換えに関しては、鹿島地区、及び鹿西地区においては「おりひめバス同士の乗り換えを優先」という意見の割合が「おりひめバスと路線バスの乗り換えを優先」を上回っている一方、鳥屋地区においては「おりひめバスと路線バスの乗り換えを優先」という意見の割合が「おりひめバス同士の乗り換えを優先」を上回っている。また、

図表 268 おりひめバスと路線バスの乗り換え

	おりひめバスと路線バスの乗り換え					構成比				
	●	●	●	●	合計	●	●	●	●	合計
鹿島	59	40	68	129	296	19.9%	13.5%	23.0%	43.6%	100.0%
鳥屋	30	36	48	73	187	16.0%	19.3%	25.7%	39.0%	100.0%
鹿西	34	25	45	68	172	19.8%	14.5%	26.2%	39.5%	100.0%
総計	123	101	161	270	655	18.8%	15.4%	24.6%	41.2%	100.0%

選択肢	
●	おりひめバス同士の乗り換えを優先
●	おりひめバスと路線バスの乗り換えを優先
●	どちらでもよい
●	わからない



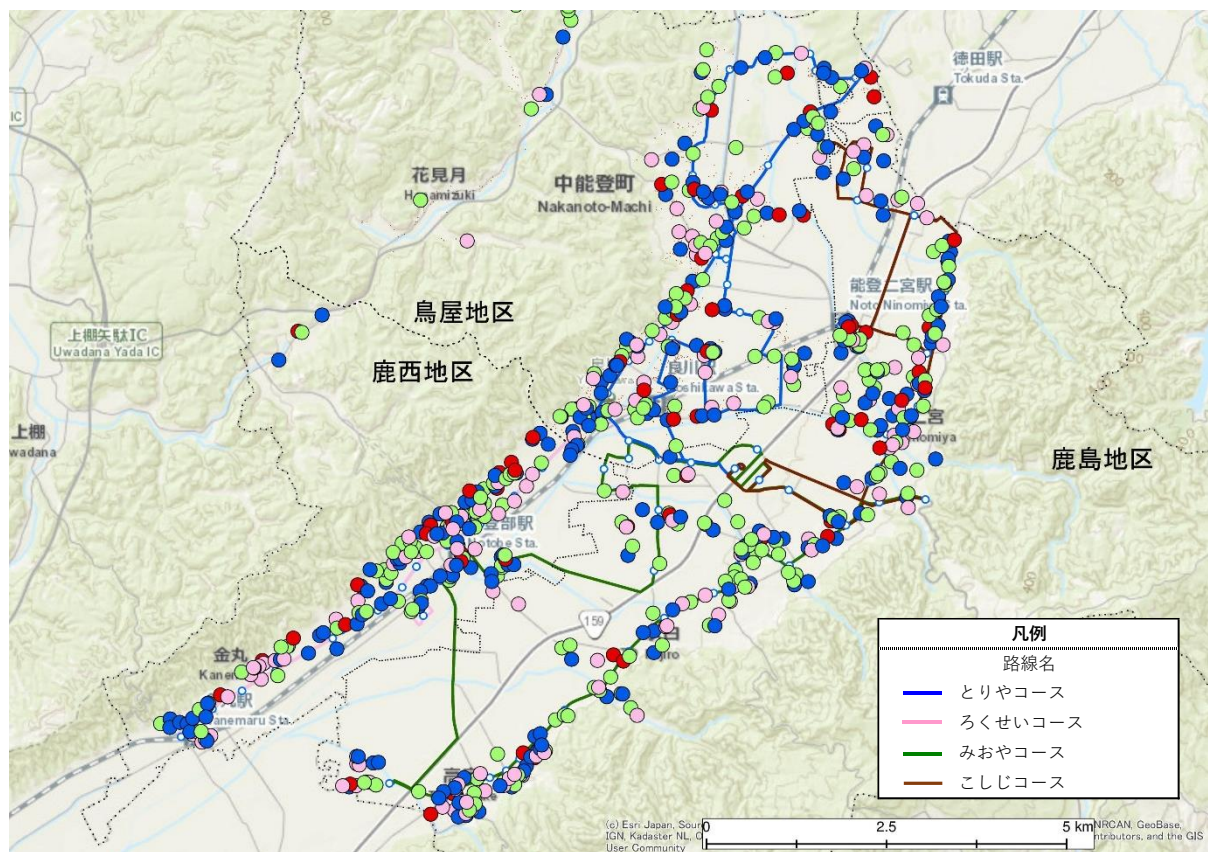
③おりひめバスの便数と運行日について

おりひめバスの便数と運行日については、「わからない」を除いて全地域において「2 時間に 1 便、毎日運行」という意見の割合が最も高くなっている。

図表 269 おりひめバスの便数と運行日について

	おりひめバスの便数と運行日について					構成比				
	●	●	●	●	合計	●	●	●	●	合計
鹿島	97	26	71	109	303	32.0%	8.6%	23.4%	36.0%	100.0%
鳥屋	63	20	39	63	185	34.1%	10.8%	21.1%	34.1%	100.0%
鹿西	66	20	35	55	176	37.5%	11.4%	19.9%	31.3%	100.0%
総計	226	66	145	227	664	34.0%	9.9%	21.8%	34.2%	100.0%

選択肢	
●	2時間に1便、毎日運行
●	1時間に1便、隔日運行
●	どちらでもよい
●	わからない



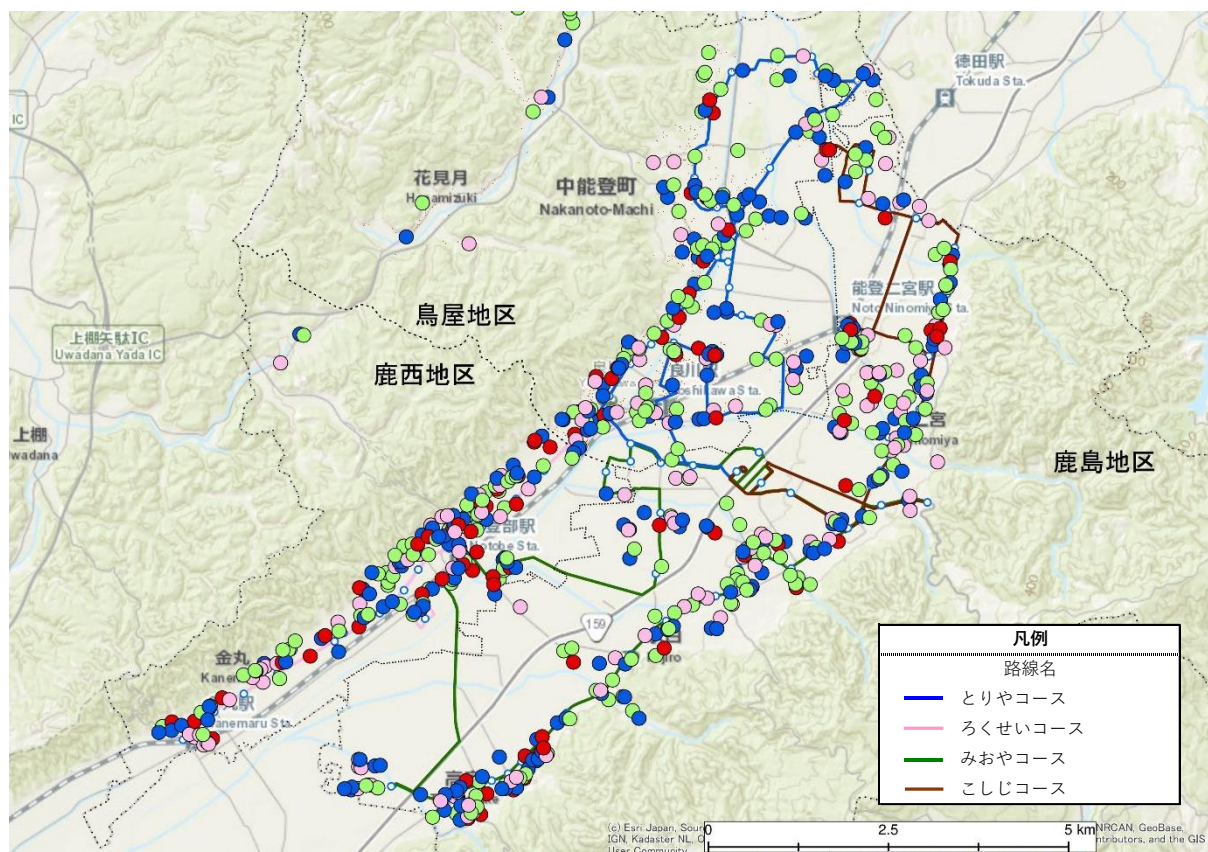
④ルート1 周の所要時間と乗り換えの有無について

ルート1 周の所要時間と乗り換えの有無については、「わからない」を除いて全地域において「1 周1 時間」という意見の占める割合が最も高くなっている。

図表 270 ルート1 周の所要時間と乗り換えの有無について

	ルート1 周の所要時間と乗り換えの有無について					構成比				
	●	●	●	●	合計	●	●	●	●	合計
鹿島	93	33	72	102	300	31.0%	11.0%	24.0%	34.0%	100.0%
鳥屋	64	20	33	65	182	35.2%	11.0%	18.1%	35.7%	100.0%
鹿西	54	31	31	56	172	31.4%	18.0%	18.0%	32.6%	100.0%
総計	211	84	136	223	654	32.3%	12.8%	20.8%	34.1%	100.0%

選択肢	
●	1周1時間
●	1周2時間、乗り換えなし
●	どちらでもよい
●	わからない



4－4．アンケート結果とりまとめ

（１）全体の取りまとめ

設問	設問内容	結果
普段の移動	買い物	・ 買物の行き先は平日、土曜、日祝日のすべてにおいて「アル・プラザ鹿島」が最も多い。 ・ 平日は中能登町内での移動が 71.0％であるが、土曜及び日祝日は 60％程度であった。 ・ 移動手段は平日、土曜、日祝日のすべてにおいて「車（自ら運転）」が最も多く 75％を超えている。公共交通の利用は少なく 3.5％程度である。 ・ 公共交通の利用は平日及び土曜は「おりひめバス」が最も多く 2％程度、日祝日は「JR」が最も多く 1.6％であった。
	通院	・ 平日の通院の行き先は七尾市に所在する「能登総合病院」及び「恵寿総合病院」が多い。土曜は中能登町内の「かじ内科クリニック」が最も多い。 ・ 地区別に行き先をみると、鹿島地区及び鳥屋地区は「能登総合病院」が最も多いのに対し、鹿西地区は地区内にある「安田医院」が最も多く 20.3％であった。 ・ 移動手段は平日、土曜ともに「車（自ら運転）」が最も多く平日が 68.2％、土曜は 66.0％であった。公共交通の利用は少なく平日が 5.0％、土曜日は 0.0％であった。 ・ 公共交通の利用は、七尾市及び羽咋市への通院の際に、鳥屋地区と鹿西地区は JR、鹿島地区は路線バスを利用している傾向にある。
	余暇・娯楽・飲食	・ 余暇・娯楽・食事の行き先は平日・土曜は「道の駅 織姫の里」が最も多く、日祝日は「健康ハウス憩」が最も多い。 ・ 移動方法は平日、土曜、日祝日のすべてにおいて「車（自ら運転）」が最も多く平日は 69.7％、土曜、日祝日は 75％程度である。公共交通の利用は少なく、平日が 5.9％、土曜が 4.1％、日祝日が 3.2％であった。 ・ 公共交通の利用は、平日は「おりひめバス」が最も多く、土曜・日祝日は「JR」が多い。
	通勤・通学	・ 通勤通学先の市町は「七尾市」が最も多く、次いで「中能登町」が多い。 ・ 移動手段について、生産年齢の通勤は「車（自ら運転）」が最も多く 84.9％、次いで「JR」が 3.6％であった。18 歳以下の通学「JR」が最も多く 49.1％、次いで「車（送迎）」で 18.9％であった。
公共交通の満足度	おりひめバス（2018 年実施アンケートより）	・ 不満（「やや不満」「不満」の合計）が最も多いのは「JR への乗り換え」で 37.9％、次いで「路線バスへの乗り換え」が 37.7％、「運行便数」が 27.6％であった。 ・ 鹿島地区と鳥屋地区は「JR への乗り換え」、鹿西地区は「路線バスへの乗り換え」の不満の割合が最も多い。 ・ 18 歳以下は「路線バスへの乗り換え」と「JR への乗り換え」、生産年齢は「JR への乗り換え」、65 歳以上は「路線バスへの乗り換え」不満の割合が多い。
	デマンドタクシー（2018 年実施アンケートより）	・ 不満（「やや不満」「不満」の合計）が最も多いのは「ダイヤの分かりやすさ」で 27.3％、次いで「乗務員の接遇」が 25.0％、「おりひめバスへの乗り換え」が 23.8％であった。 ・ 鳥屋地区と鹿西地区は乗り換えに関する項目、鹿島地区は「ダイヤの分かりやすさ」の不満の割合が多い。 ・ 生産年齢は「おりひめバスへの乗り換え」、65 歳以上は「ダイヤの分かりやすさ」と「乗務員の接遇」の不満の割合が多い。
	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ①運行便数(N=105) 24.8% 12.4% 35.2% 13.3% 14.3% ②始発時刻(N=110) 27.3% 11.8% 40.9% 8.2% 11.8% ③終発時刻(N=100) 27.0% 13.0% 40.0% 8.0% 12.0% ④ダイヤのわかりやすさ(N=104) 25.0% 13.5% 41.3% 13.5% 6.7% ⑤運行ルート(N=101) 15.8% 19.8% 37.6% 17.8% 8.9% ⑥バスの乗車時間(N=105) 19.0% 15.2% 48.6% 10.5% 6.7% ⑦自宅最寄バス停の位置(N=110) 41.8% 15.5% 33.6% 5.5% ⑧バス待ち環境(N=105) 18.1% 12.4% 47.6% 13.3% 8.6% ⑨車内の快適性(N=104) 18.3% 14.4% 55.8% 10.6% 1.0% ⑩乗務員の接遇(N=102) 20.6% 12.7% 52.0% 8.8% 5.9% ⑪おりひめバス同士の乗り換え(N=83) 14.5% 12.0% 56.6% 6.0% 10.8% ⑫路線バスへの乗り換え(N=69) 5.8% 7.2% 49.3% 20.3% 17.4% ⑬JRへの乗り換え(N=66) 9.1% 9.1% 43.9% 19.7% 18.2% ⑭おりひめバス全体の満足度(N=101) 16.8% 13.9% 42.6% 21.8% 5.0% 満足 やや満足 普通 やや不満 不満 （再掲）おりひめバスの満足度 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ①運行便数(N=22) 22.7% 9.1% 50.0% 4.5% 13.6% ②始発時刻(N=21) 23.8% 4.8% 57.1% 4.8% 9.5% ③終発時刻(N=20) 25.0% 10.0% 60.0% 5.0% ④ダイヤのわかりやすさ(N=22) 9.1% 13.6% 50.0% 18.2% 9.1% ⑤乗降できる場所(N=22) 13.6% 13.6% 63.6% 9.1% ⑥呼び出し方法(N=21) 4.8% 19.0% 61.9% 9.5% 4.8% ⑦車内の快適性(N=22) 4.5% 18.2% 72.7% 4.5% ⑧乗務員の接遇(N=20) 5.0% 20.0% 50.0% 15.0% 10.0% ⑨おりひめバスへの乗り換え(N=21) 14.3% 61.9% 9.5% 14.3% ⑩路線バスへの乗り換え(N=16) 18.8% 62.5% 6.3% 12.5% ⑪JRへの乗り換え(N=14) 25.0% 62.5% 6.3% 6.3% ⑫デマンドタクシー全体の満足度(N=18) 11.1% 27.8% 38.9% 22.2% 満足 やや満足 普通 やや不満 不満 （再掲）デマンドタクシーの満足度	

	JR	・不満（「やや不満」「不満」の合計）が最も多いのは「おりひめバスへの乗り換え」で30.3%、次いで「路線バスへの乗り換え」が28.9%、「目的地までの乗車時間」が25.6%であった。 ・鹿島地区と鳥屋地区は乗り換えに関する項目の不満の割合が高い。また、鹿島地区は「最寄駅までの距離」を不満に感じている割合も多い。 ・18歳以下は運行便数に関する項目、生産年齢は乗車時間や運賃、乗り換えに関する項目、65歳以上は乗り換えに関する項目の不満の割合が高い。
	路線バス	・不満（「やや不満」「不満」の合計）が最も多いのは「1日あたりの運行便数」で44.7%、次いで「バス待ち環境」が42.6%、「通勤・通学時間の便数」が37.9%であった。 ・鹿島地区と鳥屋地区は運行便数に関する項目とバス待ち環境、鹿西地区は便数と乗り換えに関する項目の不満の回答が多い。 ・18歳以下及び生産年齢は「バス待ち環境」、65歳以上は運行便数に関する項目の不満の割合が多い。
	0%10%20%30%40%50%60%70%80%90%100% ①1日あたりの運行便数(N=446)8.5%16.8%53.1%16.8%4.7% ②通勤・通学時間の便数(N=391)8.2%14.6%60.1%14.6%2.6% ③始発時刻(N=429)13.3%18.4%61.5%5.4%2.8% ④終発時刻(N=423)12.3%18.7%54.6%11.6%3.7% ⑤ダイヤのわかりやすさ(N=429)14.2%20.0%61.3%0.7%0.2% ⑥ダイヤの正確さ(N=437)24.7%26.3%47.1%1.6%4.9% ⑦運行ルート(N=427)16.2%19.4%58.3%4.9%1.2% ⑧目的地までの乗車時間(N=430)12.6%13.0%48.8%19.8%5.8% ⑨最寄駅までの距離(N=433)16.2%11.1%53.1%13.2%6.5% ⑩運賃(N=437)8.2%13.5%55.8%17.2%5.3% ⑪運行情報の分かりやすさ(ダイヤ・ルート・運賃など)(N=431)9.7%14.8%67.1%7.4%1.9% ⑫待合施設的环境(屋根・ベンチなど)(N=434)7.4%18.4%54.1%15.2%4.8% ⑬車内の快適性(バリアフリーなど)(N=436)6.7%17.4%63.1%10.3%2.5% ⑭乗務員の接遇(N=433)11.1%21.9%64.0%2.8%0.2% ⑮路線バスへの乗り換え(N=339)2.7%6.2%62.2%18.6%10.3% ⑯おりひめバスへの乗り換え(N=310)2.3%3.9%63.5%19.7%10.6% ⑰全体の満足度(N=459)5.9%16.1%64.9%11.5%1.5% 平均 3.08 3.00 3.37 3.26 3.43 3.74 3.44 3.07 3.17 3.02 3.25 3.08 3.15 3.41 2.72 2.67 3.13 満足やや満足普通やや満足不満不満 (再掲) JR の満足度	
再編に関する意向	乗り換え(おりひめバスとJR)	・おりひめバス同士の乗り換えを優先する回答者が17.1%、JR駅でおりひめバスとJRの接続を優先する回答者が20.0%であった。 ・公共交通利用者※は、全回答よりJRとおりひめバスの乗り換えを優先する回答の割合が多く、鳥屋地区は特にJRとの接続を優先する回答者が多かった。 ※以下、「公共交通利用者」は問1の直近1ヶ月の外出において、公共交通に該当する選択肢を1つ以上選択した回答者を指す。
	乗り換え(おりひめバスと路線バス)	・おりひめバス同士の乗り換えを優先する回答者が19.2%、おりひめバスと路線バスの接続を優先する回答者が15.1%であった。公共交通利用者の回答も全回答と同様の傾向であった。 ・鹿島地区の公共交通利用者は「路線バスとおりひめバスの乗り換えを考慮したダイヤとし、道の駅での乗り換えは考慮しない」が他の地区より多く、18.6%であった。
	おりひめバスの便数と運行日	・2時間に1便で毎日運行が33.7%、1時間に1便で隔日運行が9.8%であった。公共交通利用者の回答も全回答と同様の傾向であった。 ・鳥屋地区の公共交通利用者は、他の地区と比較して1時間に1便で隔日運行の回答が多く16.7%であった。

	ルート1周の所要時間と乗り換えの有無について	・1周1時間で乗り換えあり（A）が32.1%、1周2時間で乗り換えなし（B）が12.7%であった。公共交通利用者の回答も全回答と同様の傾向であった。 ・鹿西地区の公共交通利用者は、1周2時間で乗り換えなしの回答の割合が多く38.5%であった。	（再掲）ルート1周の所要時間と乗り換えの有無のイメージ (A) とりやコース みおやコース 1時間 1時間 乗り換え (道の駅やJR駅など) (B) とりや・みおやコース 2時間
利用促進のための取組	・「わかりやすくダイヤ・ルートを示した冊子の発行」が最も多い。公共交通を利用していない人は「スマートフォンなどでダイヤや位置情報、運賃などを確認できるサービスの配信」、65歳以上は「待合環境の改善」が多い。		
免許返納に対する考えと返納後に欲しいサービス	・免許返納を考える状況は「健康上の理由などで運転ができなくなった時」が最も多く57.2%、次いで「自分の運転に不安を感じたとき」が55.1%であった。 ・運転免許証の返納後にあったら良いと感じるサービスは、「運転免許返納者のための公共交通の定期券などが発行される」が最も多く56.0%、次いで「便数が増えるなどにより、公共交通が便利になっている」が49.2%であった。		
	0%10%20%30%40%50%60%70%80%90%100% 公共交通の乗り方の周知・体験会の実施 17.0% わかりやすくダイヤ・ルートを示した冊子の発行 43.6% スマートフォンなどでダイヤや位置情報、運賃などを確認できるサービスの配信 27.0% 公共交通利用者が町内施設やイベントで特典を得られる仕組みづくり 16.5% 公共交通機関同士が連携した電子決済の導入 7.7% 待合環境の改善 21.3% その他 9.4% 特にない 21.7% (N=690) （再掲） 利用促進の取組 0%10%20%30%40%50%60%70%80%90%100% 現在、運転免許証の返納を考えている 3.3% 自分の運転に不安を感じた時 55.1% ()歳になった時 9.2% 中能登町の運転免許証の自主返納に対する支援を受けられる年齢(70歳)になった時 6.8% 家族などに返納をすすめられた時 27.8% 健康上の理由などで運転ができなくなった時 57.2% その他 2.1% 既に運転免許証の返納をしている 1.6% 運転免許証の免許返納は考えていない 22.7% (N=690) （再掲）免許返納に対する考え		
自由記述	・木曜日の運行希望および1時間に1便の運行を希望する意見が5件ずつ、バス停の近接化や終バス時間の延長、能登総合病院等へのアクセス、JRとコミュニティバスとの結節強化を希望する意見が4件ずつであった。 ・便数への不満理由として「アル・プラザの食品館は道の駅の対角にある。道の駅から歩行時間もかかるため、2時間間隔だと実質の買い物時間は限られてくる」という意見もあった。		

（２）地区別の特徴

地区ごとに見たアンケート調査結果の特徴を下表に示す。

図表 271 地区別に見たアンケート結果の特徴

地区	項目	アンケート結果	アンケート結果の要因と考えられる現況
鹿島地区	普段の移動	・買い物の行き先は「アル・プラザ鹿島」が最も多く 34.7%、次いで「どんたくエブリィ鳥屋店」と「ホームセンター ロッキー」が 10.7% ・通院の行き先は「能登総合病院」が最も多く 23.2%、次いで「かじ内科クリニック」が 12.2%、「恵寿総合病院」が 11.8% ・七尾・羽咋への通院における公共交通の利用状況は、路線バスが多い	・路線バスを利用する場合、七尾・羽咋の JR 駅や病院などまで乗り換えなく移動することができる
	公共交通の満足度	・JR について、「おりひめバスへの乗り換え」の不満の割合が 34.3%で他の地区より多い ・JR について、「最寄駅までの距離」の不満の割合が 27.3%で他の地区より多い	・鹿島地区は町内の主要駅である能登部駅と良川駅まで距離がある
	再編の方向性	・乗り換えについて「路線バスとおりひめバスの乗り換えを考慮したダイヤとし、道の駅での乗り換えは考慮しない」が 18.6%で他の地区より多い。 ・便数と運行日について、「2 時間に 1 便のダイヤで、毎日運行」が 44.2%で他の地区より多い。	・アル・プラザ鹿島や天平の里などがコースに含まれており、現行のルート・ダイヤでも 2 時間に 1 本程度の頻度で両施設へのアクセスができる
鳥屋地区	普段の移動	・買い物の行き先は「アル・プラザ鹿島」が最も多く 31.2%、次いで「どんたくエブリィ鳥屋店」が 25.5%、「マツモトキヨシ鹿島店」が 7.5% ・通院の行き先は「能登総合病院」が最も多く 30.1%、次いで「恵寿総合病院」が 17.6%、「かじ内科クリニック」が 7.2% ・七尾・羽咋への通院における公共交通の利用状況は、JR が多い	・羽七西線の撤退により、七尾・羽咋への移動は JR だけになった ・とりやコースは周回ルートであるため、乗車場所によっては良川駅や目的施設までの乗車時間が長くなる
	公共交通の満足度	・おりひめバスについて、他の地区と全体に不満の割合が多く、特に「運行ルート」「路線バスへの乗り換え」「JR への乗り換え」は不満の割合がいずれも 45%を超えている ・路線バスについて、「最寄バス停までの距離」の不満の割合が 35.2%で他の地区より多い	
	再編の方向性	・便数と運行日について、「1 時間に 1 便のダイヤで、1 日おきに運行」が 16.7%で他の地区より多い ・乗り換えについて、「JR とおりひめバスの乗り換えを考慮したダイヤとし、道の駅での乗り換えは考慮しない」が 33.3%で他の地区より多い	
鹿西地区	普段の移動	・買い物の行き先は「アル・プラザ鹿島」が最も多く 29.8%、次いで「どんたくエブリィ鳥屋店」が 17.1%、「食文化 新鮮館 鹿西館」が 12.7% ・通院の行き先は「安田医院」が最も多く 20.3%、次いで「能登総合病院」が 18.8%、「恵寿総合病院」が 18.0% ・七尾・羽咋への通院における公共交通の利用状況は、JR が多い	・羽七西線の撤退により、七尾・羽咋への移動は JR だけになった
	公共交通の満足度	・おりひめバスと JR の乗り換えについて、他の地区より不満の割合が少ない ・路線バスについて、おりひめバスへの乗り換え」の不満の割合が 48.3%で他の地区より多い	・ろくせいコースは往復ルートであり、1 運行中に 3 回 JR 駅に停車するため JR との接続状況が良い
	再編の方向性	・ルート 1 周の所要時間と乗り換えの有無について、他の地区より「1 周が 2 時間で乗り換えなく移動ができるルート」が 36.0%で他の地区より多い	・ルートに利用者の多い買い物施設が少なく、アル・プラザ鹿島および天平の里へのアクセスは帰り便の接続が悪い

5. 地域公共交通の問題点・課題



6. 基本的な方針

6-1. 公共交通のあり方

(上位・関連計画)

(第2次中能登町総合計画)

- ・少子高齢化等を背景に、人材の確保により「にぎわいと活力あるまちづくり」を目指すべく、「公共交通機関の充実」による「安全・安心で快適な住環境づくり」を進める。
- ・歴史・自然や繊維産地など地域固有の資源を活かし、障がい者や高齢者にもやさしいバリアフリー観光の推進を図り、観光交流人口の拡大を図る。



(公共交通に求められること)

- ・「行きたいところに行きやすく」を目標に「JRへの乗り換え」「路線バスへの乗り換え」「運行ルート」の見直しを行い、公共交通体系を再編する。
- ・高齢者など交通弱者の移動手段として、免許返納後の受け皿として、地域公共交通を死守する必要があり、地域として公共交通を支える努力が必要となる。
- ・「運行便数」「バス待ち環境」の向上などサービスの質の向上も求められる。
- ・障害攻略を旗印にまちづくりを展開しており、バリアフリー観光においても障がい者や高齢者にもやさしい交通体系が求められる。



(公共交通の現状・ニーズ)

(公共交通を取り巻く現状)

- ・公共交通の300m勢圏人口カバー率は84%。
- ・H27年からの4年間で人口が3.5%減少する中、コミュニティバスの利用者は横ばいを保つ。しかし経費が28%増加した結果、収支率が4.6%低下(18.0%→13.4%)。
- ・羽七西線の廃止により鳥屋地区のコミュニティバスの利用者数は増加。
- ・小中学校の統廃合等によって登校距離が伸び、スクールバスの運行が拡大。
- ・交通事業者は乗務員の高齢化や人手不足など問題を抱え、経営環境が厳しい。

(町民ニーズ)

- ・普段の生活の主な外出先は、「アル・プラザ鹿島」「どんたくエブリイ鳥屋店」「能登総合病院」「恵寿総合病院」「道の駅織姫の里なかのと」の順。
- ・おりひめバスへの不満の1位はJR4駅あるものの「JRへの乗り換え」。次いで「路線バスへの乗り換え」「運行便数」「運行ルート」「バス待ち環境」の順。
- ・公共交通を利用しない理由は「行きたいところに行けない」が多く、便利になったら行きたい場所は「アル・プラザ鹿島」「七尾市内」「金沢市や羽咋市内」の順。
- ・65歳以上の8割が「自分で自動車の運転ができなくなること」に不安を抱いている。

6-2. 公共交通の手段別の役割

交通手段ごとに役割分担を明確化することで、それぞれの長所を活かした運送の分担による共存を目指し、持続可能な地域公共交通網の形成を図る。

- ・幹線は、遠距離の都市や近隣市町との広域的な移動あるいは複数の生活・交流拠点や市街地を結ぶなど、交通の背骨としての役割を担う。
- ・支線は、幹線を補完するとともに、郊外部や周辺部の生活・交流拠点の足として、また、市街地と観光施設や商業施設などを結び、生活や観光で必要となる交通の役割を担う。
- ・枝線は、幹線や支線の駅やバス停までの乗り継ぎを分担し、交通の維持存続、共存を図り、人口や利用者が少ない地域における身近な交通の役割を担う。
- ・その他、学校や病院など運行者が運営する施設までの特定の利用者の送迎あるいは乗車する者の要請に応じた自由な移動を担う。

図表 272 公共交通の手段別の役割

交通手段	幹線	支線	枝線	その他	役 割
鉄道	■				定時性、速達性に優れ、バスと比較して多数の乗客の移動を支えるとともに長距離に及ぶ七尾市や羽咋市、金沢市等への都市間移動を支える。 JRが4駅もあり、地域間移動を支える。
路線バス	■				鉄道と比較して居住地や目的地までの近接性に優れており、バス停ごとにきめ細かな移動を支える。 主に町内の基幹的道路を通行し、鉄道がない近隣市町や路線内の居住地と目的地への移動を支える。
コミュニティバス		■			主に路線バスの空白地域において、居住地から市街地あるいは目的地への身近な移動を支える。
デマンドタクシー			■		主におりひめバスを補完する役割で地域住民の生活に必要な移動を支える。実施にあたってはタクシーや路線バス等との共存を図る。
タクシー				■	乗客の要請により時間及び目的地など自由な移動を支える。
その他				■	スクールバスのほか、事業所等が独自で行う道路運送法の適用外となる無料送迎など、特定の利用者の移動を支える。

6－3．公共交通が果たすべき役割

地域が目指すべき将来像を実現していく中で、地域公共交通の果たすべき役割は、地域住民の移動手段としてだけでなく、まちづくりと連携した公共交通網の構築や効率的かつ持続可能な交通手段の転換、地域とともに支える公共交通の推進など様々なテーマについて求められている。

【方針1】 地域住民の移動手段の確保

- ・ 町民の日常生活における移動手段の確保
- ・ 運転のできない学生・生徒や高齢者、障がい者、妊婦等の交通手段の確保

【方針2】 まちづくりと連携した公共交通網の構築

- ・ 町内の各地域における拠点（生活拠点、観光交流拠点等）と中心部（道の駅周辺）を結ぶ公共交通網の構築

【方針3】 効率的かつ持続可能な交通手段の転換

- ・ 限られた予算の中での利用者ニーズへの対応

【方針4】 地域とともに支える公共交通の推進

- ・ みんなで守り育てる意識づくり
- ・ 自家用車に依存しない生活スタイルの推進

6-4. 計画の目標

中能登町地域公共交通網形成計画は2020年度から2024年度の5年間を計画期間とする。
計画の目標については、以下に示すとおりである。

指標		目標値		備考
		現況（2018年度）	将来（2024年度）	
I	公共交通の年間利用者数	55,497人	現状維持 (人口減少見込み)	コミュニティバス、デマンドタクシーの利用者合計
II	免許返納者の年間利用数	1,063回 ^{※1}	1,200回	コミュニティバス、デマンドタクシー
III	公共交通の年間収支率 ^{※2}	13.4%	16.0%	コミュニティバス
		7.6%	8.0%	デマンドタクシー
IV	公共交通満足度	30%	50%	アンケート調査 (コミュニティバス)

(※1) 2018年度の免許返納者の年間利用数は2018年10月～2019年9月までの総数
(2018年8月より利用数の追跡を開始したため)

(※2) 収支率＝〔利用料金＋(回数券×100円)〕÷運行委託費

6－5．公共交通再編の基本的方向性

コミュニティバスの運行見直しやM a a Sの導入など公共交通の再編時期を2 0 2 4年度末に照準を定める。

〔前提〕	コミュニティバス	①車両2台	②財源制約（現状）	3 2 0 0 万円
	デマンドタクシー	①車両1台	②財源制約（現状）	3 0 0 万円

方針	問題点・課題	取組の方向性	2020	2021	2022	2023	2024	実施主体
1．地域住民の移動手段の確保	町外への通勤通学が不便	① 鉄道駅・バス停でのパーク&ライド※ ¹ 推進策の検討	検討	実施	実施	実施	実施	中能登町
		② 鉄道駅・バス停でのキス&ライド※ ¹ 推進策の検討	検討	実施	実施	実施	実施	中能登町
		③ 羽七東線の経路検討	検討	検討	実証実験	検証・周知	本格実施	北鉄能登バス
	運行間隔が中途半端で不便	④ ターミナルバス停の機能向上（アル・プラザへ乗り入れ）	検討	検討	実証実験	検証・周知	本格実施	中能登町
	町内外での買い物や通院など	⑤ 利用者数の多い商業施設などへのアクセス性の向上 ※とりやコースはデマンドタクシー化の可否検討が前提	検討	検討	実証実験	検証・周知	本格実施	中能登町
		⑥ とりやコースの徳田駅等 JR 駅への延伸の検討	検討	検討	実証実験	検証・周知	本格実施	中能登町
		⑦ コミュニティバスルートの組み換えにおける利便性向上の検討	検討	検討	実証実験	検証・周知	本格実施	中能登町
2．まちづくりと連携した公共交通網の構築	観光政策との連携	① 観光周遊誘発事業の検討	検討	実施	実施	実施	実施	中能登町
	バリアフリー観光への対応	② 誰もが安心して移動できる移動手段導入の検討	検討	検討	実証実験	検証・周知	本格実施	中能登町
	観光目的の利用	③ コミュニティバスを利用した観光ツアーモデルの検討	検討	実施	実施	実施	実施	中能登町観光協会
	運行情報提供	④ わかりやすい運行情報の提供	検討	実施	実施	実施	実施	中能登町、交通事業者
	運行情報や予約の一元管理	⑤ 乗り換えや目的施設と連動したM a a S※ ² の導入検討 ○ J R ・路線バス・コミュニティバス・デマンドタクシー・タクシー・観光モビリティなどの移動検索予約システム ○病院バスや病院診療の予約や買い物、観光施設情報も提供 ○障害攻略を目的とした二次交通システムの運行（自動運転、A I） ○電子マネー機能付買い物カード（キャッシュレス対応）	検討	検討	検討	検討	実証実験の実施 本格実施の検討	中能登町、中能登町商工会 交通事業者
3．効率的かつ持続可能な交通手段の転換	利用の少ない時間帯、曜日が あり、採算性低下の一因	① 運行曜日、運行ダイヤの見直し検討（木曜運行、第5便廃止の検討）	検討	実証実験	再実証実験	検証・周知	本格実施	中能登町
		② 営業外収益事業の検討（回数券の共同購入や車内広告収入）	検討	実施	実施	実施	実施	中能登町
	運賃の見直し	③ 運賃変更や特別運賃設定の検討（1回の運賃や観光料金など）	検討	実証実験	再実証実験	検証・周知	本格実施	中能登町
4．地域とともに支える公共交通の推進	身近な情報の提供	① わかりやすい総合時刻表マップの発行	実施	更新	更新	更新	更新	中能登町
	免許返納者など利用の啓蒙	② 公共交通に親しむ乗り方教室の実施	実施	実施	実施	実施	実施	中能登町
	バスへの愛着を高める	③ イベントなどと連携したバス利用啓発事業の実施	検討	実施	実施	実施	実施	中能登町・交通事業者

※1 パーク&ライド…都心の外周部や都市周辺部の鉄道駅等に駐車場を設置して、そこから都心部まで公共交通機関を利用すること。
キス&ライド …自動車を用いた送迎による公共交通機関への乗り継ぎシステムで、家族などの親しい個人による送迎システム。

※2 MaaS（マース）…“Mobility as a Service”の略。出発地から目的地までの移動ニーズに対して最適な移動手段をシームレスに一つのアプリで提供するなど、移動を単なる手段としてではなく、利用者にとっての一元的なサービスとして捉える概念。福岡市では現在、トヨタと西日本鉄道により MaaS アプリ「my route」が実証実験中。

7. 目標達成のための施策・事業

方針1 地域住民の移動手段の確保

町内・町外への買い物及び通院や、町外への通勤通学の移動の不便さを解消するため、鉄道駅・バス停へのアクセス性の向上や、商業施設のターミナル機能の強化をすすめる。

取組施策① 鉄道駅・バス停でのパーク＆ライド推進策の検討

概 要	・鉄道駅（町内4駅、徳田駅）および町内主要バス停（道の駅織姫の里、アル・プラザ鹿島など）でのパーク＆ライドを推進により、町外への移動における公共交通利用の促進を目指す。 ・鉄道駅及び町内主要バス停周辺の駐車場情報の周知を進めるなどの取組を検討・実施し、町外への移動における JR 七尾線及び羽七東線の利用を促進する。
実施主体	中能登町
関連する目標	I 公共交通の年間利用者数

取組施策② 鉄道駅・バス停でのキス＆ライド推進策の検討

概 要	・鉄道駅（町内4駅、徳田駅）および町内主要バス停（道の駅織姫の里、アル・プラザ鹿島など）でのキス＆ライドの推進により、町外への移動における公共交通利用の促進を目指す。 ・鉄道駅及び町内主要バス停周辺の安全な乗降場の周知を進めるなどの取組を検討・実施により、町外への移動における JR 七尾線及び羽七東線の利用を促進する。
実施主体	中能登町
関連する目標	I 公共交通の年間利用者数

取組施策③ 羽七東線の経路検討

概 要	・通勤通学の時間帯に鉄道駅付近での乗降が可能となる経路の検討を進めることにより、通勤通学における鉄道駅へのアクセス性の向上を目指す。
実施主体	北鉄能登バス
関連する目標	I 公共交通の年間利用者数

取組施策④ ターミナルバス停の機能向上

概 要	・町民が多く利用している商業施設（アル・プラザ鹿島など）へのコミュニティバス全ルート乗り入れの検討を進めることで、コミュニティバス同士の乗り換えや、コミュニティバスと路線バスの乗り換えができるなど、バス停のターミナル機能の向上を図る。
実施主体	中能登町
関連する目標	I 公共交通の年間利用者数 IV 公共交通満足度

取組施策⑤ 利用者数の多い商業施設などへのアクセス性の向上

概 要	・ 日常の買い物において利用者の多いアル・プラザ鹿島や中能登マイタウンなどの利用者の多い商業施設に、コミュニティバスの全ルート乗り入れの検討を進め、商業施設などへのアクセス性を向上させる。 ・ 商業施設などへの乗り入れに伴うダイヤやルートの見直しによりコミュニティバスの利便性が低くなる地域における、デマンドタクシーなどの代替交通の導入可能性の検討も行う。
実施主体	中能登町
関連する目標	I 公共交通の年間利用者数 II 免許返納者の年間利用数 IV 公共交通満足度

取組施策⑥ とりやコースの徳田駅等 JR 駅への延伸の検討

概 要	・ 羽七西線の撤退により鳥屋地区からの七尾市方面への移動に不便が生じている。おりひめバスとりやコースの JR 駅への延伸を検討することで、七尾方面へのアクセス性の向上を図る。 ・ P191 以降の別添資料に下記の変更案 2 案を示す。 変更案 1 JR 能登二宮駅への延伸 変更案 2 JR 徳田駅への延伸
実施主体	中能登町
関連する目標	I 公共交通の年間利用者数 II 免許返納者の年間利用数 IV 公共交通満足度

取組施策⑦ コミュニティバスルートの組み換えにおける利便性向上の検討

概 要	・ ルート延長や周回時間の制約がある中で町内施設や JR 駅への乗り入れを実現するため、ルートの短縮や変更、コース間でのバス停の調整を行い、効率的な運行を目指す。 ・ 往復ルートの検討を行うことにより、利便性の向上を目指す。 ・ 変更案の詳細は P191 以降の別添資料の変更案 2 に示す。
実施主体	中能登町
関連する目標	I 公共交通の年間利用者数 IV 公共交通満足度

方針２ まちづくりと連携した公共交通網の構築

町内の生活拠点施設及び観光交流拠点施設と町の中心部（道の駅周辺）を結ぶ公共交通網を形成するとともに分かりやすい情報の発信や、公共交通同士及び商業施設・医療施設と連動したサービスの検討を行うことで、より使いやすい公共交通を目指す。

取組施策① 観光周遊誘発事業の検討

概 要	・コミュニティバスを利用して訪れることができる観光地や観光交流拠点施設について、周遊を促すスタンプラリーや周遊マップなどの検討・作成をすることにより、観光によるコミュニティバスの利用を促進する。
実施主体	中能登町
関連する目標	I 公共交通の年間利用者数

取組施策② 誰もが安心して移動できる移動手段導入の検討

概 要	・障がい者や高齢者など誰もが安心して移動ができるよう、車椅子対応の車両を使った福祉タクシー※や公共交通の乗り場と目的地を結ぶ自動運転モビリティ※の導入の検討を進める。 ・観光地への対応も行うことにより、来訪者も含めた利用の検討を行う。
実施主体	中能登町
関連する目標	I 公共交通の年間利用者数

取組施策③ コミュニティバスを利用した観光ツアーモデルの検討

概 要	・観光によるコミュニティバスの利用を促進するため、コミュニティバスを利用した観光モデルルートや車内音声ガイドなどのコンテンツ、観光地を巡るコミュニティバスのルート作成などについて検討を行う。 ・1日フリー乗車券など公共交通を気軽に利用できるツールの検討も行う。
実施主体	中能登町観光協会
関連する目標	I 公共交通の年間利用者数

取組施策④ わかりやすい運行情報の提供

概 要	・交通系大手検索サイトへの情報提供を行うなどにより、インターネットでの運行情報の検索を可能にすることで、公共交通の利便性を向上する。
実施主体	中能登町、交通事業者
関連する目標	IV 公共交通満足度

※今期の網形成計画期間中に検討を開始し、技術の動向を見ながら着実に進めていく。

取組施策⑤ 乗り換えや目的施設と連動した MaaS の導入検討

概 要	・複数種類の公共交通による移動や目的施設の検索・予約・決済をシームレスに行うことができるサービス※の検討を行う。 ・病院などの民間施設が運営するバスなどの運行情報を一元的に見ることができるサービスとすることにより、公共交通の利便性向上を目指す。 ・自動運転や AI を活用した障害攻略を目的とした二次交通システムの導入を検討し、多様な方が自由に移動できる環境の整備を目指す。 ・公共交通及び町内施設で利用することができる電子マネー機能付買い物カードを発行しキャッシュレス化を進めることで、公共交通の利用促進を進める。
実施主体	中能登町、中能登町商工会、交通事業者
関連する目標	I 公共交通の年間利用者数 II 免許返納者の年間利用数 IV 公共交通満足度

※今期の網形成計画期間中に検討を開始し、技術の動向を見ながら着実に進めていく。

方針 3 効果的かつ持続可能な交通手段の転換

利用者のニーズに合わせたコミュニティバスの運行の見直しや運賃以外の収益事業の検討を行い、効率的な運行の実現による持続可能な公共交通への転換を目指す。

取組施策① 運行曜日・運行ダイヤの見直しの検討

概 要	・コミュニティバス利用者のニーズの把握を継続的に行い、利用の少ない曜日や便の運行について見直すことにより、ニーズに合った効率的な運行による、収支率の改善を目指す。 ・運行曜日の見直しでは、利用ニーズがある木曜日の運行及び、利用が少ない日曜日の廃止について実証実験も行いながら検討を進める。 ・運行便の見直しでは、現在利用が少ない各ルート第 5 便の廃便について、実証実験を行いながら検討を進める。
実施主体	中能登町
関連する目標	I 公共交通の年間利用者数

取組施策② 営業外収益事業の検討

概 要	・運賃収入だけでなく、車内広告の募集など営業外の収益事業の検討により収入増を目指す。 ・回数券の共同購入など、地域や個人の利用状況にあった運賃の支払ができる方法の検討を進め、安定的な運賃収入を確保する。
実施主体	中能登町
関連する目標	III 公共交通の年間収支率

取組施策③ 運賃変更や特別運賃設定の検討

概 要	・コミュニティバスの適正な運賃や、観光料金などの利用目的に合わせた運賃設定など、持続可能な運行に向けた料金の見直し・検討を進める。
実施主体	中能登町
関連する目標	Ⅲ 公共交通の年間収支率

方針4 地域とともに支える公共交通の推進

町内の公共交通のルートやダイヤをわかりやすく示した総合時刻表の発行や、公共交通の乗り方の周知、イベントなどと連携した公共交通利用啓発事業を実施することにより、地域の人が乗って守る公共交通を目指す。

取組施策① わかりやすい総合時刻表マップの発行

概 要	・町内の公共交通のルートや路線を示した総合時刻表マップをよりわかりやすく更新する。 ・コミュニティバスと JR 線や路線バスの乗り継ぎをわかりやすく整理し示すことにより、町外への移動における公共交通の利用を促進する。
実施主体	中能登町
関連する目標	I 公共交通の年間利用者数 II 免許返納者の年間利用数 IV 公共交通満足度

取組施策② 公共交通に親しむ乗り方教室の実施

概 要	・コミュニティバスをはじめとした公共交通の乗り方を体験出来る番組（CATV）やイベントを実施することで、公共交通の利用に対するハードルを下げ、利用促進を図る。 ・町会や老人クラブなど各種団体に出向き乗り方教室を実施することで、高齢者などの公共交通の利用促進を図る。
実施主体	中能登町
関連する目標	I 公共交通の年間利用者数 II 免許返納者の年間利用数 IV 公共交通満足度

取組施策③ イベントなどと連携したバス利用啓発事業の実施

概 要	・町内イベントに合わせた「バス無料の日」の実施や、商業施設及び道の駅、温浴施設などと連携した公共交通利用特典のキャンペーンの実施などを検討することにより、日常的に公共交通を利用していない人の利用啓発を進める。
実施主体	中能登町・交通事業者
関連する目標	I 公共交通の年間利用者数 II 免許返納者の年間利用数 IV 公共交通満足度

(別添) 方針 1. 取組施策⑥、及び⑦ とりやコースの徳田駅等 JR 駅への
延伸の変更案

(1) 変更案の概要

能登二宮駅及び徳田駅へ延伸させる 2 案を提案する。詳細は次頁以降に示すが、周回距離 20km 程度の制約の中で、それぞれにメリット、デメリットがある。今回は 2 案の提示にとどめ、次年度以降引き続き検討を行うものとする。

変更案	考え方
変更案 1 能登二宮駅への延伸	羽七西線の廃止に伴う鳥屋地区の住民の七尾市方面への移動手段の確保のため、現行のおりひめバスとりやコースを能登二宮駅へ延伸する。
変更案 2 徳田駅への延伸、及び 全コースのアル・プラ ザ等への乗入れ	鳥屋地区の住民の七尾市方面への移動手段の確保のため、七尾市内にある徳田駅へ延伸する。 これに加え、とりやコースの循環運行から往復運行への変更や、アル・プラザ鹿島及び中能登マイタウンへの乗入れを行う案とし、ルート延長が長くならないよう調整するため、利用の少ないエリアの区間短縮を行う。

(2) 変更案の詳細

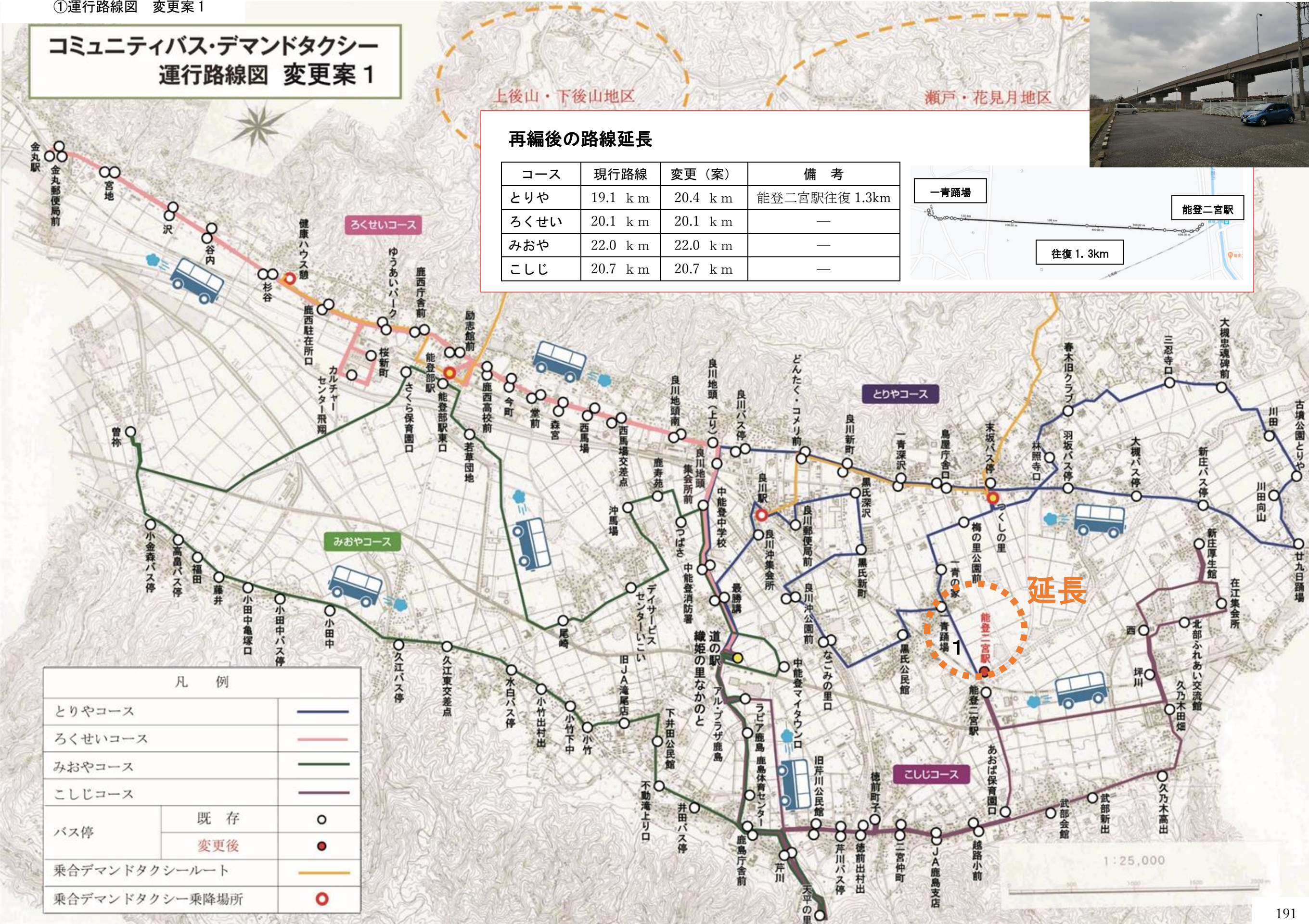
変更案 1

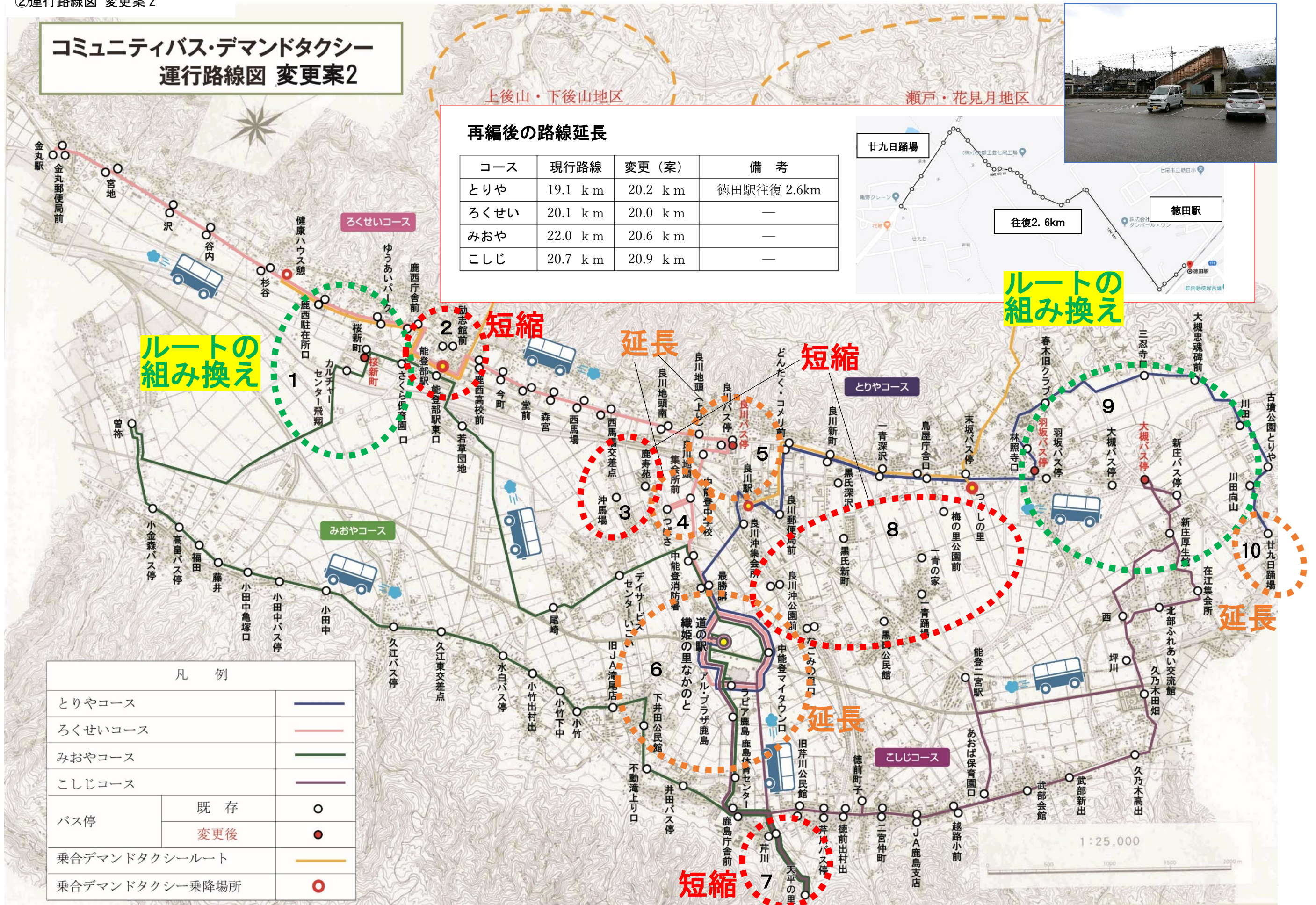
地図の場所	コース名	変更内容
1.能登二宮駅周辺	とりや	延伸の理由 鳥屋地区の JR への乗り換え利便の向上策として能登二宮駅まで延長

変更案 2

地図の場所	コース名	変更内容
1.カルチャーセンター 飛翔周辺	ろくせい	ルートの組み換えの理由 アル・プラザ鹿島や中能登マイタウンへ延長するのに、利用の少ない立寄ルートを短縮し、ろくせいコースの代替としてみおやコースで当該地区を運行
2.能登部駅周辺	ろくせい	短縮の理由 アル・プラザ鹿島や中能登マイタウンへ延長するのに、利用の少ない立寄ルートを短縮
3.鹿寿苑、つばさ周辺	みおや	短縮の理由 アル・プラザ鹿島や中能登マイタウンへ延長するのに、利用の少ない立寄ルートを短縮
4.つばさ	ろくせい	延長の理由 つばさへのアクセスを確保するため、ろくせいでカバー
5.良川バス停	ろくせい	延長の理由 良川バス停へのアクセスを確保するため、ろくせいでカバー
6.アル・プラザ鹿島、 中能登マイタウン周 辺	全コース	延長の理由 アル・プラザ鹿島や中能登マイタウンへの移動実績、要望が多いため
7.天平の里周辺	こしじ	短縮の理由 アル・プラザ鹿島や中能登マイタウン、大槻バス停へ延長するのに、2回乗り入れを1回乗り入れにするように短縮
8.一青、黒氏周辺	とりや	短縮の理由 アル・プラザ鹿島や中能登マイタウン、徳田駅へ延長するのに、利用の少ない立寄ルートを短縮。別途デマンドタクシーの運行を検討。
9.春木、新庄周辺	とりや	ルートの組み換えの理由 利便性向上策として、片方向から往復運行とするための組み換え
10.廿九日周辺	とりや	延長の理由 鳥屋地区の JR への乗り換え利便の向上策として徳田駅まで延長

(3) 路線変更案
①運行路線図 変更案 1





(4) 各変更案における公共交通カバー人口、及びカバー率に与える影響

i) 変更案 1

- 公共交通カバー人口、及びカバー率の変動
公共交通カバー人口、及びカバー率は現況から変動なし

(人口単位：人)		
現況	中能登町人口…①※1	17,943
	バス停300m勢圏人口…②	14,590
	デマンドタクシー運行地区人口…③	415
	公共交通カバー人口…④ (=②+③)	15,005
	公共交通カバー率…⑤ (=④/①)	83.6%
変更案 1	バス停300m勢圏人口…⑥	14,590
	デマンドタクシー運行地区人口…③	415
	公共交通カバー人口…⑦ (=③+⑥)	15,005
	公共交通カバー率…⑧ (=⑦/①)	83.6%
増減	公共交通カバー人口…⑦-④	0
	公共交通カバー率…⑧-⑤	0.0%

※1：令和元年 7 月1日時点の住民基本台帳による

- バス停減少区間※2 別バス停 300m 勢圏人口増減内訳
各区間減少なし

(単位：人)	
区間	バス停300m勢圏人口 減少人数
2	0
3	0
5	0
8	0
合計	0

※2：区間 7 については往復回数を減らしたものであり、バス停 300m 勢圏人口への影響はない

ii) 変更案 2

- 公共交通カバー人口、及びカバー率の変動
公共交通カバー人口は 987 人、カバー率は 5.5 ポイント減少

(人口単位：人)		
現況	中能登町人口…①※1	17,943
	バス停300m勢圏人口…②	14,590
	デマンドタクシー運行地区人口…③	415
	公共交通カバー人口…④ (=②+③)	15,005
	公共交通カバー率…⑤ (=④/①)	83.6%
変更案 2	バス停300m勢圏人口…⑥	13,603
	デマンドタクシー運行地区人口…③	415
	公共交通カバー人口…⑦ (=③+⑥)	14,018
	公共交通カバー率…⑧ (=⑦/①)	78.1%
増減	公共交通カバー人口…⑦-④	-987
	公共交通カバー率…⑧-⑤	-5.5%

※1：令和元年 7 月1日時点の住民基本台帳による

- バス停減少区間※2 別バス停 300m 勢圏人口増減内訳
区間 8 において 760 人と最も大きく減少した

(単位：人)	
区間	バス停300m勢圏人口 減少人数
2	-82
3	-117
5	-28
8	-760
合計	-987

8. 計画の推進及び達成状況の評価

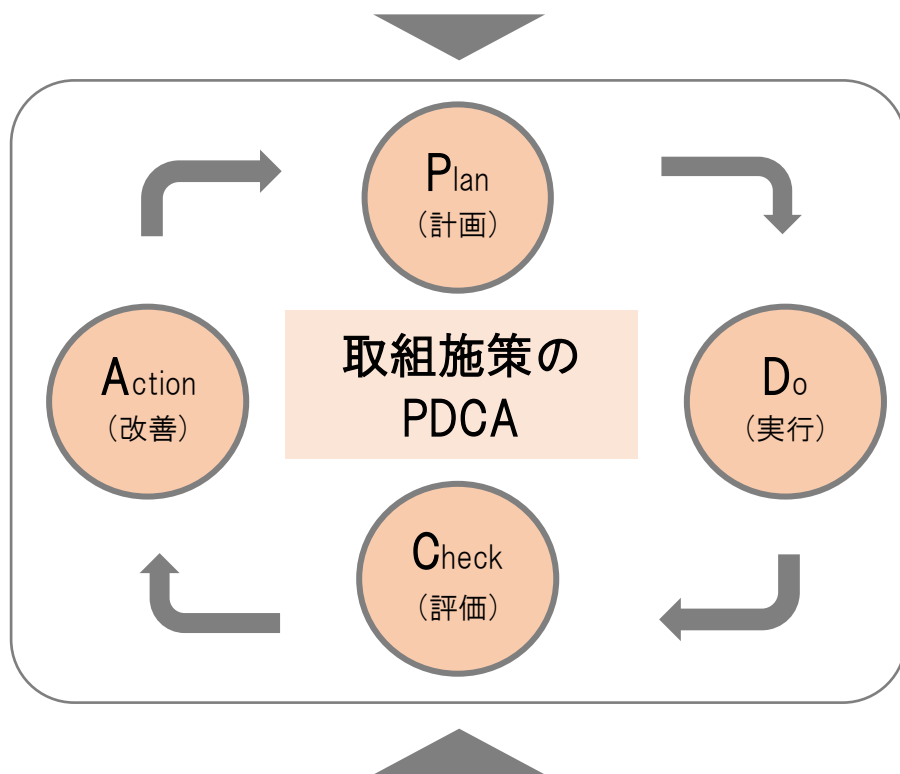
公共交通再編方針の実現に向け、目標達成のための具体的な施策・事業を推進するにあたり、公共交通の利用状況や目標の達成状況、利用者のニーズなどを把握することで、PDCA サイクルを用いた取組の評価・検証を行い、本計画を着実に推進する。

各年、施策取組状況及び目標の達成状況の評価を行い、双方の視点から施策の見直しの必要性について検証を行う。また、町民に公共交通利用の関心を高めてもらうため、町ホームページ等で情報公開を行う。

なお、庁舎の移転や公共施設の統廃合など時世の変化が起こる場合は、適宜、本計画を弾力的に見直し、目標の達成に向けて計画の推進を図るものとする。

【施策取組の評価】

検討、実施、実証実験など施策取組状況の評価を各年実施。



【目標達成状況の評価】

以下の目標について、達成状況の評価・公表を各年実施。

- ・公共交通の年間利用者数
- ・免許返納者の年間利用数
- ・公共交通の年間収支率
- ・公共交通満足度（5年後の計画終了時のみ実施）